

南原遺跡
堂ノ下遺跡
飯塚館跡
発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター



6-1994-132-01

1994

1994
132
6

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

みなみ はら
南原遺跡
どう の した
堂ノ下遺跡
いいい づか たて
飯塚館跡
発掘調査報告書



平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



南原遺跡俯瞰写真（東から）



南原遺跡 S T 8 坑穴住居跡（南から）



南原遺跡 S T 8 遺物出土状況（北東から）



堂ノ下遺跡空中写真



飯塚館跡俯瞰写真（南から）

序

本書は、高畠町の南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚館跡の成果をまとめたものです。

南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚館跡は山形県の南部に位置する東置賜郡高畠町にあります。高畠町は「遺跡とフルーツの町」の名が示すように、豊かな文化と自然に満ちています。中でも日向洞窟や大立洞窟はじめとする全国でも希な洞窟遺跡群は、国史跡に指定されています。

調査では南原遺跡から古墳時代の集落跡が、堂ノ下遺跡からは奈良時代の集落が、さらに飯塚館跡では室町から戦国期の館跡の一部が確認されました。これらは、古代から近世の置賜地方を知る好資料といえます。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適かつ迅速に行われる事が今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センターへ足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々はじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場 清耕

例 言

- 1 本書は一般国道13号米沢南陽道路改築事業に係る「南原遺跡」「堂ノ下遺跡」「飯塚館跡」の緊急発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は平成4年度に山形県教育委員会が主体となり、山形県埋蔵文化財緊急調査団が担当した。資料整理は山形県教育庁文化課の調整を経て、建設省東北地方建設局山形工事事務所の委託により、平成5年4月に発足した財團法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名	南原遺跡 (D TH MH)	遺跡番号	平成3年度登録
所在地	山形県東置賜郡高畠町兼野目字南原		
調査期間	発掘調査 平成4年5月20日～平成5年3月25日		
	現地調査 平成4年6月8日～平成4年9月25日	74日間	
	資料整理 平成5年4月1日～平成6年3月25日		
- 4 遺跡名 堂ノ下遺跡 (D TH D S) 遺跡番号 平成3年度登録
所在地 山形県東置賜郡高畠町兼野目字堂ノ下
調査期間 発掘調査 平成4年8月11日～平成5年3月25日
現地調査 平成4年8月17日～平成4年10月19日 43日間
資料整理 平成5年4月1日～平成6年3月25日
- 5 遺跡名 飯塚館跡 (D TH I Z) 遺跡番号 平成3年度登録
所在地 山形県東置賜郡高畠町兼野目字飯塚
調査期間 発掘調査 平成4年9月18日～平成5年3月25日
現地調査 平成4年9月28日～平成4年10月30日 25日間
資料整理 平成5年4月1日～平成6年3月25日
- 6 発掘調査 平成4年
調査主体 山形県教育委員会
調査担当 山形県埋蔵文化財緊急調査団
調査担当者 佐々木洋治 名和達朗 伊藤邦弘 氏家信行 須賀井新人
資料整理 平成5年
業務主体 財團法人山形県埋蔵文化財センター
業務担当者 佐々木洋治 佐藤庄一 黒坂雅人 伊藤邦弘 氏家信行
- 7 発掘調査及び本書を作成するあたり、建設省東北地方建設局山形工事事務所、高畠町教育委員会、米沢市教育委員会、東南置賜教育事務所等関係機関の協力を得た。また現地調査にあたり阿子島 功氏からご指導を賜った。記して感謝申し上げる。
- 8 本書の作成は南原遺跡に関して伊藤邦弘が、堂ノ下遺跡、飯塚館跡に関して氏家信行が担当した。編集は安部 実、伊藤邦弘が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。
- 9 遺構実測の一部は、株式会社シン技術コンサルに業務を委託した。
- 10 出土遺物については、山形県立きたむ風土記の丘考古資料館が、調査記録類については、財團法人山形県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

1 本書で使用した遺構、遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T	堅穴住居跡	S B	掘立柱建物跡	S Q	製鉄遺構
S K	土壙	S D	溝跡・堀跡	S G	河川跡
E U	埋設遺構	E K	遺構内土壙	E P	遺構内柱跡
R P	土器、土製品	R Q	石製品		

2 遺構、遺物番号は基本的に現地調査段階での番号をそのまま踏襲した。特に遺物番号については、遺構毎に1番から付した。

3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。

- (1) 遺構全図、遺構実測図中の方位は磁北を示している。なおグリッドの南北軸線(Y軸)は磁北から13度45分西へ傾く。
- (2) 遺構実測図は、1/20～1/500の縮尺で採録し各々にスケールを付した。住居跡は全て1/50で表した。
- (3) 遺構の土層記述は、住居跡とカマド及び住居跡と重複する土壙と区別するため1または①で表記した。
- (4) 遺物の実測図、拓影図は原則として1/3で採録し、各々にスケールを付した。但し土、石製品等は1/2で採録したものがある。
- (5) 土器実測図、拓影図の断面では、白ぬきが土師器、黒ぬりが須恵器とした。また、拓影図は右側に外側を左側に内面を表した。
- (6) 掘図中の遺物番号は、本文、図版、表とも共通する。
- (7) 出土遺物観察表中の()内の数値は、図上復元による推計値を示している。
- (8) 基本序号、遺構覆土及び遺物の色調の記載については、昭和45年度版農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色図」に従った。

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	3
第Ⅲ章 調査の経緯	3
第Ⅳ章 南原遺跡	7
1 遺構の分布	7
2 遺構と遺物	7
3まとめ	80
第Ⅴ章 堂ノ下遺跡	81
1 遺構の分布	81
2 遺構と遺物	81
3まとめ	90
第Ⅵ章 飯塚館跡	91
1 周辺の城館跡	91
2 遺構と遺物	91
3まとめ	99
第Ⅶ章 総括	101
報告書抄録	102

表

表-1 南原遺跡・堂ノ下遺跡・飯塚館跡発掘調査工程表	4
表-2 南原遺跡出土遺物観察表(1)	75
表-3 南原遺跡出土遺物観察表(2)	76
表-4 南原遺跡出土遺物観察表(3)	77
表-5 南原遺跡出土遺物観察表(4)	78
表-6 南原遺跡出土遺物観察表(5)	79
表-7 南原遺跡出土石製品、土製品観察表	79
表-8 堂ノ下遺跡出土遺物計測表	90
表-9 飯塚館跡出土遺物計測表	97

挿 図

第1図 遺跡位置図	1	第35図 S T30堅穴住居跡	45
第2図 調査区概要図	5	第36図 S T31・32堅穴住居跡	46
南原遺跡		第37図 S T33堅穴住居跡	47
第3図 南原遺跡遺構配置図	9	第38図 S T35堅穴住居跡	48
第4図 S T1堅穴住居跡	11	第39図 S T36・37堅穴住居跡	49
第5図 S T2堅穴住居跡	12	第40図 S T38堅穴住居跡	50
第6図 S T4堅穴住居跡	13	第41図 S T33・38堅穴住居跡出土遺物	51
第7図 S T5・6堅穴住居跡		第42図 S T51堅穴住居跡	52
S K106・107・108土壤		第43図 S T51堅穴住居跡出土遺物	53
第8図 S T7堅穴住居跡	16	第44図 S T52堅穴住居跡	54
第9図 S T4・6・7堅穴住居跡出土遺物	17	第45図 S T52堅穴住居跡出土遺物(1)	55
第10図 S T8堅穴住居跡	18	第46図 S T52堅穴住居跡出土遺物(2)	56
第11図 S T8堅穴住居跡出土遺物分布図	19	第47図 S B61掘立柱建物跡	57
第12図 S T8堅穴住居跡出土遺物(1)	20	第48図 S B62掘立柱建物跡	58
第13図 S T8堅穴住居跡出土遺物(2)	21	第49図 S Q71・72製鉄遺構	60
第14図 S T11堅穴住居跡	22	第50図 S Q73・E K74・75・76	61
第15図 S T12堅穴住居跡	23	第51図 S Q73・E K74・75出土遺物	62
第16図 S T15堅穴住居跡	24	第52図 E U39・40埋設遺構	63
第17図 S T15堅穴住居跡出土遺物	25	第53図 E U39・40・	
第18図 S T17・26堅穴住居跡	26	S K101・127出土遺物	64
第19図 S T19堅穴住居跡	28	第54図 S G41河川跡、1・2トレチ	65
第20図 S T19堅穴住居跡出土遺物(1)	29	第55図 S G41河川跡、3トレチ	67
第21図 S T19堅穴住居跡出土遺物(2)	30	第56図 S G41河川跡出土遺物(1)	69
第22図 S T20堅穴住居跡	32	第57図 S G41河川跡出土遺物(2)	70
第23図 S T20堅穴住居跡出土遺物	33	第58図 S E60井戸跡	71
第24図 S T21堅穴住居跡	34	第59図 土壙出土遺物(1)	72
第25図 S T21堅穴住居跡出土遺物	35	第60図 土壙出土遺物(2)	73
第26図 S T22堅穴住居跡	36	第61図 石製品、土製品	74
第27図 S T24・29堅穴住居跡	37	堂ノ下遺跡	
第28図 S T24堅穴住居跡出土遺物	38	第62図 堂ノ下遺跡遺構配置図	83
第29図 S T25堅穴住居跡	39	第63図 S T1堅穴住居跡	84
第30図 S T25堅穴住居跡出土遺物(1)	40	第64図 S T2堅穴住居跡	85
第31図 S T25堅穴住居跡出土遺物(2)	41	第65図 S T3堅穴住居跡	86
第32図 S T27堅穴住居跡	42	第66図 S B11掘立柱建物跡	87
第33図 S T27堅穴住居跡出土遺物	43	第67図 S K21・22・23土壙	88
第34図 S T28堅穴住居跡	44	第68図 堂ノ下遺跡出土遺物	89

飯塚館跡

- 第69図 飯塚館跡遺構配置図 92
第70図 基本層序, S D2堀跡,
S D3溝跡土層断面 93
第71図 基本層序, S D2堀跡,
S D3溝跡土層断面 95
- 第72図 S A1柵列跡 97
第73図 飯塚館跡出土遺物 98
第74図 飯塚館跡推定図 100

図版

卷頭図版 1 南原遺跡俯瞰写真

卷頭図版 2 南原遺跡 S T8竪穴住居跡

南原遺跡遺物出土状況

卷頭図版 3 堂ノ下遺跡空中写真

卷頭図版 4 飯塚館跡俯瞰写真

図版 1 南原, 堂ノ下, 飯塚館空中写真

南原遺跡

図版 2 遺跡近景, 遺構検出状況

図版 3 S T3・4・5・6・7・8竪穴住居跡

空中写真

S T4竪穴住居跡カマド
S T8竪穴住居跡カマド,
S T8竪穴住居跡 E P3・R P25,
S T8竪穴住居跡内炭化材と
遺物出土状況

図版 4 S T5竪穴住居跡完掘状況

S T15竪穴住居跡カマド

S T16竪穴住居跡 E P2内 R P13・14

S T11竪穴住居跡

S T18竪穴住居跡

図版 5 S T19竪穴住居跡完掘状況

S T20竪穴住居跡完掘状況

図版 6 S T21竪穴住居跡完掘状況

S T24竪穴住居跡完掘状況

図版 7 S T25竪穴住居跡完掘状況

S T24竪穴住居跡カマド

S T25竪穴住居跡カマド

S T25竪穴住居跡 R P3

S T25竪穴住居跡 R P7

図版 8 S T17・26竪穴住居跡

S T27竪穴住居跡, S T28竪穴住居跡

S T27竪穴住居跡カマド

S T30竪穴住居跡

図版 9 S T28・31・32竪穴住居跡

S T31竪穴住居跡カマド

S T34竪穴住居跡

S T35竪穴住居跡, S T36竪穴住居跡

図版10 S T33竪穴住居跡, S T38竪穴住居跡

図版11 S T33竪穴住居跡カマド

S T38竪穴住居跡カマド

S T38竪穴住居跡カマド

S T51竪穴住居跡カマド

S T51竪穴住居跡 E K1

S T51竪穴住居跡 E K2

図版12 S B61掘立柱建物跡

S B62掘立柱建物跡

図版13 S G41河川跡遺物出土状況

S G41河川跡土層断面

図版14 S Q71断面, S Q72, S Q71, S Q72

S Q71・72完掘状況

図版15 S Q73断面, E K74断面, S Q73, E K74

S Q73・E K74完掘状況

図版16 E U39・40埋設構造土層断面

E U39・40埋設構造完掘状況

図版17 S E60井戸跡土層断面, S E60井戸

図版18 S D42溝跡, S K103土壤

図版19 S K106土壤土層断面

S K107土壤土層断面

S K108土壤土層断面

図版20 S K101土壤 R P1, S K113土壤

図版21 S G41河川跡掘り下げ状況

調査説明会風景

図版22 南原遺跡空中写真

図版23 南原遺跡俯瞰写真

図版24 S T4・6・7竪穴住居跡出土遺物

図版25 S T6・7竪穴住居跡出土遺物

図版26 S T8竪穴住居跡出土遺物 (1)

図版27 S T8竪穴住居跡出土遺物 (2)

図版28 S T8・15竪穴住居跡出土遺物

図版29 S T15竪穴住居跡出土遺物

図版30 S T19竪穴住居跡出土遺物 (1)

図版31 S T19竪穴住居跡出土遺物 (2)

図版32 S T20・21竪穴住居跡出土遺物

図版33 S T21・24竪穴住居跡出土遺物

図版34 S T24・25竪穴住居跡出土遺物

図版35 S T25竪穴住居跡出土遺物

図版36 S T27竪穴住居跡出土遺物

図版37 S T33・38竪穴住居跡出土遺物

図版38 S T51竪穴住居跡出土遺物

図版39 S T52竪穴住居跡出土遺物 (1)

図版40 S T52竪穴住居跡出土遺物 (2)

図版41 S Q・E K出土遺物

図版42 E U・S K出土遺物

図版43 S G41河川跡出土遺物 (1)

図版44 S G41河川跡出土遺物 (2)

図版45 S G41河川跡・土壤出土遺物

図版46 S K・S X出土遺物

図版47 石製品, 土製品

堂ノ下遺跡

図版48 調査区近景, 遺構検出状況

図版49 S T1竪穴住居跡完掘状況

S T2竪穴住居跡完掘状況

S T3竪穴住居跡完掘状況

S B11竪穴住居跡完掘状況

S K21土壤土層断面

S K21土壤完掘状況

図版52 S K22土壤完掘状況

S K23土壤完掘状況

図版53 S T3竪穴住居跡 E P1完掘状況

調査風景

図版54 堂ノ下遺跡俯瞰写真

図版55 堂ノ下遺跡出土遺物

飯塚館跡

図版56 調査区近景, 遺構検出状況

図版57 堀跡東側土層断面

基本層序・S D3溝跡土層断面

図版58 S A1柵列跡 E P1土層断面

S A1柵列跡 E P2土層断面

S A1柵列跡 E P3土層断面

S A1柵列跡 E P4土層断面

S A1柵列跡完掘状況

図版59 飯塚館跡調査区空中写真

図版60 飯塚館跡空中写真

図版61 飯塚館跡出土遺物

第Ⅰ章 調査に至る経過

南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚館跡は平成3年6月に山形県教育委員会が主体となっておこなった遺跡詳細分布調査によって登録された遺跡である。

南原遺跡と堂ノ下遺跡の発見は、平成3年5月28日に一般国道13号米沢南陽道路改築工事に伴う、用地買収後の仮排水路工事中に遭構、遺物が発見されたことをきっかけとする。発見の連絡は米沢市教育委員会にもたらされ、同市文化課により現地の状況確認がなされた。確認後、県文化課に連絡が入り処置を検討したところ、平成3年6月7日に米沢南陽道路に係わる遺跡の現地確認調査をおこなうことになった。米沢市文化課、高畠町文化課の立会のもと現地の確認と周囲の表面踏査をおこなった結果、出土層が深く遺跡範囲の正確な把握は困難と考えられたことから、試掘調査の必要が報告された。また飯塚館跡は、6月7日の現地確認の際、高畠町文化課が持参した平成2年度中世城館跡調査の資料を確認したところ同遺跡が事業地区に入ることが判明した。そこで同年7月3日から5日まで建設省東北地方建設局山形工事事務所、高畠町文化課の立会を得て事業地区内の試掘調査をおこなった。試掘では1m四方の試掘坑を69箇所設定し、地山まで掘り下げたところ25箇所から遺構や遺物が検出された。その結果から、3遺跡の存在が確認され各自所在する小字名から南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚館跡として登録されるに至った。

南原遺跡は、東西180m、南北130mに及ぶ古墳時代の集落跡、堂ノ下遺跡は東西130m、南北90mに及ぶ奈良・平安時代の集落跡、飯塚館跡は東西150m、南北180mに及ぶ中世の城館跡と推定された。(山形県教育委員会1992)また、事業に入る面積は、南原遺跡1,058m²、堂ノ下遺跡3,430m²、飯塚館跡1,270m²であることが判明した。

山形県教育委員会では、この試掘調査の結果をもとに路線計画の変更がなければ文化財保護法による書類手続き後、記録保存のための緊急発掘調査が必要であることを平成3年7月22日付けで建設省に報告した。

発掘調査に至るまでのその後の経過は以下の通りである。

南原遺跡・堂ノ下遺跡・飯塚館跡

平成4年1月14日付けで山形工事事務所長より教育長あてに発掘調査の依頼

平成4年1月14日付けで山形工事事務所長より文化課長あてに調査経費の見積依頼

平成4年4月1日付けで山形工事事務所長あてに回答

平成4年4月28日付けで山形工事事務所長より山形県知事あてに委託契約の協議依頼

南原遺跡

平成4年5月20日付けで委託契約締結

堂ノ下遺跡

平成4年8月11日付けで委託契約締結

飯塚館跡

平成4年9月18日付けで委託契約締結



第1図 遺跡位置図(S=1:25,000)

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

遺跡が所在する高畠町は、山形県の南部、米沢盆地の東部に位置し、東に宮城県、福島県境、南は米沢市に接する。平地では、町内を貫流する屋代川、和田川、松川によって潤された肥沃な水田地帯が広がる。

南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚跡は奥羽本線高畠駅の南西約2kmの国道13号沿いに位置し、高畠町と米沢市の境界、高畠町鷹野目に所在する。地目は水田、畑地、農地、宅地等である。西には後背湿地、氾濫原が広がり、東には三日月型の旧河道が幾重にも見られる。遺跡は、松川左岸の自然堤防及び河間低地に立地し、標高220m前後を測る。遺跡を覆う表層地質は、砂及び泥の冲積地堆積物である。遺跡が確認される面の地質は部分的に砂が見られるものの、大方は幾分粘性のあるシルトである。

高畠町は遺跡や文化財が豊富であり、およそ80箇所の遺跡が登録されている。本遺跡の周辺にも織文から中世に至るまで多くの遺跡が確認されている。中でも蓬田古墳、八幡塚古墳や鷹野目遺跡、中里遺跡等本遺跡と関連が考えられる遺跡が点在する。また、隣接する米沢市でも数多くの遺跡が発見され登録されている。

第Ⅲ章 調査の経過

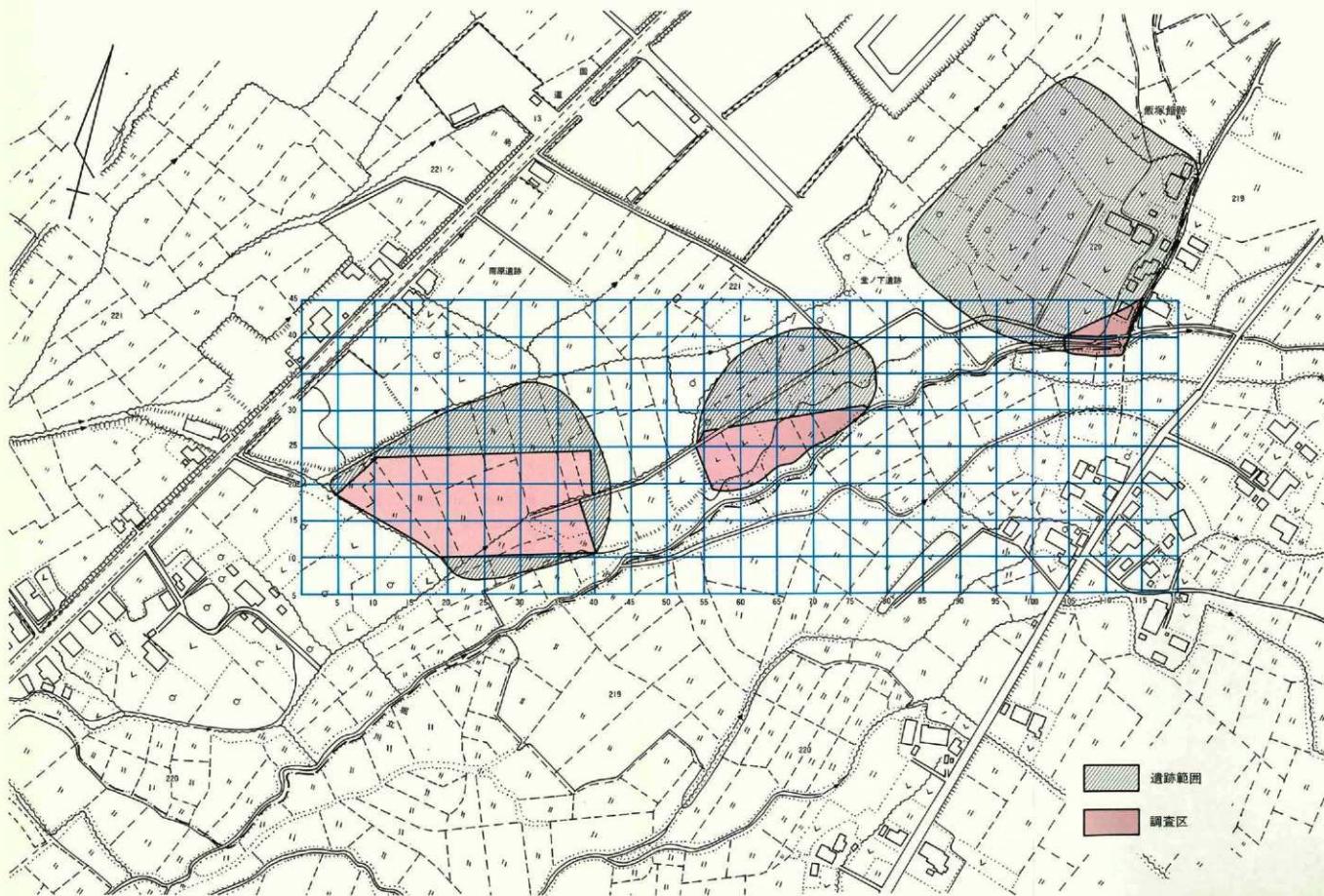
発掘調査の経過は表-1に示した様に、南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚跡の順でおこなった。グリッドは事業用地センター杭No.6の幅杭を基点とし(11-24G), 西から東へX軸とした。1単位は、5m×5mで設定し、3遺跡とも共通するグリッドを用いた(第2図)。調査の方法は、各遺跡とも重機械導入に先だって試掘調査を実施し、遺跡までの層位の再確認をおこなった。その後、粗掘り、面精査、遺構検出、遺構精査、記録等の手順で進めた。遺物の取り上げは、グリッド単位毎にし、遺構内出土の一括資料は、遺構毎に番号を付した。住居跡等で床面直上から出土した遺物に関しては、出土状況平面図、レベル、写真等で記録した。

南原遺跡における重機械による表土除去は、悪天候と河川跡の上部無遺物層削除のため、当初10日間の予定が8日間の延長が余儀なくされ。協議の結果合意された。また南原遺跡及び堂ノ下遺跡では、遺構密度の極めて少ない箇所について、遺構の掘り下げ、譜記録作業終了後、埋め戻して残土置き場とした。飯塚跡のトレンチは堀跡の広がりを確認するため掘り下げたが、旧河道部分にあたると考えられ、検出には至らなかった。堀跡に関しては、隣接する所に農道及び水路があり、崩れるおそれがあったため完掘を避けた。現地説明会は、南原遺跡が9月21日、堂ノ下遺跡、飯塚跡が10月28日に一般を対象にしておこなった。各遺跡とも調査終了後安全対策をとって整地をおこなった。

整理作業は、現地作業終了後、出土遺物の水洗、ネーミングを平成4年度に終了した。報告書の作成を含む資料整理業務は、平成5年4月1日から平成6年3月25日の期間で実施した。

表-1 南原遺跡・堂ノ下遺跡・飯塚館跡発掘調査工程表

月 作業内容	6月	7月	8月	9月	10月
南 原 遺 跡	器材搬入				
	トレンチ調査				
	重機械粗掘				
	面整理				
	遺構検出				
	遺構精査				
	実測図作成				
	写真撮影				
	写真実測				
堂 ノ 下 遺 跡	現地説明会				
	トレンチ調査				
	重機械粗掘				
	面整理				
	遺構検出				
	遺構精査				
	実測図作成				
	写真撮影				
	写真実測				
飯 塚 館 跡	現地説明会				
	トレンチ調査				
	重機械粗掘				
	面整理				
	遺構検出				
	遺構精査				
	実測図作成				
	写真撮影				
	写真実測				
	現地説明会				
	器材搬出				



第2図 調査区概要図(S=1:2,500)

第IV章 南原遺跡

1 遺構の分布

本調査で検出された遺構には、堅穴住居跡、掘立柱建物跡、製鉄遺構、井戸跡、土壙、溝跡、河川跡等がある。調査区中央部には大きく弧を描くSG41河川跡がある。周辺にはこれと同じ形態の弧を描く旧河道がみられる。調査区北半の堅穴住居跡群はこの河川跡に近いほど、川筋に沿った配置がうかがえる。一方南半の堅穴住居跡群には、その傾向が見られず、むしろ川筋からある程度離れた地区に集中し、重複関係も著しい。西側には小規模なビット群や溝跡が見られるものの堅穴住居跡等大型の遺構は見られない。また製鉄遺構が見つかった地区にもその他の大型遺構は見られない。調査区南側では、比高差が1m前後を測り、遺跡の広がりはないものと考えられる。反面北側及び東側では、希薄になるものの遺跡の広がりは十分可能性がある。

2 遺構と遺物

検出した遺構は堅穴住居跡35棟(うち本書に掲載したのは31棟)、掘立柱建物跡2棟、製鉄遺構5基、井戸跡1基、土壙27基(うち本書に掲載したのは10基)、溝跡4条、河川跡1条、ほかビット等である。遺物は堅穴住居跡の床面上での出土が最も多く、次いで河川跡の覆土からである。河川跡は充掘し得なかったが、出土状況は上流(西側)に行くほど少なくなる傾向が認められる。以下主な遺構とそれに伴う遺物の概略を記す。

S T 1 堅穴住居跡(第4図)

調査区北西部、13-22Gに主体を置く。平面形はほぼ正方形で、長軸5.7m、短軸5.6mを測る。多分に削平を受けており、壁の立ち上がりは浅い。床面には3方に周溝状の掘り込みが見られる。柱穴は4基検出されたが、主柱穴は明確でない。カマドまたは、地床炉は確認されなかった。出土遺物は、覆土中から土師器片があり、EP4からは回転杀切の底部を持つ須恵器坏片が出土している。

S T 3 堅穴住居跡(第5図・図版3)

調査区中央北側、21-21Gに主体を置く。平面形は方形で、長軸4.5m、短軸3.7mを測る。削平のため立ち上がりは浅い。柱穴間はEP1とEP2間で1.9m、EP1とEP3間で1.7mを測る。南壁際には、中央にEK1、東西に柱穴がみられる。EK1は住居跡内で深く、外では浅い掘り込みである。カマドは北壁ほぼ中央に位置する。煙道部の張り出しはなく、左袖を一部欠く。カマド内から土師器窓が出土している。

S T 4 堅穴住居跡(第6図・図版3)

22-21Gに主体を置き、一辺5.2mを測る方形の住居跡である。削平が著しく、立ち上がりは深いところでも20cmに満たない。主柱穴間はEP1とEP2間で2.3m、EP1とEP3間で2.4mを測る。カマドは北壁中央に位置する。袖は約50cmと短く、煙道部の張り出しは約70cm認められる。カマドの中には、土師器窓の底部が3個体並んで出土している(2)。南壁東寄りには径1mの土壙が見られる。

S T 5・6 穫穴住居跡（第7図・図版3）

23-22Gに主体を置く重複する遺構である。S T 6はS T 5に切られるが、平面形は両遺構共一辺3.2mを測るほぼ方形と考えられる。S T 6の南東部分に集中して土師器壺等（3～7）の遺物が出土した。また中央部には焼土塊が認められた。遺構内には、径1.3～1.5mを測る円形のS K106, 107, 108土壤及び梢円形のS K109土壤がある。これらの土壤内からは、土師器壺（205）、甕（210, 211）が出土している。この遺構の在り方から、竪穴住居跡として登録したが、問題が残る遺構である。

S T 7 穫穴住居跡（第8図・図版3）

調査区中央北端の24-23Gに主体を置く。長軸7.4m、短軸6mを測る規模の大きな長方形を呈する。立ち上がりは極めて浅い。主柱穴間はE P 1とE P 2の間で3.8m、E P 1とE P 3の間で3.2mを測る。南壁東寄りに焼土が認められたものの、カマドは見られない。遺物の出土は希薄である。

S T 8 穫穴住居跡（第10図・図版3）

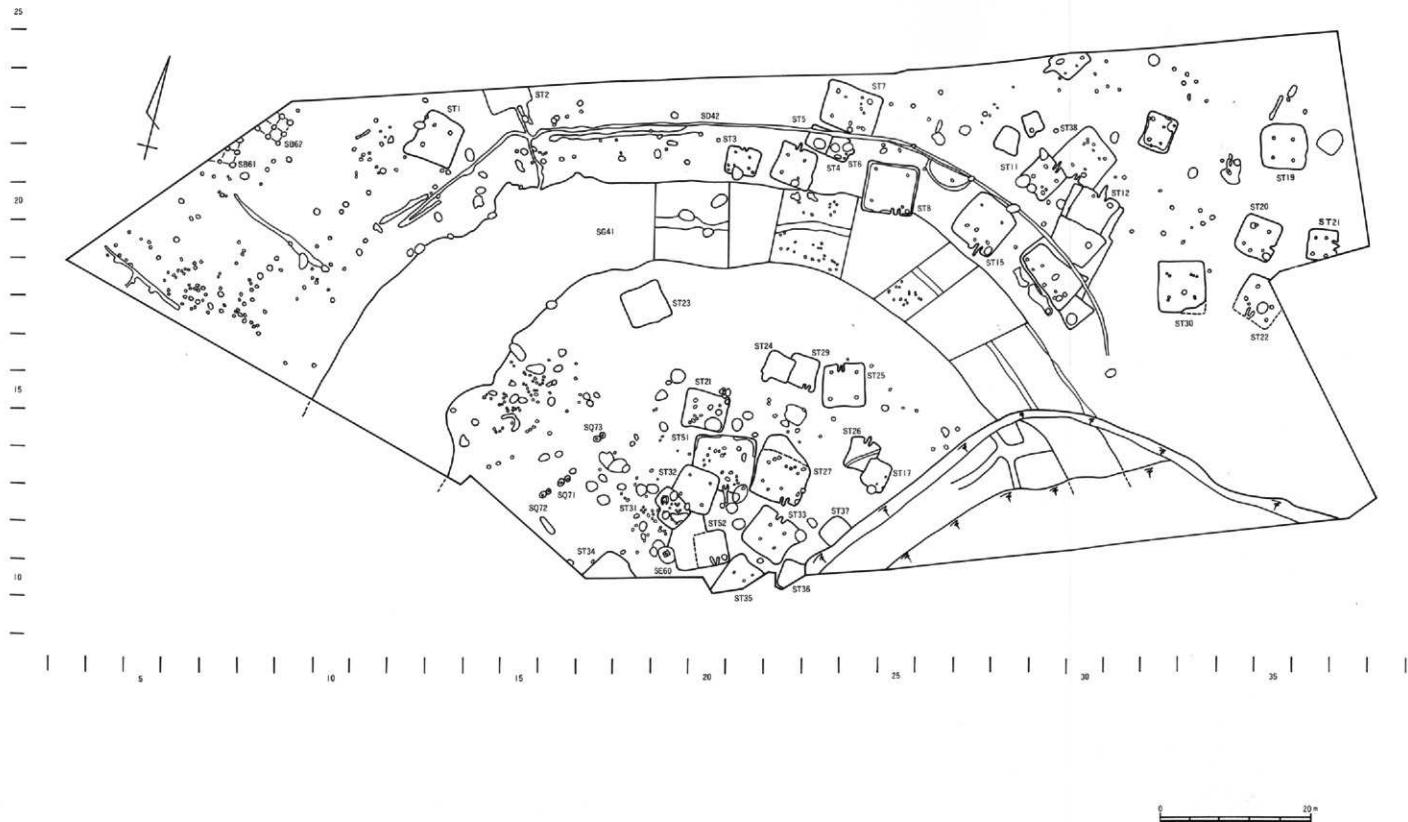
25-21Gに主体を置く、一辺6.7mの方形の住居跡である。壁はほぼ垂直に近い立ち上がりを見せ、深さは約30cmを測る。覆土には多量の焼土と炭化物を含み、床面には炭化材が残ることから焼失家屋であることをうかがわせる。カマドは南壁東寄りに設けられ、張り出しあはほとんど見られないものの、袖は約1mを測る。カマド内には、支脚に利用したと考えられる自然石が1個と、壺、高壺が認められる。カマドと南壁の一部を除いて、幅20cm前後の周溝がある。カマドの左側には径60cmの土壤があり、貯蔵穴と考えられる。主柱穴間は、E P 1とE P 2の間が4.2m、E P 1とE P 3の間が4.1mを測る。なおE P 3は炭化したまま残っていた柱である。遺物はカマド周辺に多く見られ（第11図）、特に東壁際に土師器壺、高壺が集中する特徴が認められる。器種は土師器壺、高壺、鉢、甕、甕の他、須恵器蓋、壺がある。土師器壺は有段で口縁部が直立するものと、段を有しないものが認められる。高壺には明瞭に段がつくものと不明瞭なものが混在し、不明瞭ものは口縁部が強く屈曲し内面に稜を持つもの（23・27・28・30・32）が認められる。甕は小型で単孔式、甕は体部中位に最大径を有するもの（37・38）と、直線的なものが見られる。須恵器は蓋2点、壺口縁部破片1点である。

S T 11 穫穴住居跡（第14図・図版4）

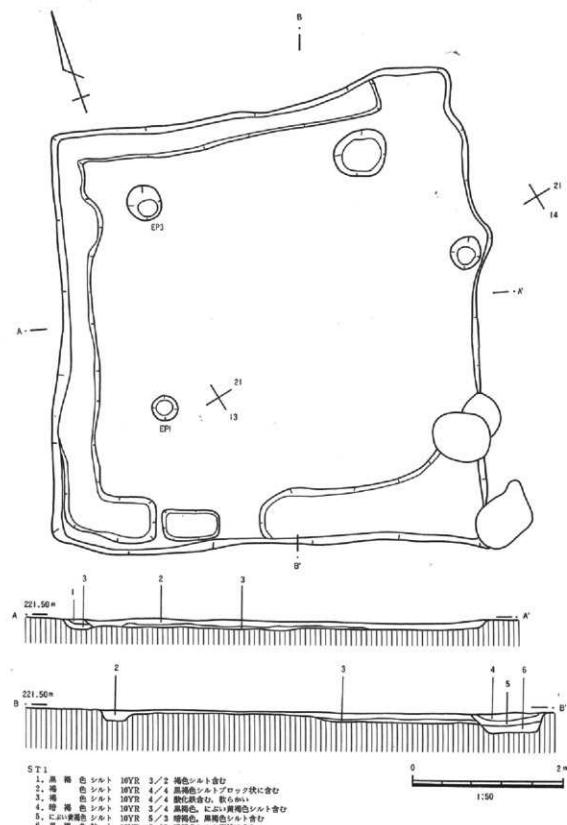
29-21Gに主体を置き、S T 38と重複する。平面形は、一辺4.9mを測る方形を呈する。カマドは北壁の中央にあり、袖の長さは約1m、煙道の張り出しあは70cmを測る。主柱穴間はE P 1とE P 2の間、E P 1とE P 3の間とも2.2mを測る。南壁はS K105によって切られる。遺物の出土は希薄である。

S T 12 穫穴住居跡（第12図）

30-20Gに主体を置く住居跡である。プラン検出の際、5ないし6棟の重複が考えられたが、掘り下げた結果4棟までの確認にとどまった。中でも全形を知り得るものは、S T 12のみである。平面形は、長軸5.2m、短軸5mを測る方形で、立ち上がりは30cmである。



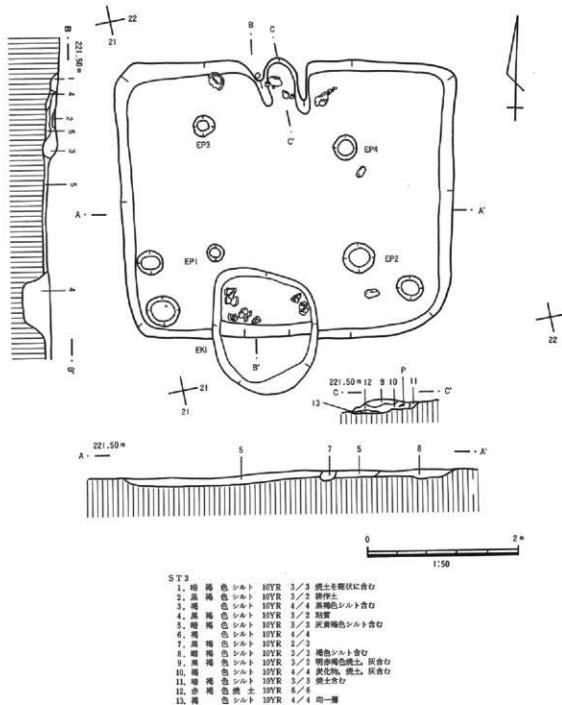
第3図 南原遺跡遺構配置図(S=1:500)



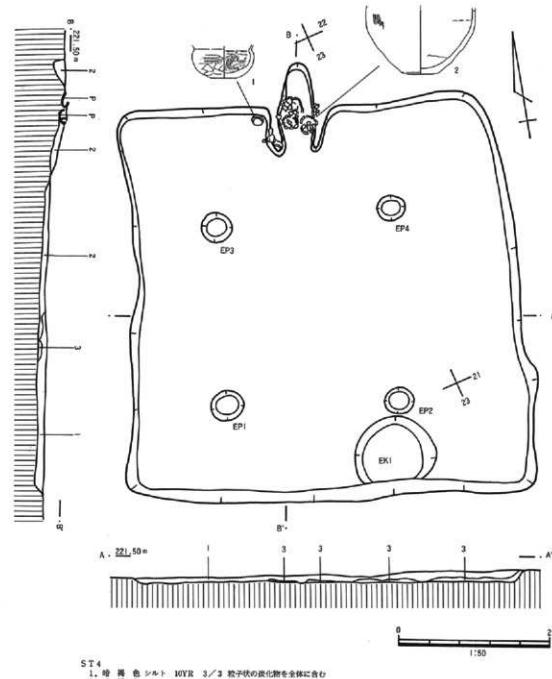
ST1

1. 黒褐色シルト 10YR 3/2 両色シルト含む
2. 黒褐色シルト 10YR 3/4 灰褐色シルト含む
3. 黑褐色シルト 10YR 3/4 灰褐色含む、堅らめ
4. 坚黑褐色シルト 10YR 3/4 黑褐色。に赤い黄褐色シルト含む
5. に赤い黄褐色シルト 10YR 5/3 黑褐色。黒褐色シルト含む
6. 黑褐色シルト 10YR 5/3 黑褐色。堅らめ

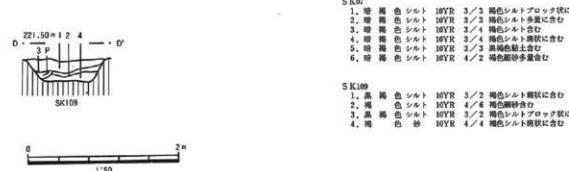
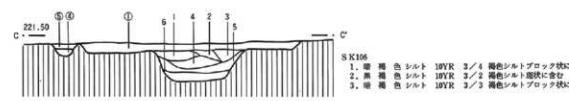
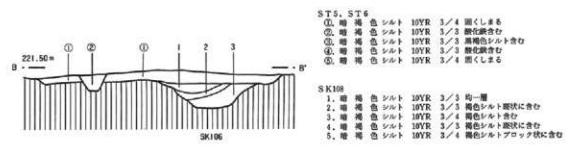
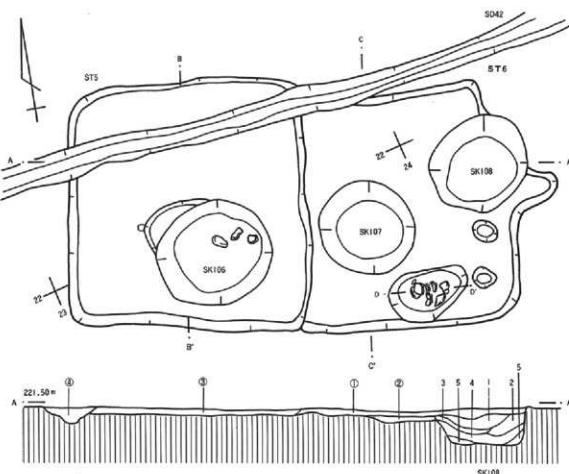
第4図 ST1竪穴住居跡



第5図 ST 3堅穴住居跡



第6図 ST 4堅穴住居跡



第7図 ST 5-6多室住居跡・SK 106-107-108土壌

S T 12に切られる下部の S T 14の床面からは、10cm前後掘り込まれる。カマドは北壁中央に位置し、煙道は約1m張り出す。主柱穴は不明瞭である。遺物の出土も希薄である。

S T 15堅穴住居跡（第16図・図版4）

27-20Gに主体を置く。長軸6.9m、短軸6.6mを測る方形を呈する。カマドは南壁東寄りに位置する。袖の長さは1m、煙道の張り出しあは1.4mを測る。煙道先端の周囲は6基の小穴があがる。カマド左には貯蔵穴と考えられる長径1.1mの楕円形を呈するE K 1土壙がある。一方右側にも南壁から半円形に50cm張り出した形でS K 104土壙がある。土壙の深さは住居跡の床面と同じくことから住居跡に関する施設の可能性も考えられる。また南面及び東面の一部で幅20cm前後を測る周溝が認められる。主柱穴間はE P 1とE P 2の間が3.6m、E P 1とE P 3の間が3.3mを測る。なおE P 2からほぼ完形の土師器鉢が2点（47・49）出土している。遺物の出土状況は、カマド周辺と北西側に片寄る。遺物の器種構成は土師器壺、高环、鉢、甌、甌である。环は有段で口縁部が直立する。高环は1点で、脚部を欠ぐが下位に段を有する大型のものである。鉢は体部中位に最大径を持つもので、ハケリ、ケズリ等の調整がなされる。甌は体部に膨らみをもつ無底式である。

S T 17・26堅穴住居跡（第18図・図版8）

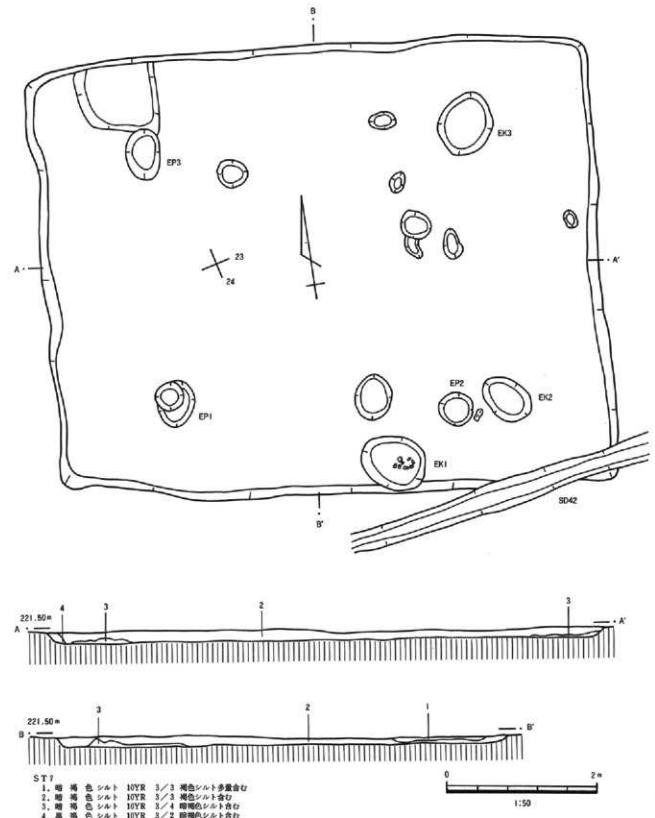
調査区南側東寄りの24-13Gに位置する。重複関係にある住居跡で、S T 26がS T 17に切られる。2棟とも小型で、S T 17が一辺4m、S T 26が一辺約3.5mを測る方形を呈する。カマドはS T 26にのみ認められ、北壁中央に位置する。床面には斜めに浅い溝がみられるが性格は不明である。柱穴は2棟共不明瞭で主柱穴は確認できなかった。

S T 19堅穴住居跡（第19図・図版5）

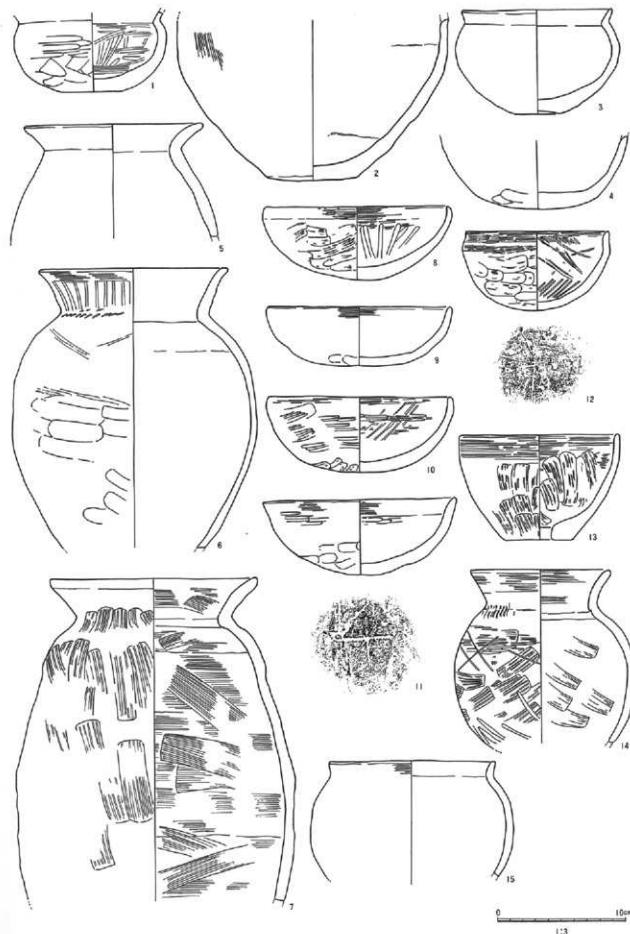
調査区北側東端の35-22Gに位置する。一边6mを測る方形を呈する。住居跡中央やや北側と南東に焼土が認められる。後者は白色粘土と焼土の塊であるが、前者は床面に0.6~1mの不整形な広がりの焼け面で、炭化物を伴うことから、地床灰と考へられる。主柱穴間は約2.6mを測る。出土遺物は、55、57、58、66、68、70、71が床面上から出土であるが、他は覆土1~2層の出土であり、投棄されたものと考えられる。床面から得られた資料の構成は、土師器壺、甌、甌、甌である。环の口縁部形態には3種認められ、調整も各々差違がある。甌は肩部に2個の孔を有し、体部は球形に近い丸みを持つ無底式である。甌は口縁部が強く屈曲し体部中位に最大径を有する。

S T 20堅穴住居跡（第22図・図版5）

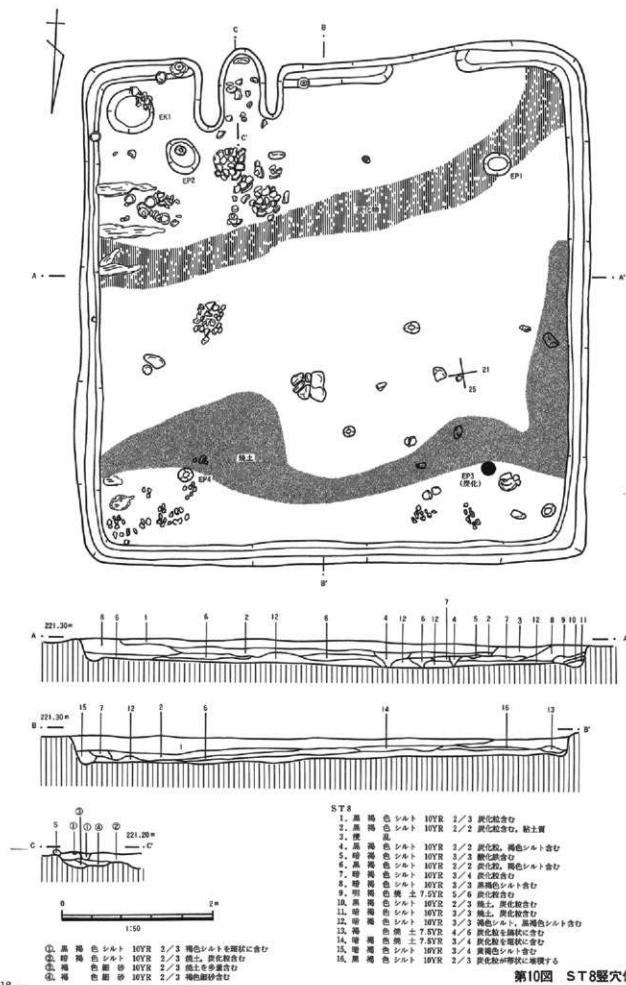
調査区中央東側、35-19Gに主体を置く。平面形は一辺約5.3mの方形である。東壁際中央に焼土の広がりがあり、焼土の右側に台形の突起が認められることから、左袖を欠ぐが、カマドと考えられる。カマドの右側には、長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る土壙があり、貯蔵穴と考えられる。なお遺物の出土はこの周囲に集中する。主柱穴間はE P 1とE P 2の間が2.7m、E P 1とE P 3の間が2.5mを測る。出土遺物は土師器壺、甌、甌、甌がある。环には口縁部を屈曲させ、内面に段を有するもの（73・74）が見られる。甌は直線的に開く小型の単孔式である。甌も小型で、口縁部が屈曲する球洞型である。



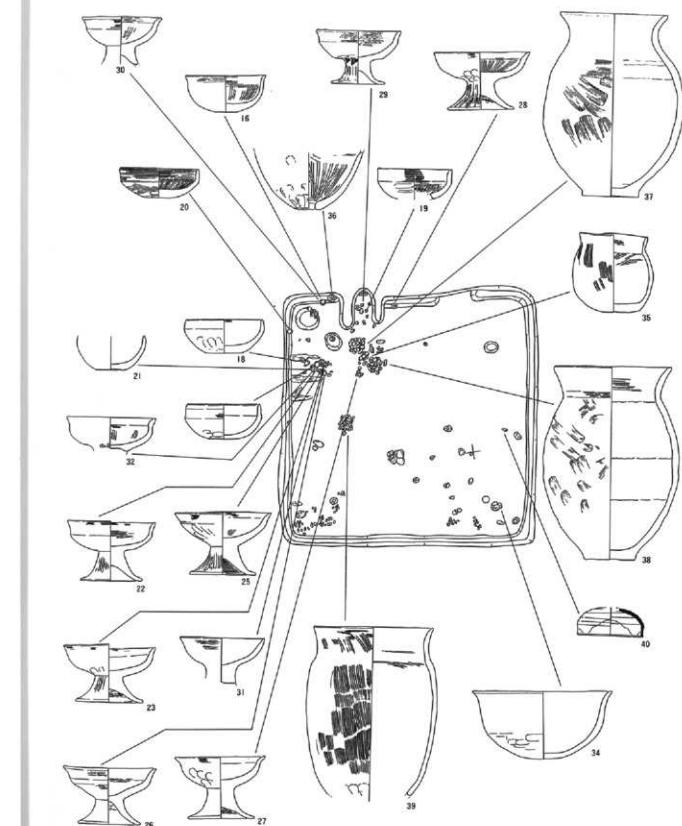
第8図 ST7堅穴住居



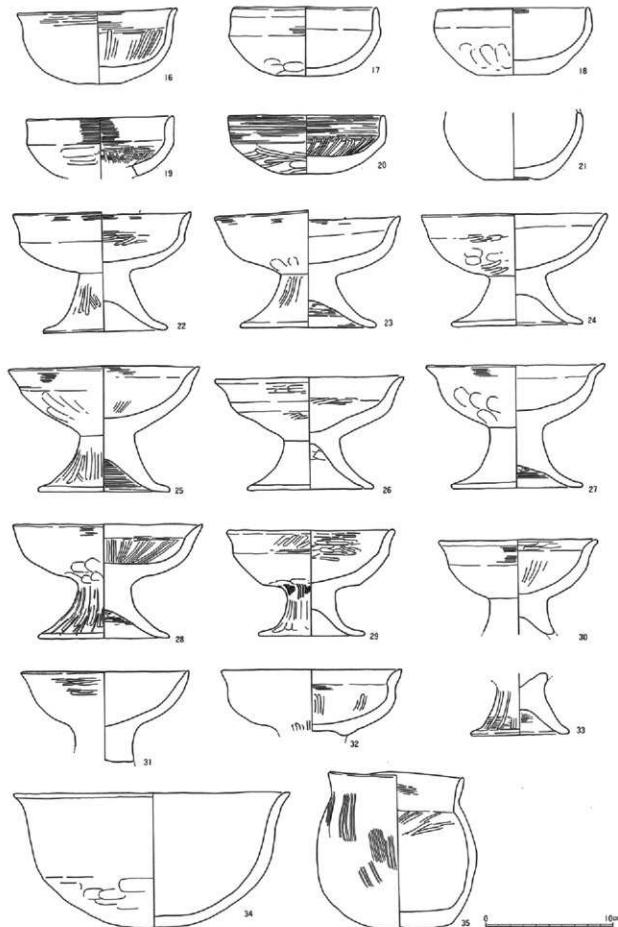
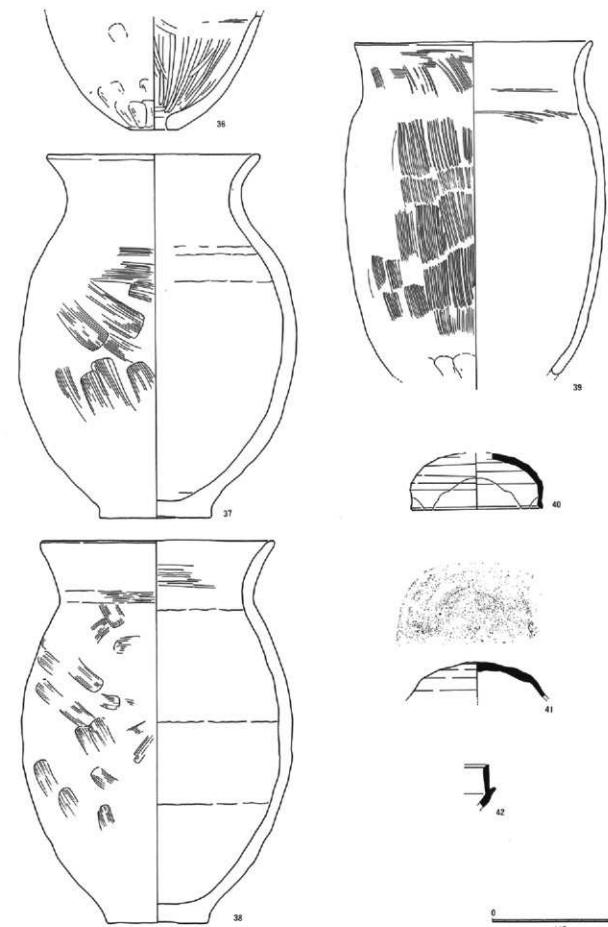
第9図 ST4-6-7堅穴住居出土遺物

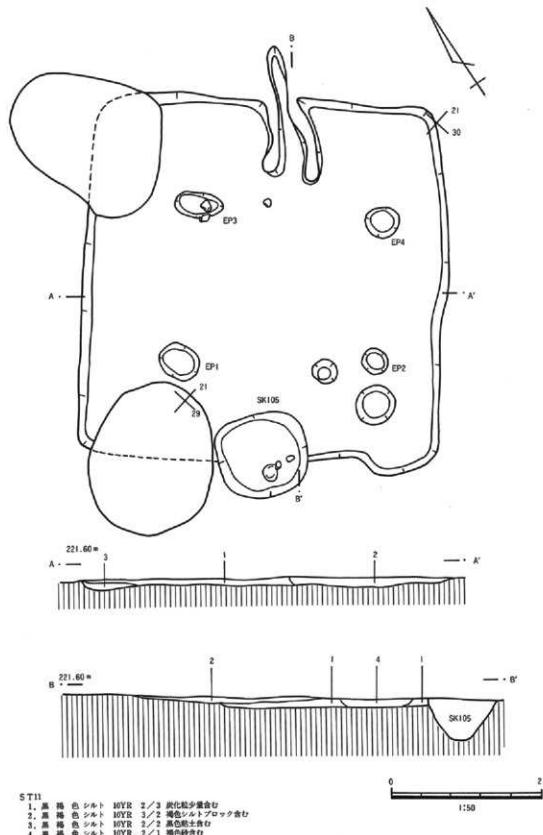


第10図 ST8堅穴住居跡

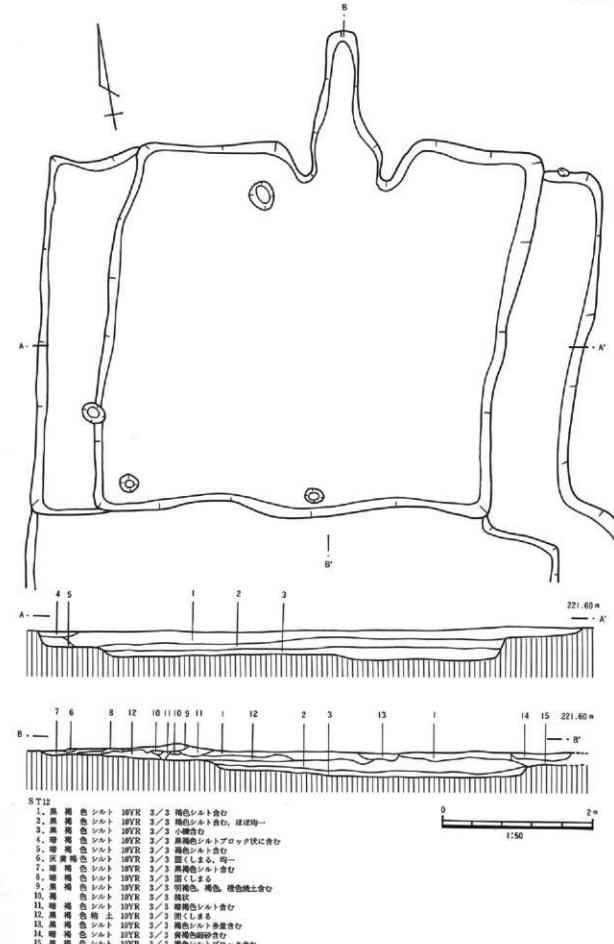


第11図 ST8堅穴住居跡遺物分布図

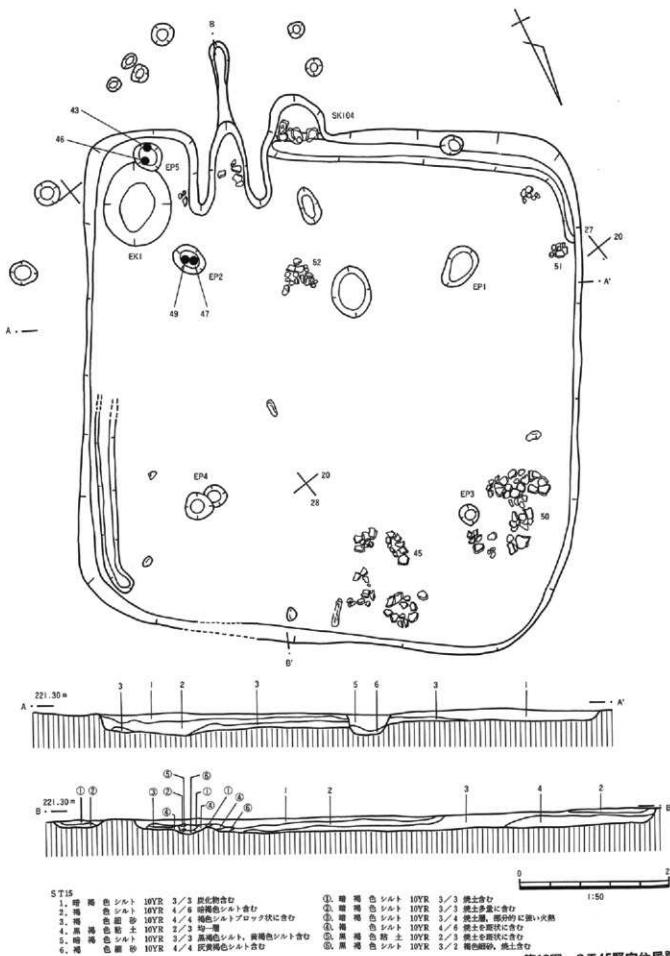
第12図 S T8堅穴住居跡出土遺物¹⁾第13図 S T8堅穴住居跡出土遺物²⁾



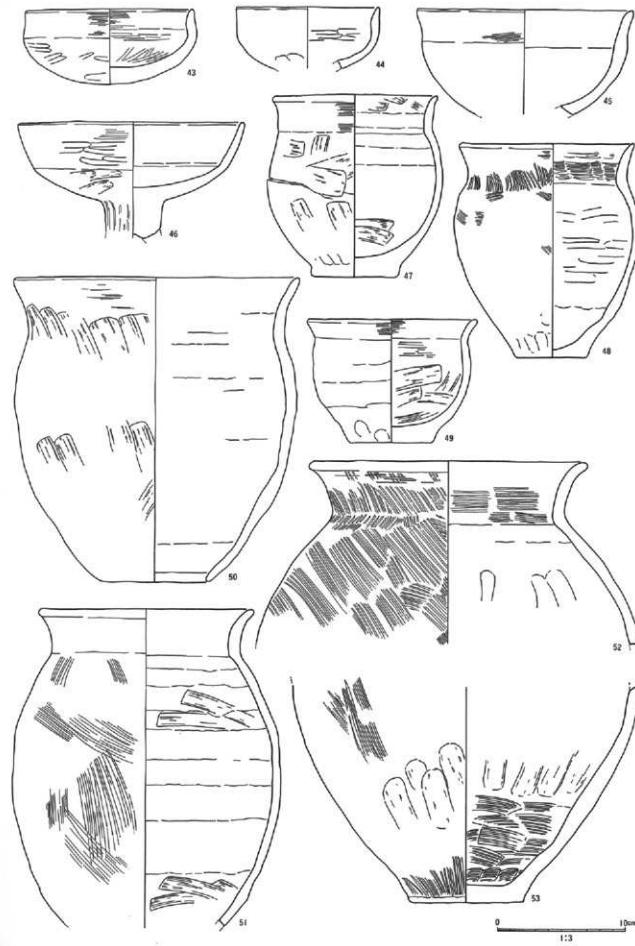
第14図 ST 11竪穴住居跡



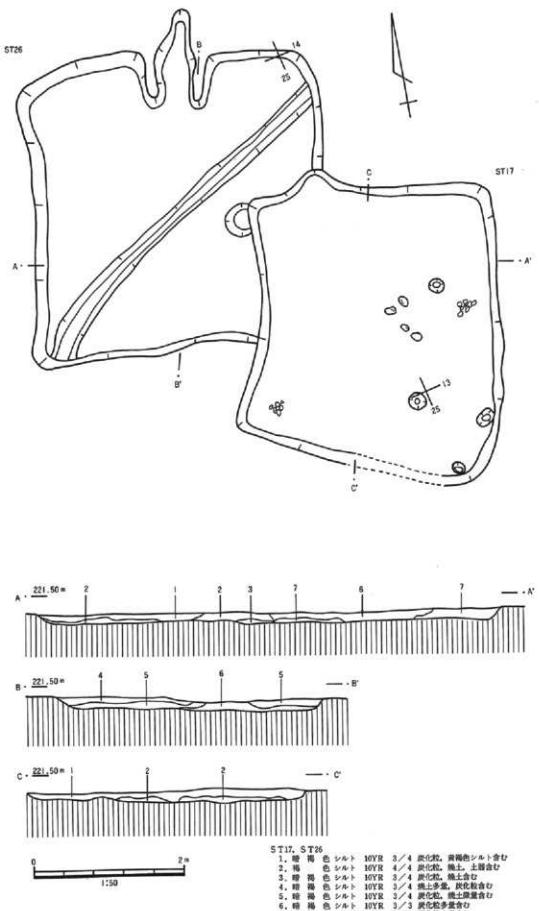
第15図 ST 12竪穴住居跡



第16図 ST15竪穴住居跡



第17図 S T15竪穴住居跡出土遺物



第18図 ST 17-26竪穴住居跡

S T 21竪穴住居跡（第24図・図版6）

調査区東端36-19Gに主体を置く。南東角は調査区外で欠くが、平面形は一辺4mを測る方形の小型住居跡である。立ち上がりはほぼ垂直で、深さは30cm前後を測る。カマドは東壁中央に位置し、右袖の大半を欠く。煙道の裏はほとんど見られない。床面南西角に50~70cmの範囲で白色粘土の広がりがある。この白色粘土は、カマド周辺及び南側を中心として窪状に認められ、貼り床を行ったものと考えられる。主柱穴はE P 4がやや中央に寄っているため、各々の距離はE P 1とE P 2の間は1.9m、E P 3とE P 4の間が1.3m、E P 1とE P 3の間は2m、E P 2とE P 4の間が2.2mと不規則である。遺物の出土状況はカマドを中心とするものの、住居跡全体に広がる。器種は土師器壺、鉢、甌、壺である。壺は口縁部内面に稜を有するもの（82~85）ないものの（86）がある。鉢（87）には1ヵ所に片口状の縫みがある。甌（88）は小型で、手捏の様な垂みがある単孔式である。壺は直線的な体部（89）と、中位に最大径を持つもの（90・91）がある。

S T 22竪穴住居跡（第26図）

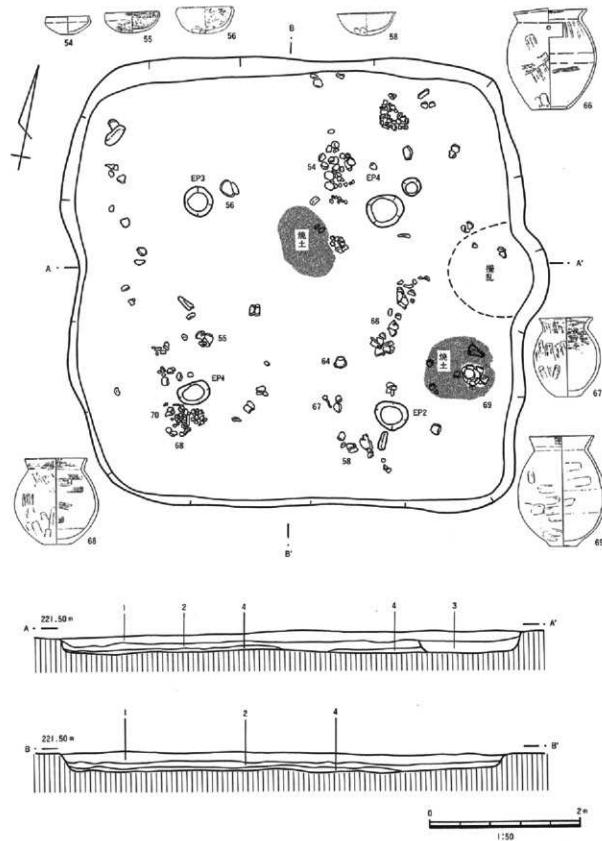
調査区東側35-18Gに主体を置く。北東角は調査区外のため、南側は削平を受け全体の規模は不明である。南側には袖のみが残るカマドが認められる。袖の上からは須恵器片が出土している。住居跡から土壙1基と柱穴6基が検出された。

S T 24・29竪穴住居跡（第27図・図版6）

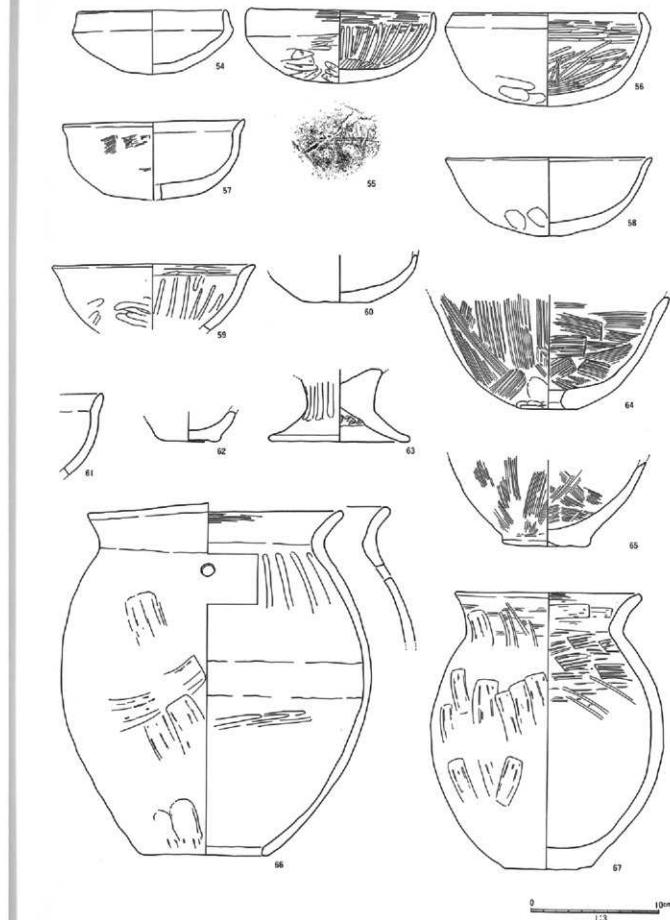
調査区ほぼ中央の22-16Gに主体を置く重複した住居跡である。S T 29はS T 24に切られた。S T 24の平面形は、長軸3.6m、短軸3.2mを測る方形である。カマドは南壁の西寄りに位置する。袖は短く、壁面から20cmほど延びるにとどまり、燃焼部が壁から突出する。両袖の端部には、縦半分の土師器壺を立てて補強を行っている。なお、この壺は同一個体である（96）である。出土遺物は須恵器壺、环、甌、砾石等である。S T 29の平面形は長軸4.2m、短軸3.8mを測る方形を呈する。カマドは南壁東側に位置する。柱穴等は確認できなかつた。掘り込みは浅く、遺物の出土は希薄である。

S T 25竪穴住居跡（第29図・図版7）

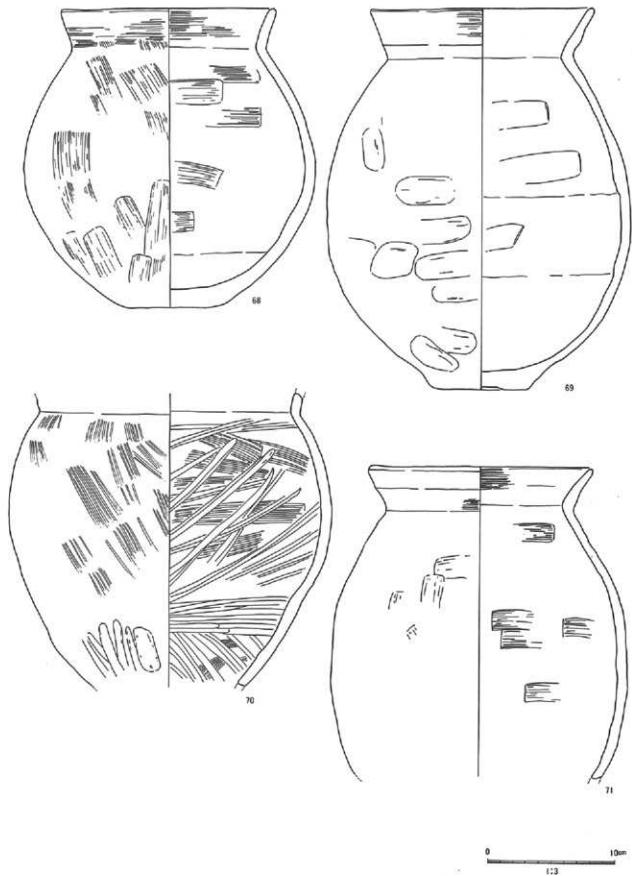
23-15Gに主体を置く。長軸5.8m、短軸5.5mの方形を呈する。立ち上がりはほぼ垂直で。深さは20cm前後を測る。覆土には焼土と炭化物を多量に含む。床面は主柱穴を中心に焼土の広がりが見られる。また柱穴には多量の炭化物が認められたことから、焼失したことをうかがわせる。カマドは北壁中央に位置する。主柱穴は壁から約1m離れた所に設け、柱間は各々3.4mを測る。遺物の出土は、カマド周辺とE P 2の近くに多く見られた。器種は土師器壺、鉢、甌、壺がある。壺は口縁部がわずかに内窓するもの（97~99）、その際に外面に弱い稜を有するもの（100）、また口縁部が屈曲し内面に稜がつくものの（102）がある。木葉痕が見られる平底のもの（101）は、体部が直線的で口縁部内外に稜を有する。内面にはわずかな赤味が認められ、赤彩を施した可能性もある。鉢には複合口縁を有するもの（105）も見られる。甌は口縁部がくの字に開く、球腹、無底のものである。壺には赤彩と複合口縁の痕跡が認められるもの（111）がある。



第19図 ST 19竪穴住居跡



第20図 ST 19竪穴住居跡出土物(1)



第21図 S T19竪穴住居跡出土物(2)

S T27竪穴住居跡 (第32図・図版8)

調査区中央南側の22-13Gに主体を置く。住居跡北側で他の遺構と重複していると考えられるが、内容については不明である。平面形は一辺約7mを測る方形と考えられる。カマドは南壁の東寄りに位置する。柱穴等は14基検出されたが、主柱穴にあたるものは確認できなかった。遺物はカマド周辺からの出土である。器種は土師器壺、鉢、甕等である。

S T28竪穴住居跡 (第34図・図版8)

調査区中央南側の20-15Gに主体を置く。平面形は長軸5.8m、短軸4.8mを測る長方形を呈する。覆土には多量の焼土と炭化物を含む。カマド及び炉は確認できない。床面には径30~90cmの柱穴または小土壤が12基と、径2m前後のE K 1がある。主柱穴間はE P 1とE P 3の間が2m、E P 3とE P 4の間が3.2mを測る。北壁東寄りから、S T 8等のカマドで見られた様な支脚状の自然石が12個まとめて出土している。また北壁際から住居跡外に、E U39、40埋設遺構、S K101、127土壤がある。遺物の出土は希薄である。

S T30竪穴住居跡 (第35図・図版8)

調査区東側の33-18Gに主体を置く。平面形は長軸6.9m、短軸6.4mを測る方形である。削平のため欠いている南東角には焼土塊が認められ、カマドが取り付けられていたものと考えられる。主柱穴はE P 4に3基、他は2基づつ検出された。径は30cm前後と小さく、柱穴間は3~3.5mとばらつきがある。遺物の出土は希薄である。

S T31・32竪穴住居跡 (第36図・図版9)

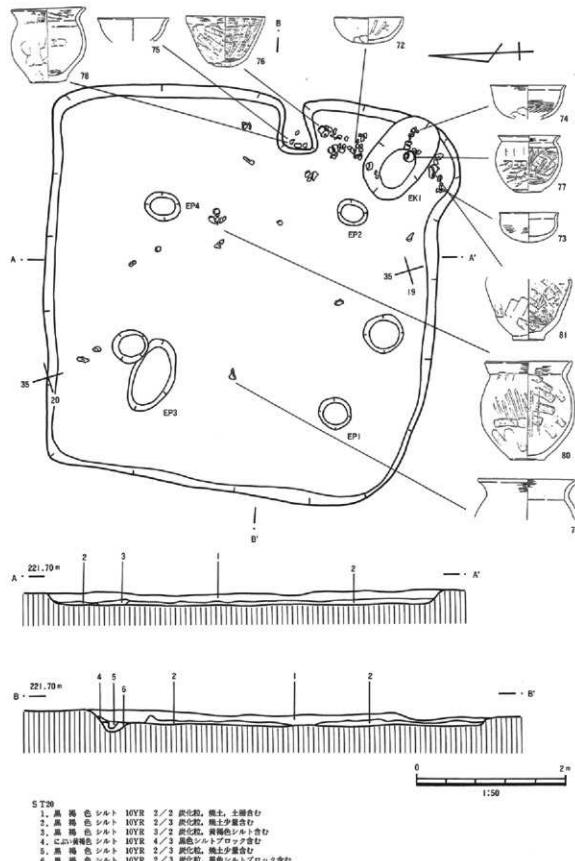
調査区南側 20-12Gに主体を置く。重複する遺構である。S T32がS T31に切られる。S T32は一辺5.5mを測る方形を呈する。カマドはS T31内の床面で検出された焼土が燃焼部または煙道と考えられ、南壁西側に位置していたものと推測される。また焼土の右側にあるS K112土壤は、その位置からS T32の貯藏穴と考えられる。S T31は長軸4.7m、短軸3.9mの不整形の遺構である。遺構内の西側に、南へ開口部を持つ長さ1.5m、幅1mの馬蹄形の炉がある。内部には柱状の自然石が斜めに立った状態で検出された。この炉は、製錬炉の中の半地下式型堅炉あるいは円筒自立炉の下部と推測されることから、工房跡の可能性も考えられる。

S T33竪穴住居跡 (第37図・図版10)

22-11Gに主体を置く。東壁の一部が土壤によって破壊されている。長軸6.1m、短軸5.7mを測る方形の住居跡である。カマドは北壁中央に位置する。袖は左右とも欠損し、燃焼部のみ残る。近接するS T27のカマドと煙道の切り合いがあり、S T33が先行すると考えられる。主柱穴は壁から1.5m前後離れて、中央に寄っている。主柱穴間は2.2mである。遺物はカマドの周囲及び中央部から出土しているが、希薄である。

S T35・36・37竪穴住居跡 (第38・39図・図版9)

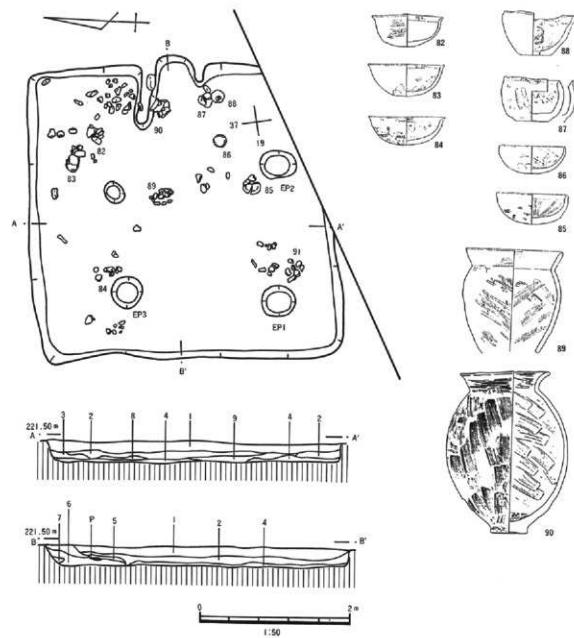
調査区南端に位置する住居跡である。S T35、S T36は半分以上が調査区外にあたるため全形は知り得ない。カマドの有無も不明であるが、S T35は南端に焼土層が認められ、S T36の床面には円形に焼けた痕が3箇所認められた。



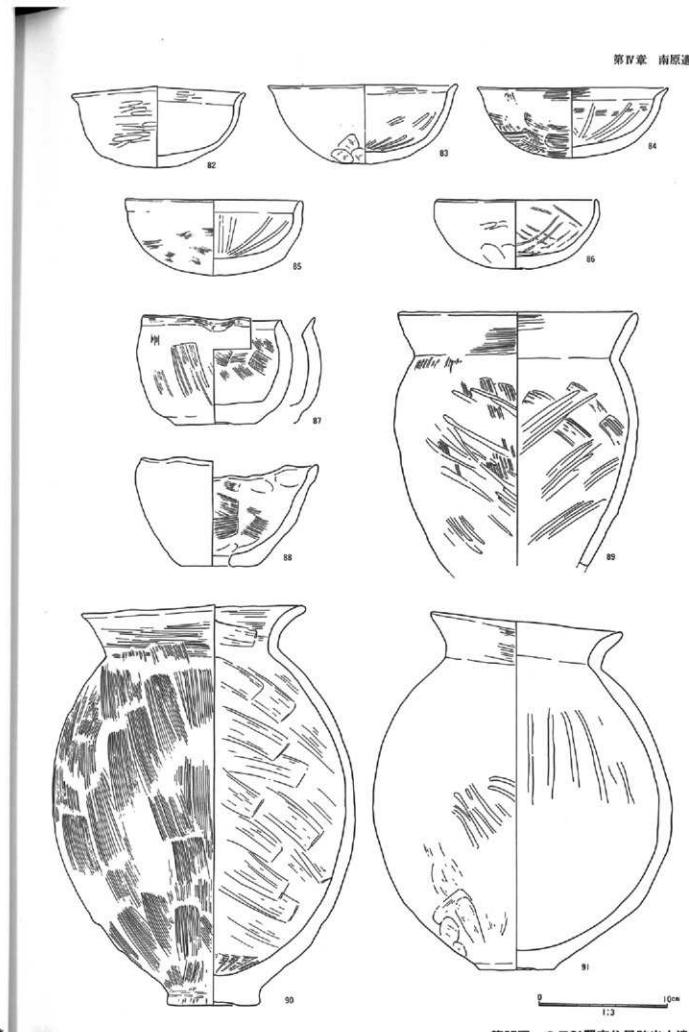
第22図 ST 20堅穴住居跡



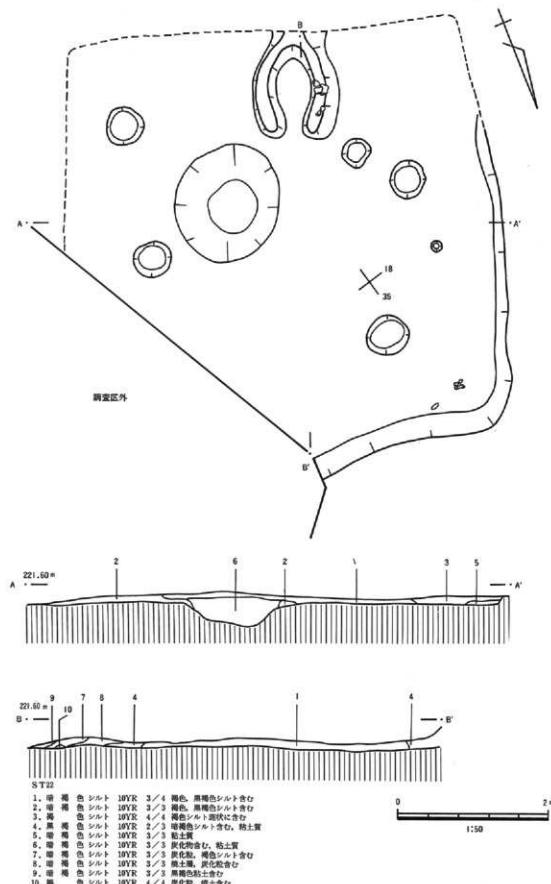
第23図 ST 20堅穴住居跡出土遺物



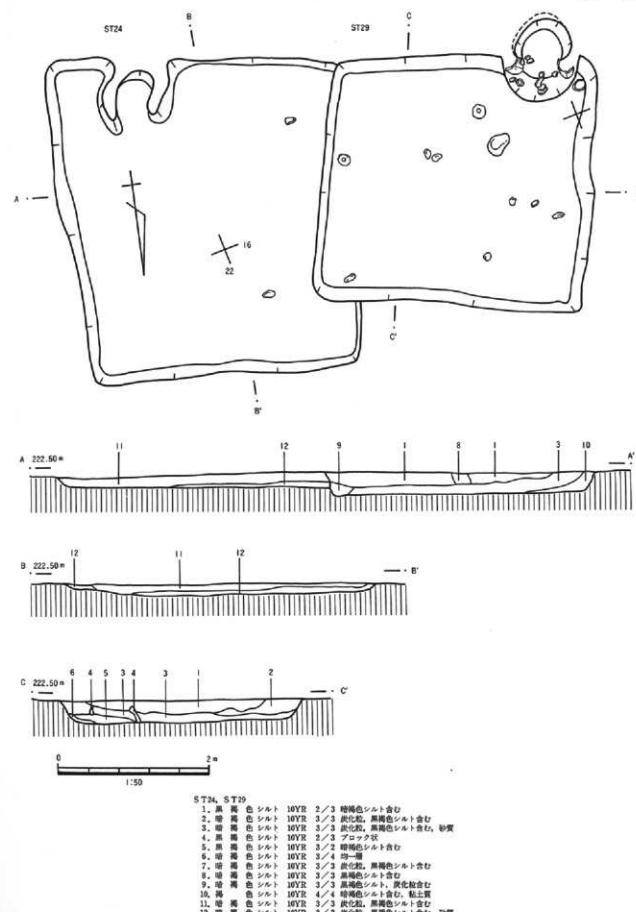
第24図 ST 21堅穴住居跡



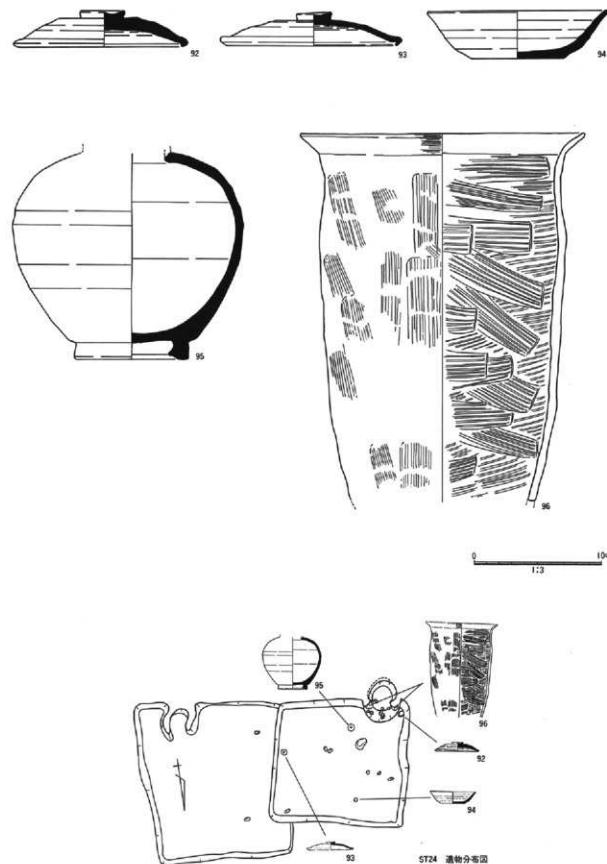
第25図 ST 21堅穴住居跡出土遺物



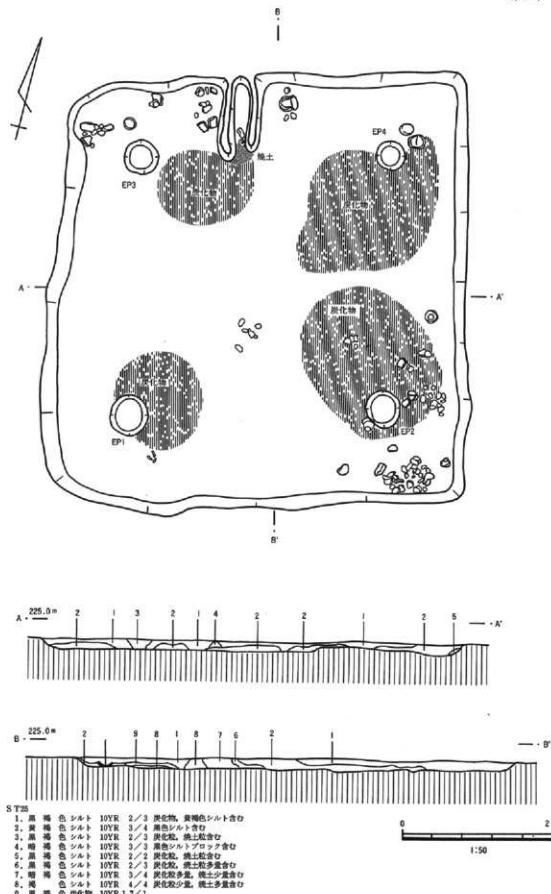
第26図 ST 22堅穴住居跡



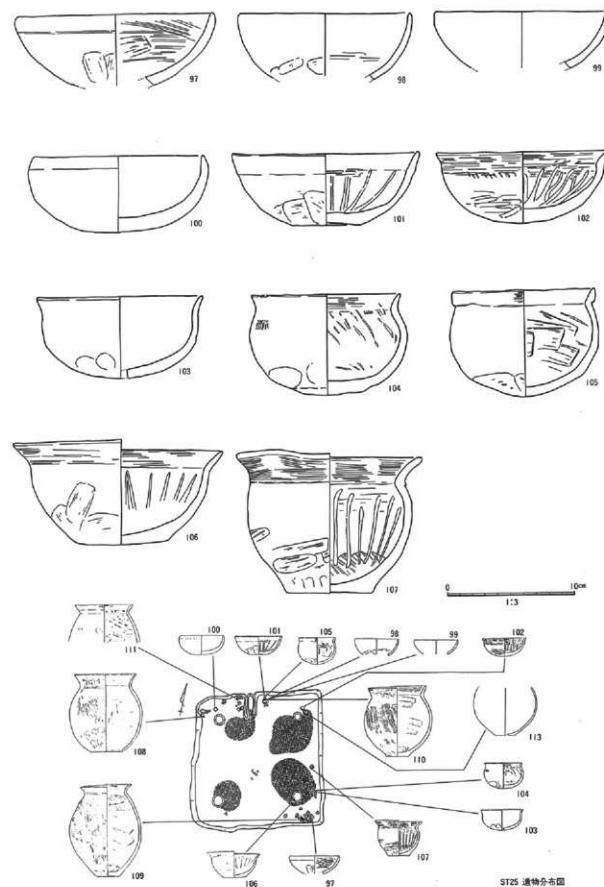
第27図 ST 24-29堅穴住居跡



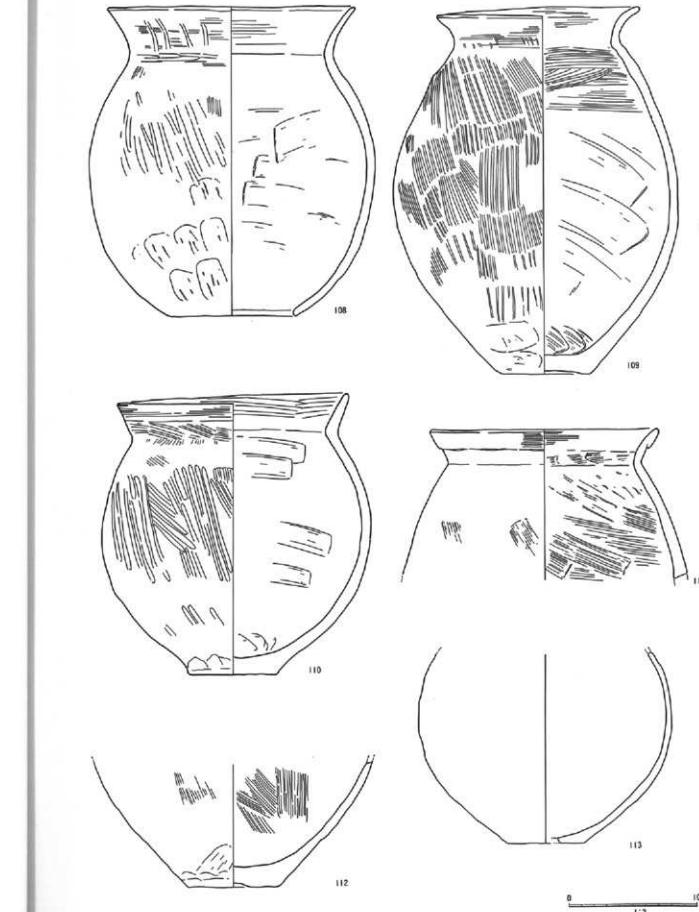
第28図 ST 24堅穴住居出土遺物



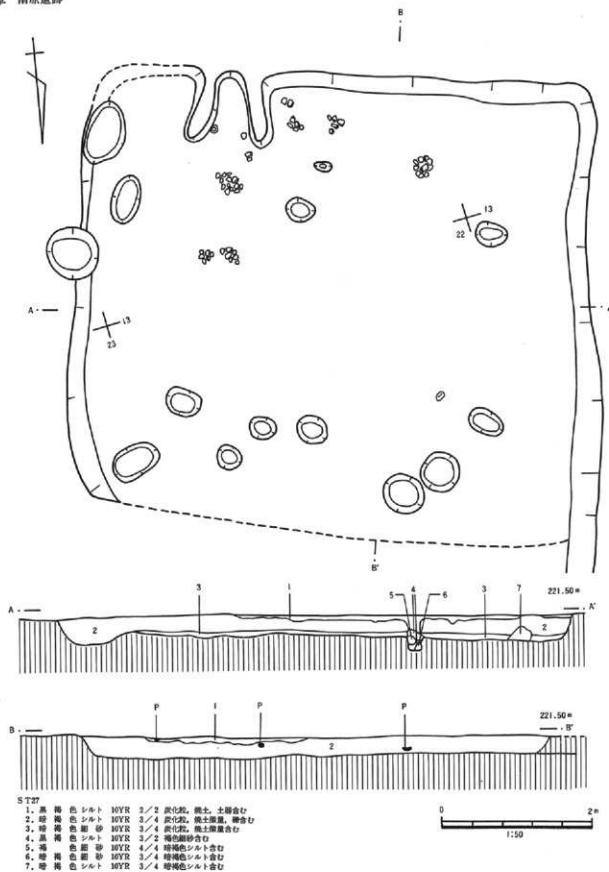
第29図 ST 25堅穴住居跡



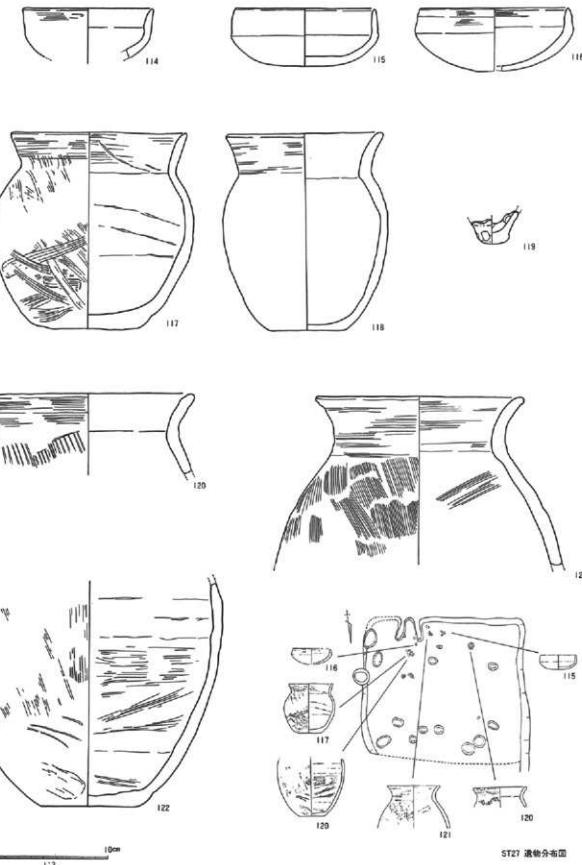
第30図 S T25竪穴住居跡出土遺物(1)



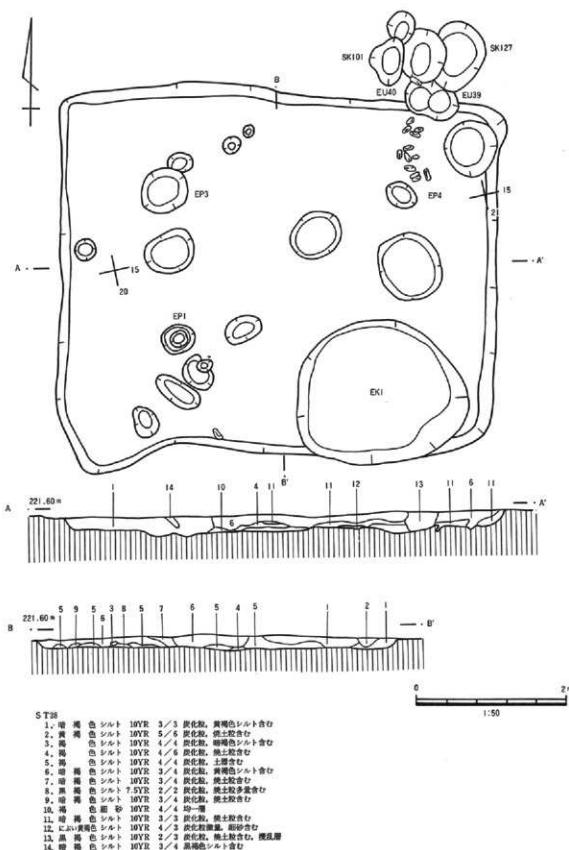
第31図 S T25竪穴住居跡出土遺物(2)



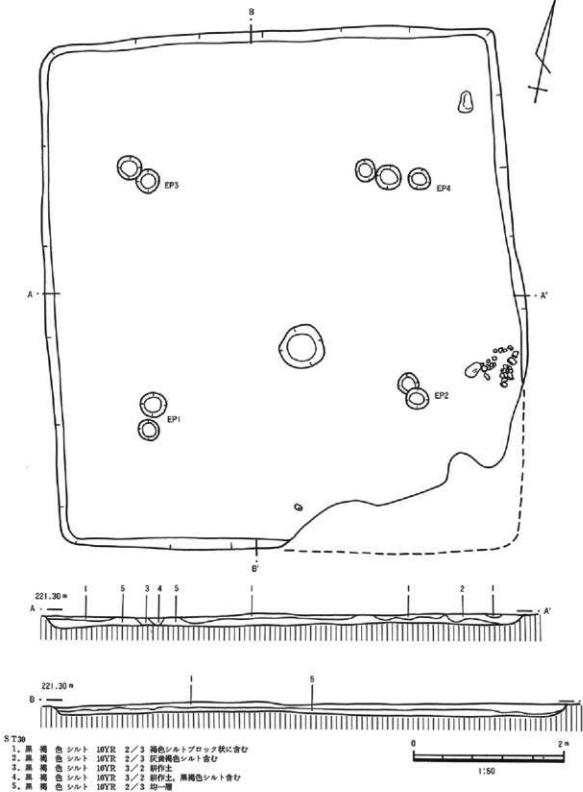
第32図 ST27堅穴住居跡



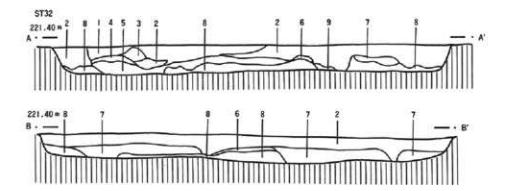
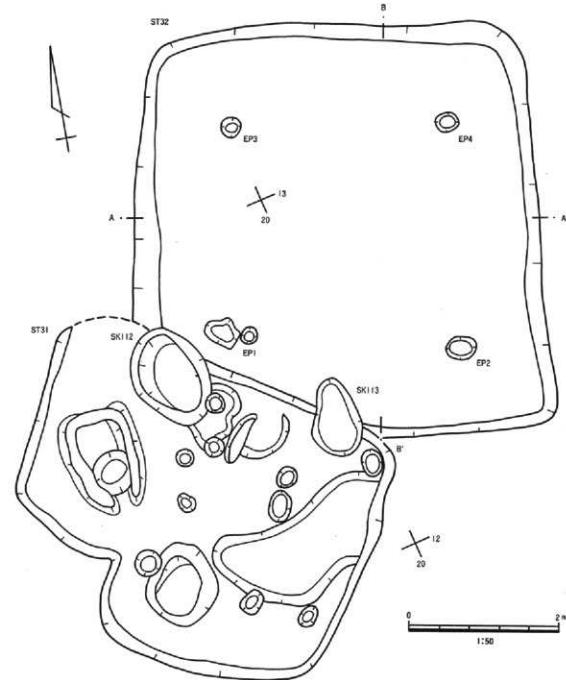
第33図 S-T27堅穴住居跡出土遺物



第34図 ST 28竪穴住居断面

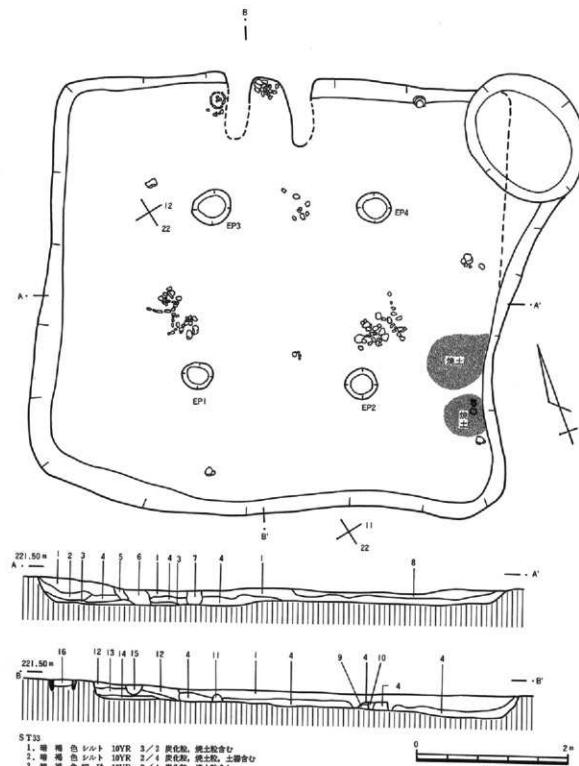


第35図 ST 30竪穴住居断面



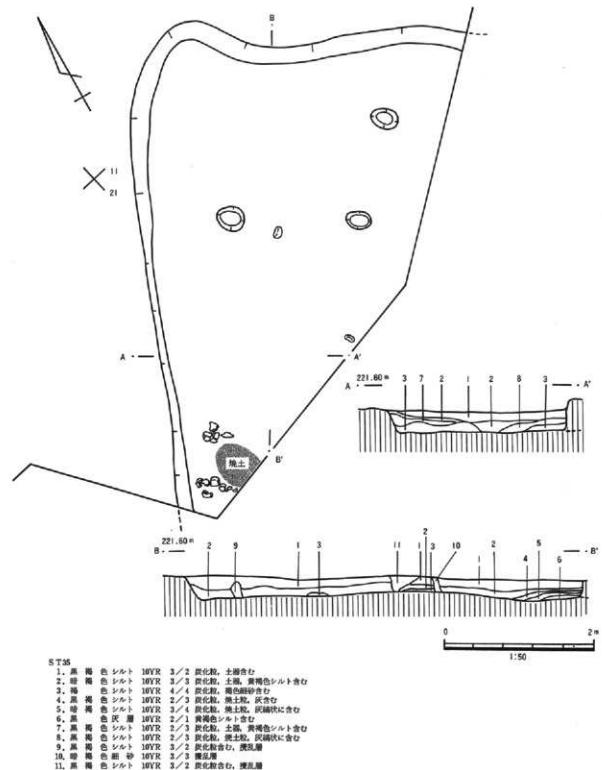
- ST32
1. 線 流色 シルト HYR 3/4 高峰色シルト斑状に含む
 2. 線 流色 シルト HYR 3/4 高峰色シルト斑状に含む
 3. 線 流色 シルト HYR 3/4 高峰色シルト斑状に含む
 4. 乾燥高色 シルト HYR 5/4 高峰色シルト斑状に含む
 5. 線 流色 シルト HYR 4/6 高峰色シルト斑状に含む
- ST33
1. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 2. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 3. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 4. 線 流色 シルト IOPR 3/4 黄土、高峰色シルト含む
 5. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 6. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 7. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 8. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 9. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 10. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 11. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 12. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 13. 線 流色 シルト T.7.YKR 3/4 洪土多量含む
 14. 線 流色 シルト T.7.YKR 4/4 黄褐色、洪土混合
 15. 線 流色 シルト T.7.YKR 3/2 黄褐色シルト斑状に含む
 16. 線 流色 シルト T.7.YKR 4/4 黄褐色、洪土混合

第36図 ST 31-32堅穴住居跡

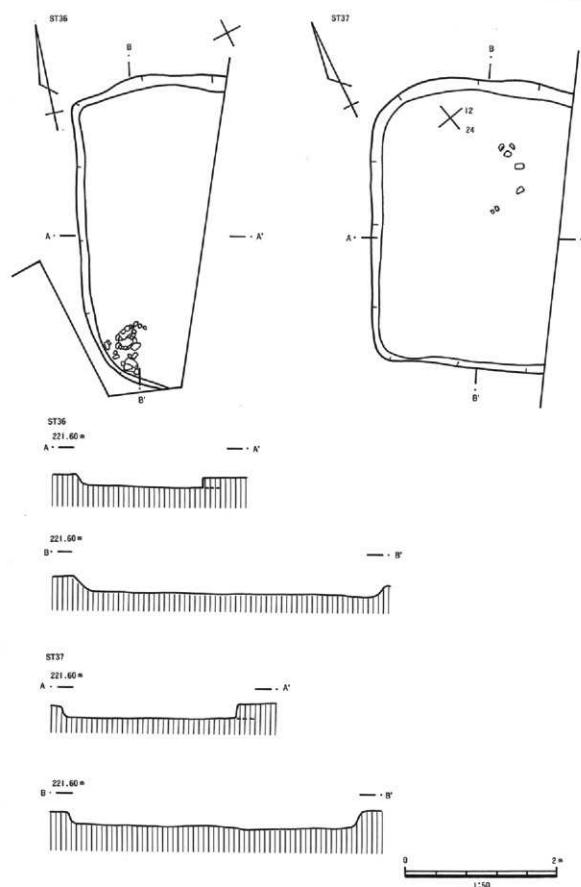


- ST33
1. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 2. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 3. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、洪土混合
 4. 線 流色 シルト IOPR 3/4 黄褐色、洪土混合
 5. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 6. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 7. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 8. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 9. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 10. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 11. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 12. 線 流色 シルト IOPR 3/2 黄褐色、高峰色シルト含む
 13. 線 流色 シルト T.7.YKR 3/4 洪土多量含む
 14. 線 流色 シルト T.7.YKR 4/4 黄褐色、洪土混合
 15. 線 流色 シルト T.7.YKR 3/2 黄褐色シルト斑状に含む
 16. 線 流色 シルト T.7.YKR 4/4 黄褐色、洪土混合

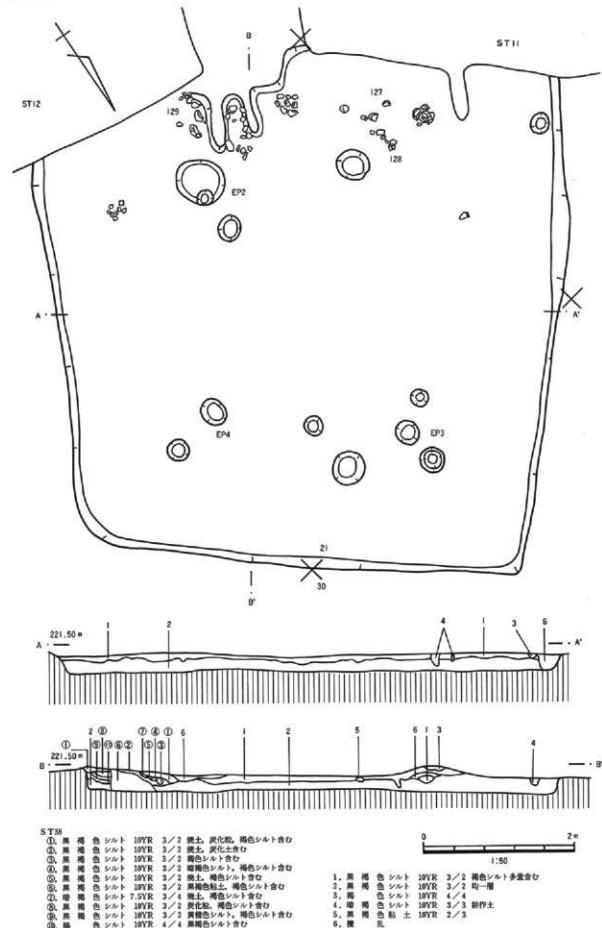
第37図 ST 33堅穴住居跡



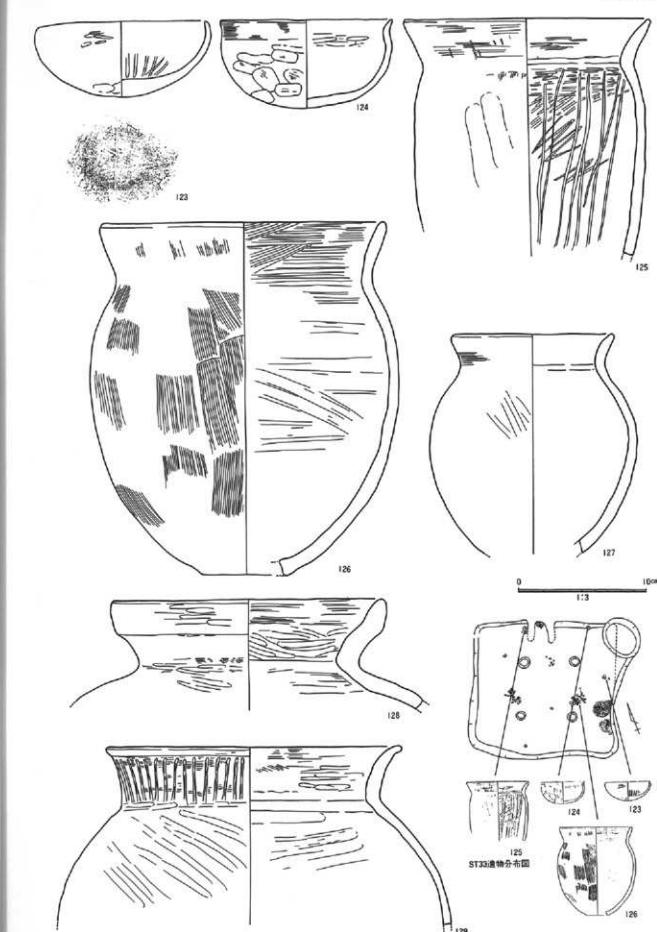
第38図 ST35竪穴住居断面



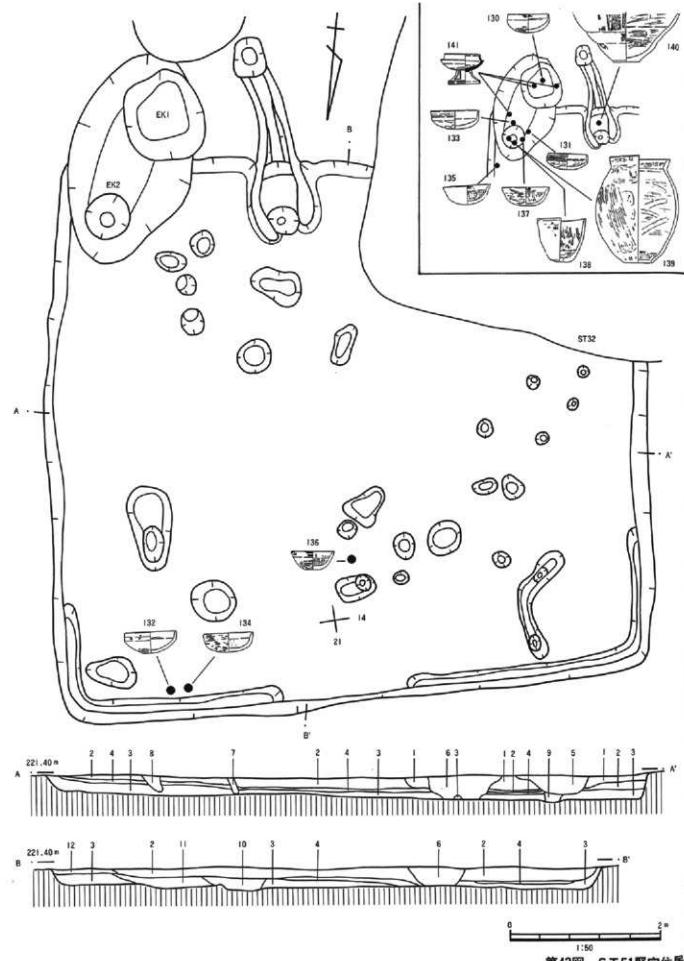
第39図 ST36・37竪穴住居断面



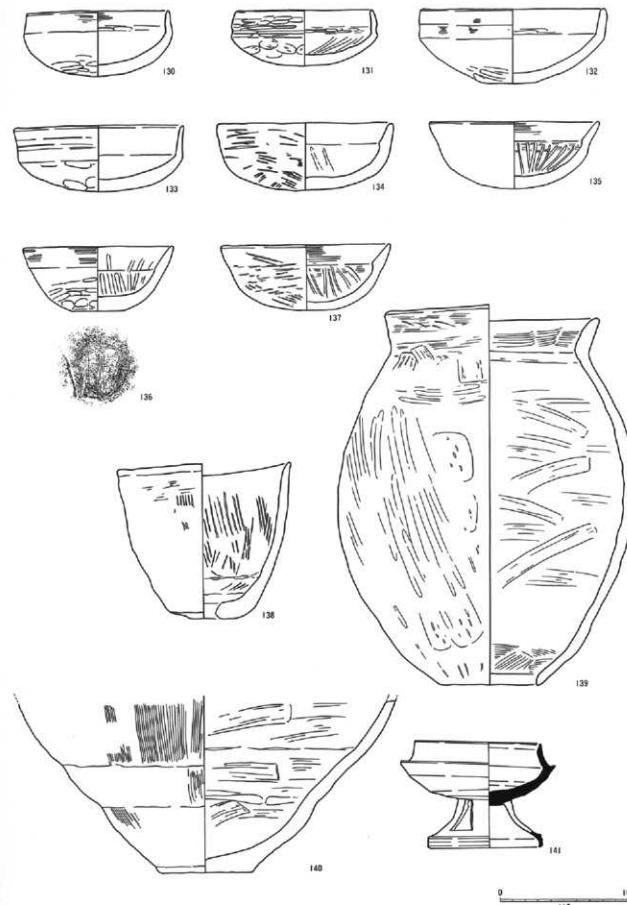
第40図 ST 38堅穴住居跡



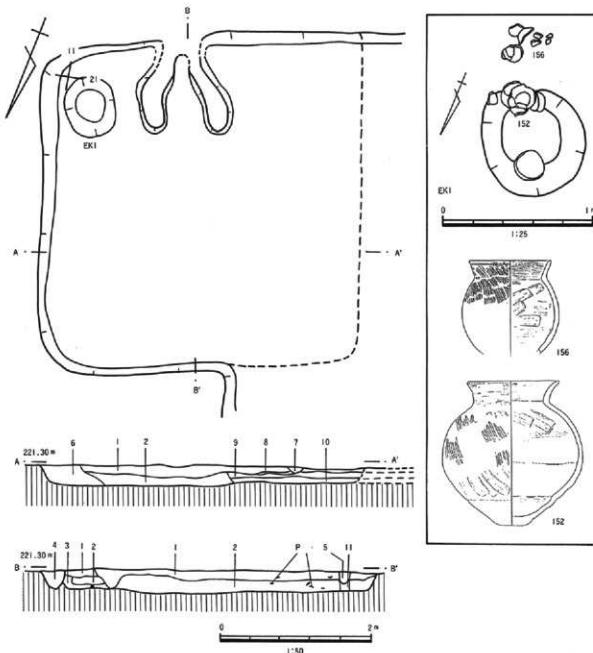
第41図 ST 33-38堅穴住居跡出土遺物



第42図 ST 51堅穴住居出土遺物

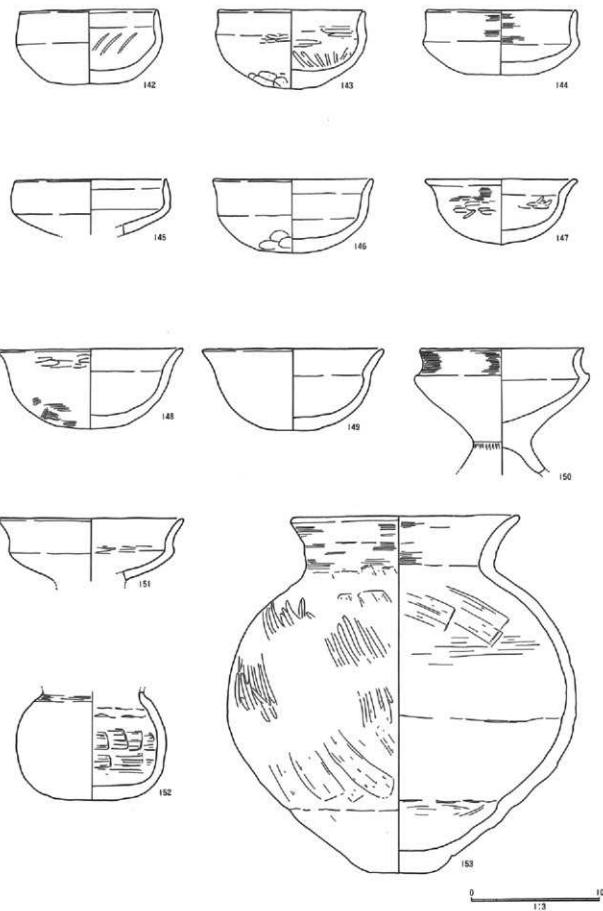


第43図 ST 51堅穴住居出土遺物

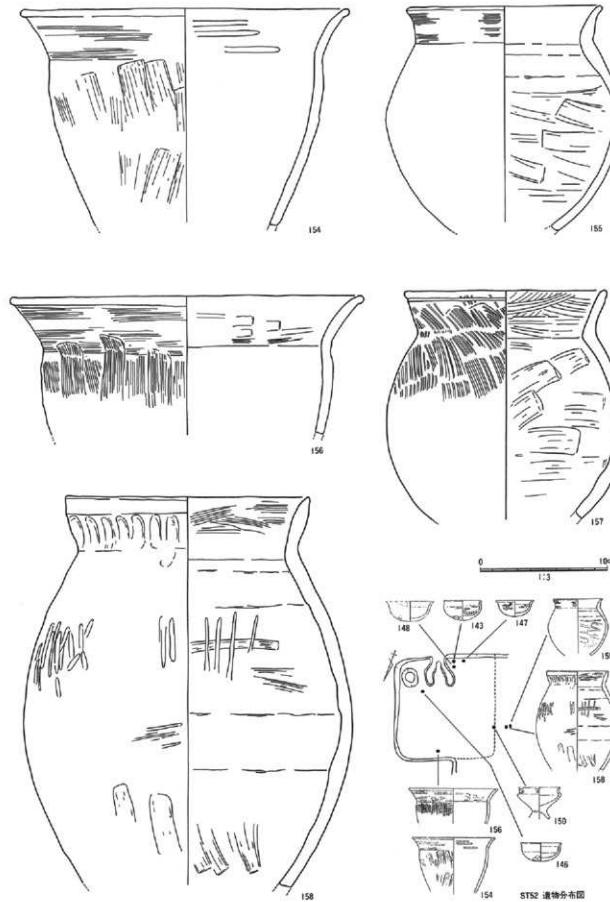


S TS1	S TS2
1. 植 物 シ ルト HYMT 3/4 水化物。施土粒度合せ	1. 墓 物 シ ルト HYMR 3/4 水化物兼
2. 植 物 シ ルト HYMT 3/4 水化物。施土粒度合せ	2. に は シ ルト HYMR 3/4 水化物兼
3. 植 物 シ ルト HYMT 3/4 水化物。施土粒度合せ	3. に は シ ルト HYMR 3/4 水化物兼
4. 芳 香 菜 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	4. 黑 土 シ ルト HYMR 2/4 水化物
5. 芳 香 菜 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	5. 黑 土 シ ルト HYMR 2/4 水化物
6. 芳 香 菜 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	6. 黑 土 シ ルト HYMR 2/4 水化物
7. 植 物 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	7. 植 物 シ ルト HYMR 2/4 水化物
8. 植 物 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	8. 植 物 シ ルト HYMR 2/4 水化物
9. 植 物 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	9. 植 物 シ ルト HYMR 2/4 水化物
10. 植 物 シ ルト HYMT 2/4 水化物。高黄色シルト	10. 植 物 シ ルト HYMR 2/4 水化物

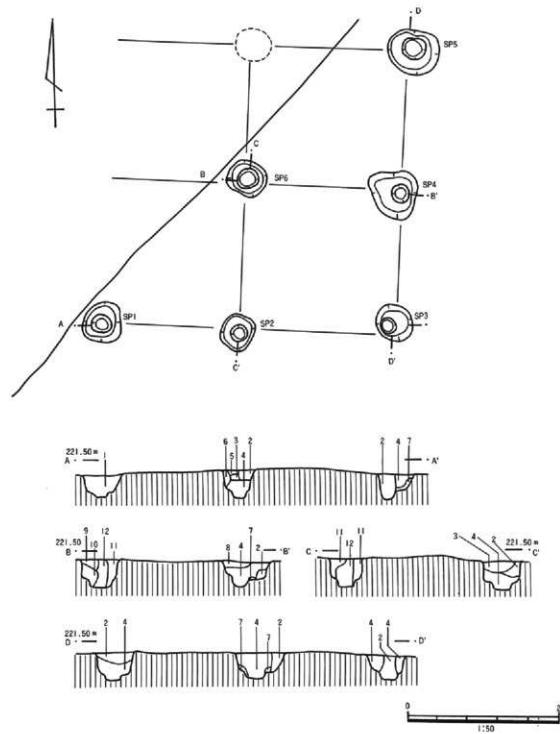
第44図 ST52堅穴住居跡



第45図 S.T.52堅穴住居跡出土遺物(1)

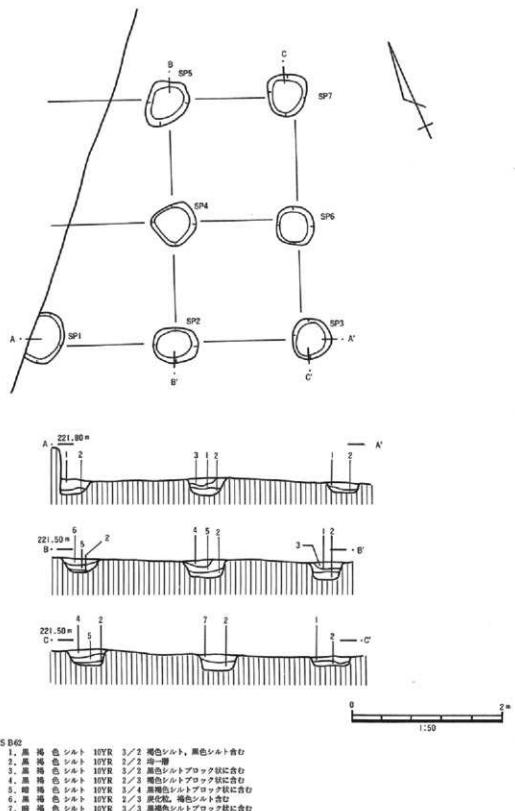


第46図 S T52堅穴住居跡出土遺物



- SB61
1. 黒褐色シルト 10YR 5/2 両色シルト、黒色粘土含む
 2. 黒褐色シルト 10YR 2/3 両色シルトブロック状に含む
 3. 黑褐色シルト 10YR 2/3 両色シルト斑状に含む
 4. 黑褐色シルト 10YR 2/3 両色シルト網状に含む
 5. 黑褐色シルト 10YR 4/4 黏合質
 6. 黑褐色シルト 10YR 2/3 粘合質
 7. 黑褐色シルト 10YR 2/3 均一層
 8. 黑褐色シルト 10YR 2/3 固くしまる、ほば固一層
 9. 黑褐色シルト 10YR 2/3 黒色シルト含む
 10. 黑褐色シルト 10YR 2/3 両色シルト含む
 11. 黑褐色シルト 10YR 2/3 黑褐色粘土塊状に含む
 12. 黑褐色シルト 10YR 2/3 黑褐色粘土ブロック状に含む

第47図 SB61堅穴住居跡



第48図 S B 62自由柱建物

S T 38竪穴住居跡 (第40図・図版10)

調査区南東30-21Gに主体を置く。S T 11, 12によって切られる。平面形は、一边が6.5m程の方形と考えられる。カマドは南壁やや東寄りに位置する。主柱穴は3基まで確認された。柱穴間は3.1mと2.6mを測る。遺物はカマド周辺から出土した。

S T 51竪穴住居跡 (第42図・図版11)

20-13Gに主体を置く。平面形は長軸8.3m、短軸7.6mの方形である。カマドは南壁やや東寄りに位置する。煙道は1.8m張り出す。燃焼部から土師器壺の底部(140)が伏せた状態で出土した。カマドの左には長径3m、短径1.7mの大型の土壙がある。調査中にS T 51で登録した遺物の大半がこの土壙からの出土である。E K 1については貯蔵穴の一部と考えられるが、E K 2については疑問が残る。主柱穴は不明瞭である。E K 1からの出土遺物は土師器壺(130)、須恵器高环(141)である。須恵器高环は短脚1段腰かして、3方に開けられたものである。E K 2からは土師器壺、甌等が出土している。环は有段のもの(131・133)と内面に縫を有するもの(135・137)がある。甌は小型で単孔のもの(138)と大型で無底のもの(139)がある。S T 51からは土師器壺、壺等がある。

S T 52竪穴住居跡 (第44図)

調査区中央南端20-11Gに主体を置く。西壁は擾乱のため未検出だが、一边4m前後の方形を呈するものと推測される。カマドは南壁やや東寄りに位置し、左側には貯蔵穴を有する。柱穴は不明。遺物はE K 1とカマドの周辺から多く出土した。器種は土師器壺、高环、壺、甌、甌である。环には丸底とそうでないもの(142・144)がある。また有段と、内面に縫を持つものとが見られる。高环には須恵器环身を模倣した様な特殊な形態を持つもの(150)も見られる。154・156は体部下半を欠損するもののその形態、調整から甌と推測されるものである。壺、甌とも球胴もしくは球胴に近い形態を呈する。

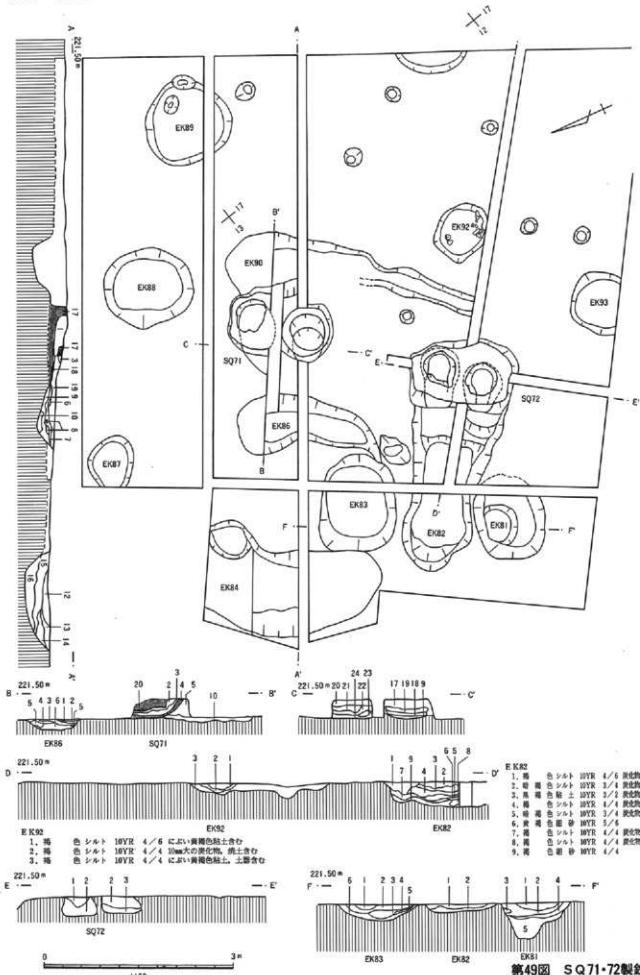
S B 61・62掘立柱建物跡 (第47・48図・図版12)

調査区北西に位置する。西側は調査区外にあたり、一部の検出にとどまった。純柱の建物跡と考えられる。柱穴間の距離は1.7~2.1mを測る。時期、詳細については不明である。

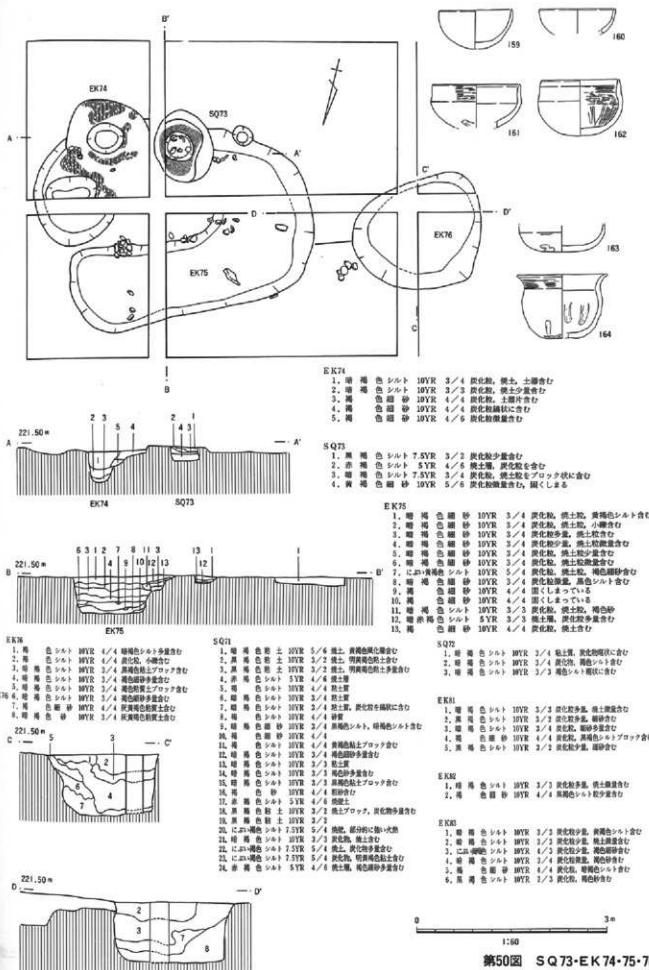
S Q 71・72・73製鉄遺構 (第49・50図・図版14・15)

調査区南側16・17-13・14Gに位置する。その形態は半地下式堅型炉あるいは円筒自立炉と考えられるが、平坦地に築かれていることから、円筒自立炉に近い構造である。遺構の位置する土質は周辺に比べ砂質である。S Q 71・72は炉2基を一组とする。炉壁は赤く焼き締まり、炉底は径約60cmで、半球状に窪み、西側の開口部に向けて緩い傾斜が認められる。前部には土壙が広がり、中には炭化物を多量に含む。E K 92には1cm大の炭化物と焼土、土器片が出土した。また周囲の径1.5m前後の土壙も関連する遺構と考えられる。S Q 72からは4cm程の鉄鋳が1点、E K 82からは砾石が出土した。

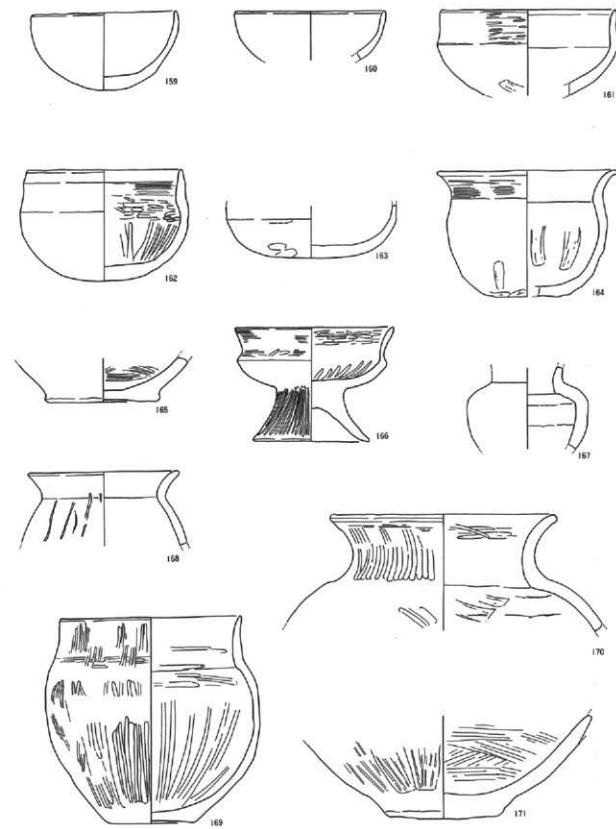
S Q 73の東にあるE K 74は、壁に焼けた痕跡が認められないことから炉は1基と考えられる。S Q 73には土師器(159~165)が詰まつた状態で出土している。開口部は認められない。E K 74、75には多量の炭化物と焼土が含まれる。



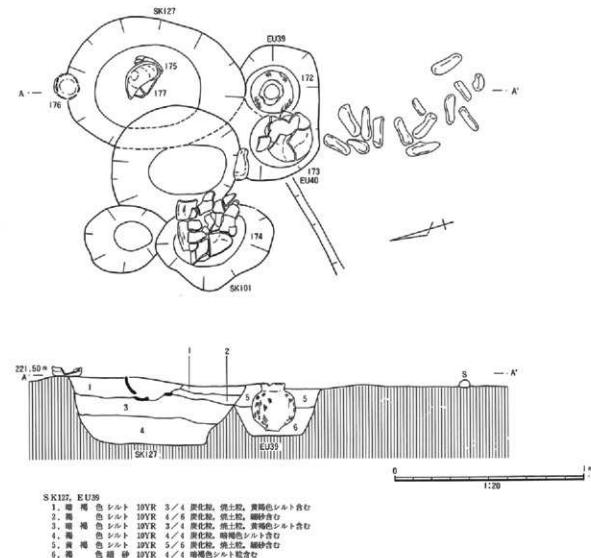
EK81
第49図 SQ71・72製鉄造構



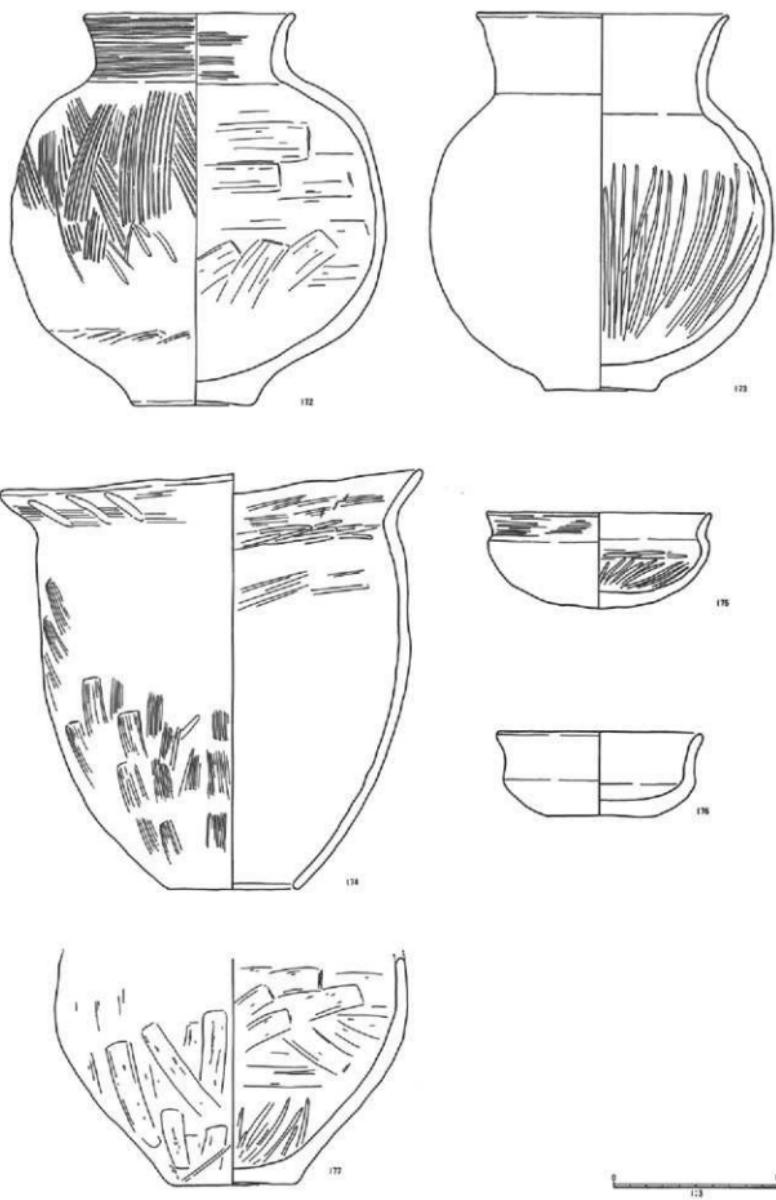
第50図 SQ73・EK74・75・76



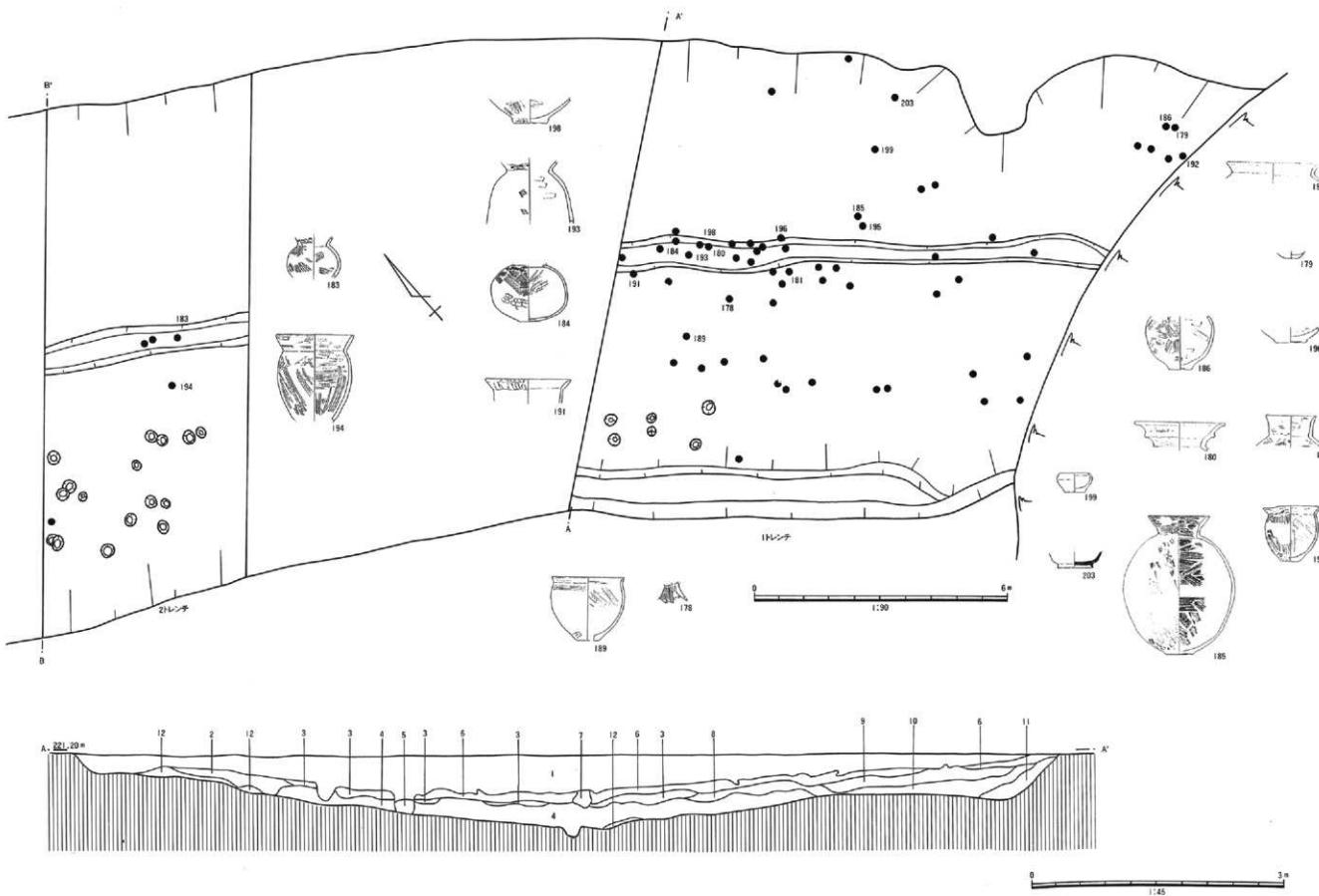
第51図 S Q73-E K74-75出土遺物



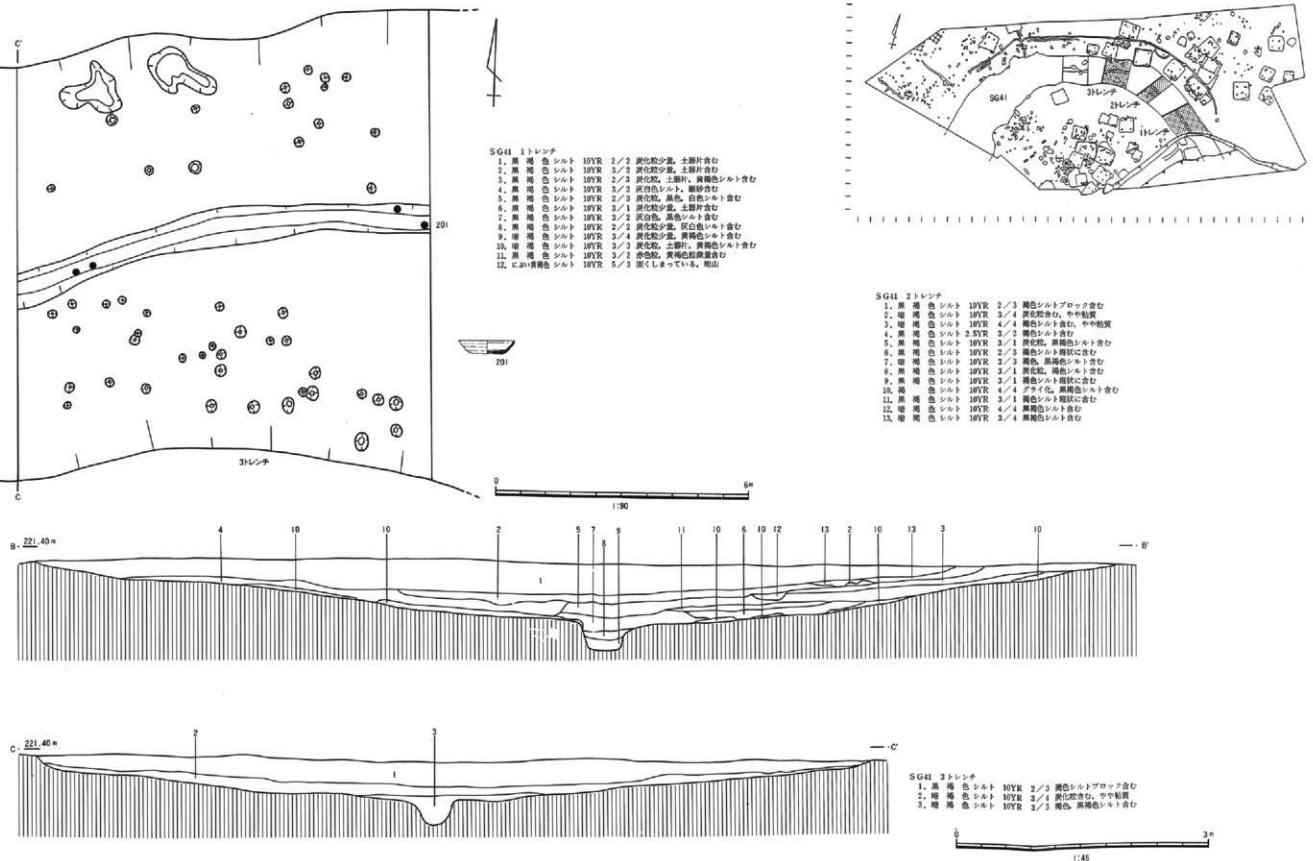
第52図 E U39-40埋設遺構



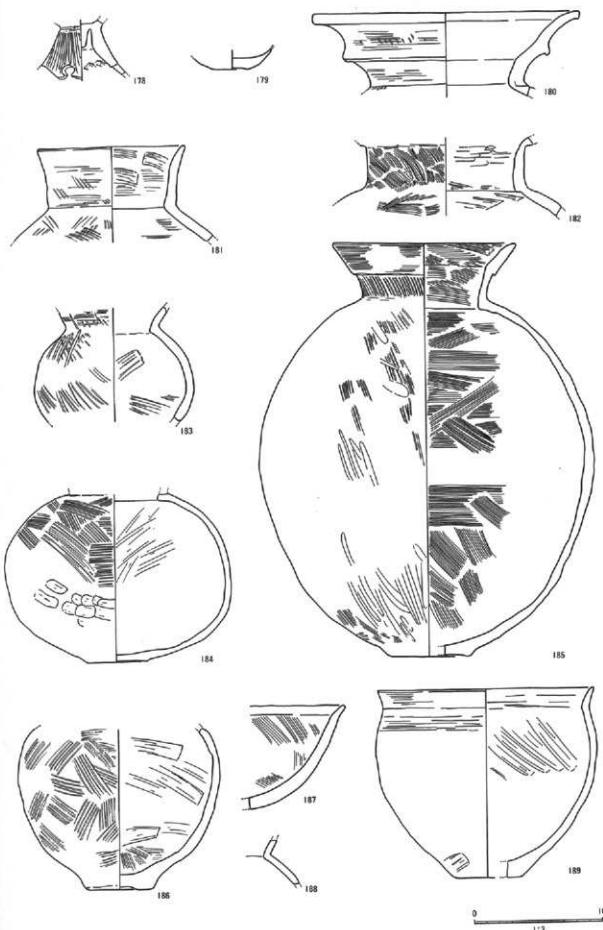
第53図 EU 39-40、SK 101-127 出土遺物



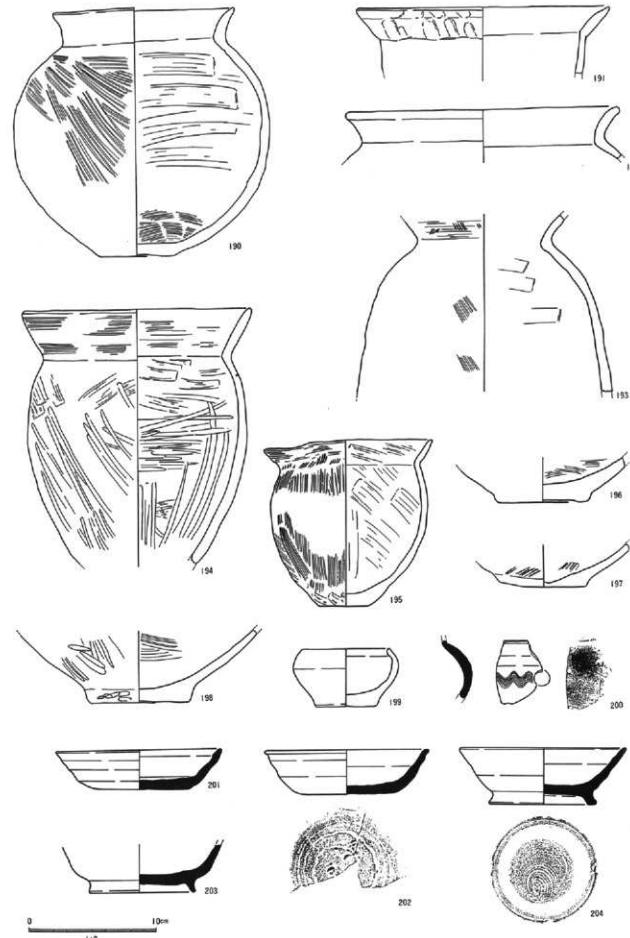
第54図 SG 41河川跡 1・2トレンチ



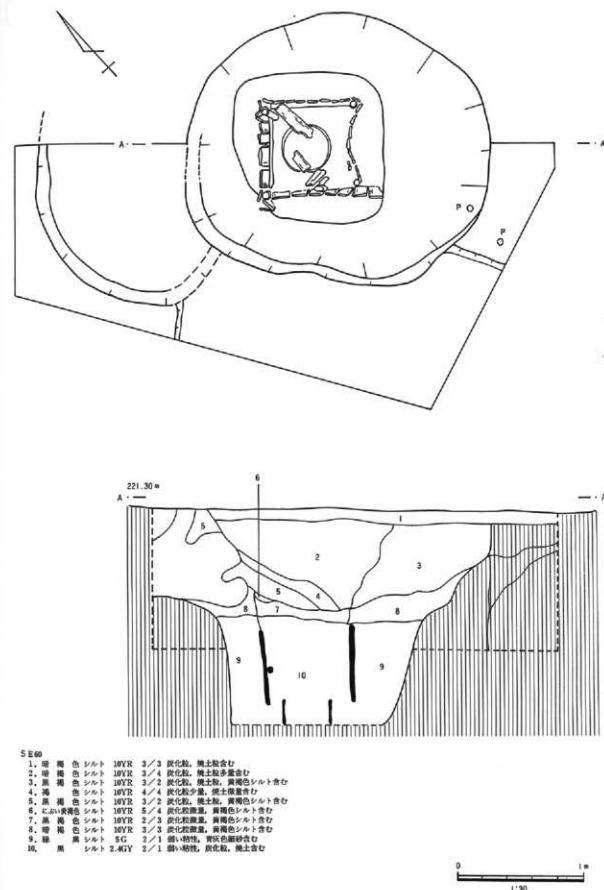
第55図 SG41 河川跡3トレチ



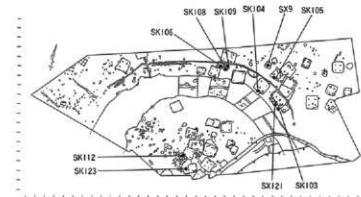
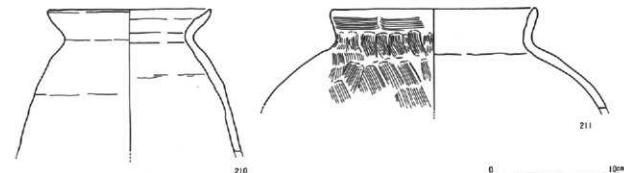
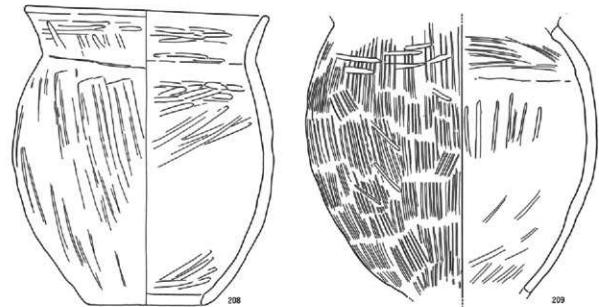
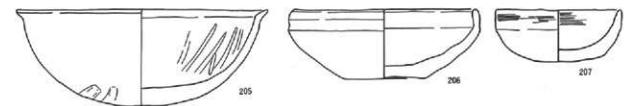
第56図 S G 41河川跡出土遺物(1)



第57図 S G41河川跡出土遺物

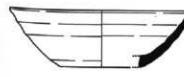
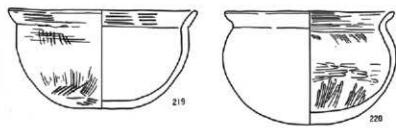
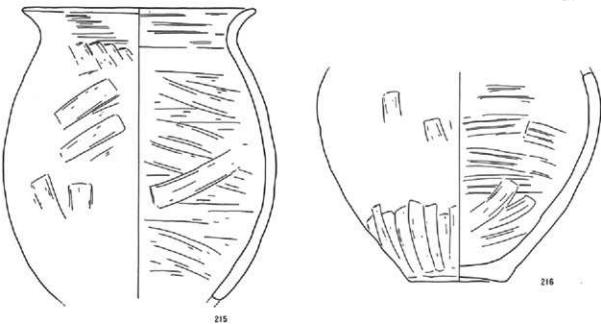
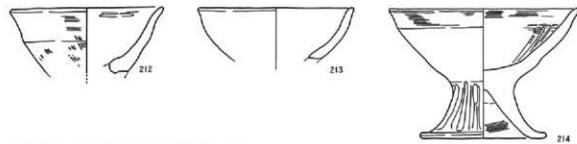


第58図 SE 60井戸跡



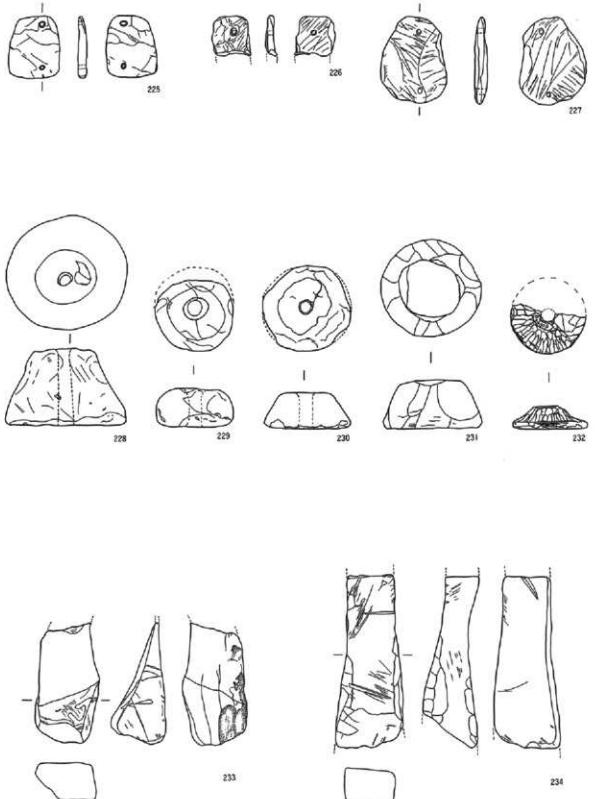
0 1:3 10cm

第59図 土壌出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第60図 土壌出土遺物(2)



0 1:2
Figure 61: Stone artifacts and pottery fragments.

第61図 石製品・土製品

表-2 南原遺跡出土遺物観察表(1)

埠名	回版番号	遺物番号	器種	計測値 (mm)		色調	調整		備考	出土位置
				口径	底径		外 面	内 面		
24	1	鉢	-	45	-	明黄褐 5 YR 5/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ	RP1	ST4
	2	要	-	73	-	黄褐 7.5 YR 8/6	ハナメ	不明	RP3	
	3	鉢	118	34	83	緑 5 YR 7/6	不明	不明	RP1	
	4	环	-	-	-	淡黄褐 7.5 YR 8/6	不明	不明	RP7	
	5	瓶	145	-	-	緑 5 YR 6/6	不明	不明	RP5	
	6	瓶	(149)	-	-	黄褐 7.5 YR 6/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	不明	RP6	ST6
	7	瓶	(166)	-	-	に古い黄褐 7.5 YR 7/6	ハナメ	ハナメ	RP4	
24	8	环	148	-	58	に古い黄褐 5 YR 5/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ	RP1	ST7
	9	环	(145)	-	46	に古い黄褐 7.5 YR 5/4	ナメ	ナメ	ナメ	
	10	环	(146)	-	60	に古い黄褐 5 YR 5/4	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ		ST7EK1
	11	环	153	-	61	緑 2.5 YR 6/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ		
	12	环	114	-	64	明黄褐 2.5 YR 5/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ	RP6	ST7
	13	瓶	128	55	84	明黄褐 10 YR 7/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ナメ、ハナメ	RP5	
	14	瓶	110	-	-	に古い黄褐 10 YR 7/4	ミガキ、ナデ、ケズリ	ナデ、ハナメ		ST7EK1
25	15	鉢	(130)	-	-	緑 7.5 YR 8/6	ナメ	不明	RP2	ST7
	16	环	(127)	-	58	に古い黄褐 7.5 YR 7/3	ナメ	ミガキ、ナデ	RP2	
	17	环	114	50	55	浅黄褐 7.5 YR 8/4	ケズリ	不明	RP10	
	18	环	(120)	55	54	緑 7.5 YR 7/6	ナメ	ケズリ	RP4	
	19	环	(117)	-	-	緑 5 YR 7/6	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ナデ	RP23	
	20	环	125	38	47	に古い黄褐 10 YR 7/3	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ	RP3	
	21	鉢	-	45	-	緑 5 YR 7/6	ナメ	ミガキ、ナデ	RP8	
26	22	高环	142	100	95	淡黄褐 10 YR 8/4	ミガキ	ミガキ、ナデ	RP6	
	23	高环	149	110	90	淡黄褐 7.5 YR 8/4	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ	RP7	
	24	高环	148	105	89	浅黄褐 7.5 YR 8/4	ミガキ、ナデ、ケズリ	不明		
	25	高环	152	104	99	赤褐 10 YR 6/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ	RP11	
	26	高环	149	100	89	浅黄褐 10 YR 8/4	ミガキ	ミガキ	RP14	
	27	高环	(142)	105	97	浅黄褐 10 YR 8/4	ミガキ、ケズリ	不明	RP16, 17	
	28	高环	151	105	92	淡黄褐 7.5 YR 8/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ	RP20	
27	29	高环	(135)	(85)	84	緑 2.5 YR 6/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ	RP23	
	30	高环	(125)	-	-	緑 7.5 YR 7/6	ナメ	ミガキ	RP3	
	31	高环	134	-	-	緑 7.5 YR 7/6	ナメ	ミガキ	RP12	
	32	高环	144	-	-	に古い黄褐 10 YR 7/4	ミガキ	ミガキ、ナデ	RP5, 8	
	33	高环	-	78	-	に古い黄褐 7.5 YR 5/4	ミガキ	ミガキ	ヘラナメ	
	34	鉢	222	-	108	黄褐 7.5 YR 7/8	ケズリ	不明	RP25	
	35	鉢	-	108	70	125	浅黄褐 10 YR 8/4	ミガキ、ナデ	RP19	
28	36	瓶	-	-	89	淡黄褐 7.5 YR 4/2	ケズリ	ミガキ、ナデ	RP1	
	37	要	169	87	289	に古い黄褐 10 YR 7/2	ヘラナメ	不明	RP16	
	38	要	(184)	80	305	に古い黄褐 10 YR 4/4	ヘラナメ	ナメ	RP18	
	39	要	(189)	-	-	黄褐 7.5 YR 4/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ナデ	RP26	
	27	40	蓋	(112)	-	灰 5 YR 7/6	ナメ、ナダ	ナデ	RP31-頭頂部	
	41	蓋	-	-	-	灰 5 YR 5/1	ロクロナメ、ケズリ	ロクロナメ	RP15-側面部	
	27	42	环	-	-	灰 7.5 YR 5/1	ナメ	ナデ	頭頂部	
29	28	环	132	-	60	緑 5 YR 7/8	ミガキ、ミガキ	ミガキ、ナデ	RP1	ST1SEPE5
	44	环	(115)	-	-	黄褐 7.5 YR 8/6	ケズリ	ミガキ	RP7, 12	ST15
	45	鉢	(170)	-	-	浅黄褐 7.5 YR 8/6	ナメ	ミガキ	RP8	
	46	高环	181	-	-	灰白 5 YR 8/6	ナメ	ナメ	RP2	ST1SEP5
	47	鉢	130	70	144	黑褐 5 YR 8/6	ナメ	ナメ	RP13	ST1SEP2
	48	鉢	138	56	170	緑 7.5 YR 7/6	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ、ケズリ	RP7, 12	ST15
	49	鉢	(135)	66	98	黄 7.5 YR 7/6	ケズリ	ナメ	RP14	ST1SEP2
17	50	瓶	(228)	84	242	に古い黄褐 10 YR 7/3	ナメ	不明	RP7, 8, 12	ST15

表-3 南原遺跡出土遺物観察表(2)

標印番号	四版番号	遺物種類	計測値 (mm)			備考	出土位置
			口径	底径	高さ		
17	29	51 壺	170	—	—	5 YR 2/6 ハゲメ	RP11
		52 壺	(220)	—	—	に古い黄褐色 10 YR 3/2 ナデ、ナデ	RP5
		53 壺	—	87	—	灰褐色 10 YR 6/2 ハゲメ、ケズリ	RP3
30	30	54 坎	(120)	—	51	赤 10 YR 4/6 エビメ、ナデ、ケズリ	平明 RP22
		55 坎	149	—	58	青褐色 7.5 YR 4/6 エビメ、ナデ、ケズリ	ナデ、ミガキ RP3
		56 坎	(150)	—	74	赤 5 YR 7/6 ケズリ	ナデ、ミガキ RP13
		57 坎	(146)	—	(52)	青褐色 7.5 YR 7/6 ハゲメ	不明 RP9
		58 坎	(164)	—	62	灰褐色 10 YR 4/2 ケズリ	不明 RP7
		59 坎	165	—	—	灰褐色 5 YR 5/2 ミガキ	ミガキ RP15
		60 坎	—	44	—	赤 7.5 YR 7/6 不明	不明 RP23
		61 坎	—	—	—	淡黃褐色 7.5 YR 4/6 ケズリ	ミガキ RP23
		62 鉢	—	42	—	赤 7.5 YR 6/6 不明	不明 RP23
		63 高坎	—	113	—	赤 7.5 YR 6/6 ハゲメ、ケズリ	ハゲメ RP24
31	31	64 瓶	—	34	—	赤 5 YR 6/6 ハゲメ、ケズリ	ハゲメ RP10
		65 壺	—	70	—	に古い黄褐色 10 YR 5/2 ハゲメ	ハゲメ RP23
		66 壺	201	109	277	淡黃褐色 7.5 YR 4/4 ケズリ	ナデ、ミガキ RP11, 12, 16
		67 豆	146	70	219	に古い黄褐色 10 YR 4/5 ナデ、ケズリ	ハゲメ、ナデ RP9
		68 豆	(170)	60	238	赤 5 YR 7/6 ハゲメ	ハゲメ RP1
		69 壺	(178)	(80)	304	赤 5 YR 4/6 ナデ、ケズリ	ハゲメ RP12
		70 壺	—	—	—	淡黃褐色 7.5 YR 6/6 ハゲメ、ケズリ	ハゲメ、ナデ RP1
		71 壺	178	—	—	赤 7.5 YR 6/6 ナデ、ケズリ	ハゲメ、ナデ RP19
		72 坎	(137)	—	52	灰褐色 5 YR 6/6 ケズリ	ミガキ、ハゲメ RP6 ST20
		73 坎	116	—	59	赤 2.5 YR 4/6 ミガキ	不明 RP1
32	32	74 坎	(149)	—	—	淡黃褐色 7.5 YR 4/6 ケズリ、ミガキ	ミガキ RP4 ST26EK1
		75 坎	(140)	—	—	淡黃褐色 10 YR 4/4 不明	不明 RP8 ST20
		76 瓶	157	50	98	明褐色 2.5 YR 5/6 ナデ、ケズリ	ミガキ、ハゲメ RP6, 7
		77 鉢	(122)	60	110	に古い黄褐色 7.5 YR 6/4 ケズリ	ナデ、ミガキ、ハゲメ RP3 ST26EK1
		78 壺	148	70	145	に古い黄褐色 10 YR 3/2 ナデ、ナデ、ケズリ	ハゲメ、ナデ RP6
		79 壺	(200)	—	—	に古い黄褐色 7.5 YR 7/4 ナデ	ナデ RP14
		80 壺	(168)	66	(195)	に古い黄褐色 10 YR 3/4 ナデ、ナデ、ケズリ	ミガキ、ハゲメ RP11, 12
		81 豆	—	64	—	に古い黄褐色 10 YR 3/4 ケズリ	ハゲメ、ナデ RP2
		82 坎	143	—	60	青褐色 10 YR 4/4 ミガキ	ミガキ RP20
		83 坎	152	—	63	明褐色 10 YR 7/6 ケズリ、ミガキ	ミガキ RP4 ST20
33	33	84 坎	154	—	56	赤 5 YR 3/6 ハゲメ、ナデ	ミガキ、ナデ RP10
		85 坎	142	—	61	淡黃褐色 7.5 YR 4/6 ハゲメ、ナデ	ミガキ RP9
		86 坎	130	—	56	に古い黄褐色 10 YR 7/4 ケズリ、ミガキ	ミガキ RP8
		87 鉢	110	65	83	赤 7.5 YR 7/6 ハゲメ、ナデ	ハゲメ RP6
		88 瓶	140	55	85	赤 7.5 YR 7/6 不明	ハゲメ、ナデ RP7
		89 壺	190	—	—	明褐色 10 YR 7/6 ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ RP5
		90 壺	180	73	319	青褐色 10 YR 4/6 ハゲメ、ナデ	ハゲメ RP1
		91 壺	150	60	285	に古い黄褐色 10 YR 7/4 ナデ、ケズリ	ミガキ RP12
		92 壺	138	—	27	灰褐色 5 YR 7/2 ロクロナデ	ロクロナデ RP1-標準器
		93 壺	135	—	25	灰 10 YR 4/2 ロクロナデ	ロクロナデ RP6-標準器
34	34	94 坎	(142)	73	37	灰 10 YR 4/1 ロクロナデ	ロクロナデ RP5-標準器
		95 壺	—	87	—	灰 10 YR 4/1 ロクロナデ	ロクロナデ RP4-標準器
		96 壺	(225)	—	—	赤 7.5 YR 5/6 ハゲメ、ナデ	ハゲメ RP2, 3
		97 坎	156	—	—	に古い黄褐色 10 YR 5/3 ケズリ	ケズリ RP12
		98 坎	(136)	—	—	青褐色 7.5 YR 8/6 ケズリ	ミガキ RP11
		99 坎	(138)	—	—	赤 7.5 YR 7/6 不明	不明 RP11
		100 坎	136	—	60	青褐色 10 YR 8/6 不明	不明 RP15

表-4 南原遺跡出土遺物観察表(3)

標印番号	四版番号	遺物種類	計測値 (mm)			備考	出土位置
			口径	底径	高さ		
30	34	101 坎	(149)	54	58	赤 10 YR 6/6 ミガキ、ミガキ	ミガキ RP11
		102 坎	138	—	56	に古い黄褐色 10 YR 7/4 ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ RP14
		103 坎	132	65	—	に古い黄褐色 7.5 YR 7/3 ケズリ	不明 RP2
31	35	104 跡	117	—	89	赤 2.5 YR 7/8 ミガキ、ナデ、ケズリ	ヘラナデ、ナデ RP1
		105 跡	(112)	—	85	明褐色 7.5 YR 7/6 ケズリ、ミガキ	ヘラナデ RP11
		106 鉢	166	70	81	赤 2.5 YR 6/6 ミガキ、ナデ	ミガキ RP12
		107 跡	146	69	111	に古い黄褐色 10 YR 6/4 ナデ、ケズリ	ハゲメ、ミガキ、ナデ RP3
		108 瓢	(196) (100)	248	—	淡黃褐色 10 YR 4/4 ナデ、ミガキ、ケズリ	ヘラナデ、ミガキ RP10
		109 瓢	160	70	292	赤 2.5 YR 6/6 ハゲメ、ミガキ、ケズリ	ハゲメ、ナデ RP12
		110 瓢	183	70	224	赤 に古い黄褐色 10 YR 7/3 ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ RP7
32	36	111 瓢	(178)	—	—	淡黃褐色 2.5 YR 7/4 ハゲメ、ミガキ	ハゲメ、ミガキ RP8
		112 瓢	—	72	—	赤 2.5 YR 7/6 ミガキ、ナデ、ケズリ	ハゲメ RP8
		113 瓢	—	(60)	—	赤 2.5 YR 7/8 不明	不明 RP6
		114 坎	(103)	—	—	赤 5 YR 7/6 ミガキ	不明 RP6
		115 坎	(110)	—	(46)	赤 5 YR 7/6 不明	不明 RP8
		116 坎	(117)	—	—	に古い黄褐色 7.5 YR 7/4 ナデ	ナデ RP4
		117 瓢	138	84	158	赤 7.5 YR 7/6 ナデ、ハゲメ、ケズリ	ナデ RP1
		118 瓢	(134)	60	156	赤 7.5 YR 7/6 ナデ	不明 RP12
		119 ミニチップ	—	23	—	淡黃褐色 7.5 YR 8/4	ST27
		120 瓢	166	—	—	赤 5 YR 7/8 ナデ、ハゲメ	不明 RP7, 8
33	36	121 瓢	164	—	—	に古い黄褐色 10 YR 7/4 ナデ、ミガキ	ナデ RP6
		122 瓢	—	77	—	に古い黄褐色 10 YR 7/4 ハゲメ、ミガキ	ヘラナデ、ミガキ RP1
		123 坎	(138)	—	60	赤 7.5 YR 8/6 ミガキ、ケズリ	ミガキ RP4
		124 坎	136	—	71	赤 7.5 YR 7/8 ナデ、ケズリ	ミガキ RP2
		125 瓢	—	194	—	赤 7.5 YR 8/6 ハゲメ、ミガキ	ミガキ RP1
		126 瓢	224	(70)	278	に古い黄褐色 10 YR 7/8 ハゲメ	ハゲメ、ヘラナデ RP9
		127 瓢	(125)	—	—	赤 7.5 YR 7/6 ミガキ、ナデ	ミガキ RP4
		128 瓢	214	—	—	赤 10 YR 8/6 ハゲメ	ナデ、ミガキ RP6
		129 瓢	234	—	—	に古い黄褐色 7.5 YR 7/4 ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ RP1
		130 坎	(114)	—	52	赤 2.5 YR 7/8 ナデ、ミガキ	ミガキ RP2 ST1HEK1
34	37	131 坎	(110)	—	44	赤 2.5 YR 7/8 ミガキ、ケズリ	ミガキ RP11 ST1HEK2
		132 坎	146	—	54	赤 7.5 YR 7/8 ナデ、ミガキ	ミガキ RP21 ST1
		133 坎	(136)	—	52	赤 5 YR 7/6 ナデ、ミガキ	ミガキ RP10 ST1HEK2
		134 坎	(140)	—	54	赤 5 YR 7/6 ナデ	ミガキ RP22 ST1
		135 坎	133	—	53	淡黃褐色 7.5 YR 8/6 不明	ナデ、ミガキ RP15 ST1HEK2
		136 坎	120	43	52	赤 5 YR 7/6 ナデ、ミガキ	ミガキ RP23 ST1
		137 坎	133	—	53	赤 5 YR 7/6 ハゲメ、ミガキ	ミガキ RP17 ST1HEK2
		138 瓢	138	50	123	赤 5 YR 7/6 ハゲメ	ハゲメ RP13
		139 瓢	172	(76)	302	に古い黄褐色 7.5 YR 7/4 ナデ、ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ RP19
		140 瓢	—	74	—	に古い黄褐色 10 YR 6/4 ナデ、ミガキ	ヘラナデ RP1 ST51
35	38	141 高坎	99	(85)	86	赤 2.5 YR 6/1 ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ケズリ ST5, 5, 9 STHEK1
		142 坎	(110)	40	59	に古い黄褐色 10 YR 7/4 不明	ミガキ
		143 坎	(116)	—	62	赤 5 YR 6/6 ミガキ、ケズリ	ミガキ RP7
		144 坎	120	52	52	淡黃褐色 7.5 YR 8/6 ナデ	ナデ RP12
		145 坎	(120)	—	—	赤 5 YR 7/6 ミガキ	ミガキ RP13
		146 坎	127	—	59	淡黃褐色 7.5 YR 7/6 ケズリ	不明 RP5
		147 坎	(122)	—	52	赤 5 YR 6/6 ミガキ	ミガキ RP8
		148 坎	144	—	63	赤 7.5 YR 7/6 ハゲメ	不明 RP6
		149 坎	144	—	65	赤 7.5 YR 8/6 不明	不明 RP11
		150 高坎	(129)	—	—	に古い黄褐色 7.5 YR 7/3 ナデ、ミガキ	ミガキ

表-5 南原遺跡出土遺物観察表(4)

辨認番号	図版番号	遺物番号	器種	計測値 (mm)		色調	調 整	備 考	出土位置
				口径	底径				
45	39	151 高杯 (145)	—	—	—	緑 7.5 YR 7/6 不明	外 面 内 面	ミガキ	ST32
		152 置 —	—	—	—	緑 5 YR 7/8 ナゲ	ハケメ		
		153 壺 180	55	285	—	灰褐色 7.5 YR 6/2 ナゲ, ミガキ, ケズリ ハケメ, ナゲ	ナゲ	RP3	
46	40	154 瓢 260	—	—	—	緑 5 YR 7/8 ナゲ, ハケメ	ミガキ	RP10	SQ73
		155 壺 (156)	—	—	—	淡黄褐色 10 YR 8/4 ナゲ	ハラナメ	RP12	
		156 壺 (280)	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/4 ナゲ, ハケメ	ハサメ, ミガキ	RP10	
		157 壺 (161)	—	—	—	緑 2.5 YR 6/6 ハケメ	ハケメ	RP1	
		158 壺 (193)	—	—	—	にせい緑 7.5 YR 7/4 ミガキ, ケズリ ハナメ, ミガキ, ナゲ	ハナメ, ナゲ	RP12	
51	41	159 瓢 115	—	64	—	緑 2.5 YR 7/8 不明	不明	RP1, 2	SK109
		160 瓢 (120)	—	—	—	緑 7.5 YR 7/8 不明	不明	不明	
		161 瓢 (140)	—	—	—	にせい緑 5 YR 6/4 ミガキ, ハラナメ	不明	不明	
		162 瓢 (124)	—	88	—	緑 7.5 YR 7/8 不明	ミガキ, ハケメ	ミガキ	
		163 瓢 —	—	—	—	緑 2.5 YR 6/6 ミガキ, ケズリ ミガキ	ミガキ	ミガキ	
		164 鉢 (145) 65	100	—	—	緑 10 YR 6/8 ナゲ, ケズリ	ハラナメ	RP1, 2	
		165 壺 —	—	85	—	緑 5 YR 7/8 不明	ハケメ	ミガキ	
		166 高杯 127 (92) 91	—	—	—	緑 10 YR 6/8 ナゲ, ミガキ	RP1	EK74	
		167 置 —	—	—	—	緑 7.5 YR 6/6 不明	不明	EK75	
		168 壺 (120)	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/4 不明	不明	SQ71	
53	42	169 壺 146 71	164	164	—	緑 5 YR 8/4 ミガキ	ミガキ	EK92	SK108
		170 壺 (180)	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ミガキ	ミガキ, ハケメ	RP1	
		171 壺 —	—	88	—	緑 7.5 YR 7/8 ハナメ	ハナメ	RP1	
		172 置 128	75	241	—	淡黄褐色 10 YR 8/4 ナゲ, ミガキ, ハナメ	ミガキ, ハナメ	EK09	
		173 置 (154) 70	232	—	—	淡黄褐色 10 YR 8/6 不明	ミガキ	EK46	
		174 壺 260	80	260	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ナゲ, ミガキ, ハナメ	ミガキ, ナゲ	RP1	
		175 瓢 (138)	—	60	—	緑 5 YR 6/8 ナゲ	ミガキ	RP2	
56	43	176 瓢 126	56	52	—	緑 5 YR 7/8 不明	ミガキ	RP4	SK117
		177 壺 —	—	75	—	緑 5 YR 7/8 ハラナメ, ケズリ	ハラナメ, ミガキ	RP3	
		178 開口 —	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/2 ミガキ	ハナメ	RP47	
		179 塔 —	—	24	—	緑 7.5 YR 8/6 不明	不明	RP6	
		180 置 210	—	—	—	淡黄褐色 10 YR 8/4 ナゲ	不明	RP28	
		181 置 (117)	—	—	—	にせい緑 7.5 YR 7/2 ハナメ, ナゲ	ハナメ	RP29	
		182 置 —	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/4 ハナメ, ナゲ	ミガキ, ハナメ	RP2	
57	44	183 置 —	—	—	—	にせい緑 10 YR 7/4 ナゲ, ハナメ, ミガキ	ハナメ	RP56	SG41
		184 置 —	—	(48)	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ハナメ, ケズリ	ハナメ	RP148	
		185 置 142 (65) 328	—	—	—	にせい緑 10 YR 6/4 ナゲ, ハナメ, ミガキ	ハナメ	RP27	
		186 置 53 —	—	—	—	淡黄褐色 5 YR 8/4 ハナメ	ハナメ, ナゲ	RP4	
		187 鉢 —	—	—	—	緑 7.5 YR 7/8 不明	ハナメ	RP15	
		188 壺 —	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ナゲ	不明	RP47	
		189 鉢 (170) (50) 150	—	—	—	淡黄褐色 10 YR 8/4 ハラナメ	ハラナメ	RP48	
		190 置 144	60	198	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ハナメ	ハナメ, ハラナメ	RP45	
		191 壺 (200)	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/4 ナゲ	不明	RP45	
		192 壺 (216)	—	—	—	緑 5 YR 7/8 不明	不明	RP1	
57	44	193 壺 —	—	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 ハナメ, ナゲ	ハナメ	RP39	SG41
		194 壺 (181)	—	—	—	緑 5 YR 7/8 ナゲ	ナゲ, ハナメ, ミガキ, ハナメ, ミガキ, ナゲ	RP38	
		195 壺 (135) 40	131	—	—	緑 2.5 YR 6/6 ハナメ, ケズリ, ナゲ	ハラナメ	RP27	
		196 壺 —	68	—	—	淡黄褐色 7.5 YR 8/6 不明	ハナメ	RP21	
		197 壺 —	70	—	—	淡黄褐色 2.5 YR 8/1 ハナメ	ハナメ	RP28	
		198 壺 —	82	—	—	淡黄褐色 10 YR 8/4 ハナメ	ハナメ	RP28	
		199 ミニチュア (69) 48	46	—	—	にせい緑 7.5 YR 7/3 不明	不明	RP28	
		200 通 —	—	—	—	緑 5 YR 5/1 滑擦皮状	ロクロナデ	供養品	

表-6 南原遺跡出土遺物観察表(5)

辨認番号	図版番号	遺物番号	器種	計測値 (mm)		色調	調 整	備 考	出土位置	
				口径	底径					
57	45	44 291	环	(132)	74	33	灰	10 YR 5/1 ロクロナデ	ロクロナデ	SG41
		45 202	环	(130)	70	34	灰	7.5 YR 6/1 ロクロナデ	ロクロナデ	
		203 高台环	—	86	—	灰	5 YR 6/1 ロクロナデ	ロクロナデ		
57	44	44 204 高台环	—	133	86	45	灰白	10 YR 5/2 ロクロナデ	ロクロナデ	SG41
		205 环 (200)	—	—	76	—	淡黄褐色	10 YR 8/2 ハラナメ	ミガキ	
		206 环 (149)	60	55	—	—	黄褐色	7.5 YR 8/2 ミガキ	不明	
59	45	207 环 100	—	—	42	—	淡黄褐色	10 YR 5/1 ナゲ	ナゲ	SK105
		208 壺 192	90	238	—	—	明褐色	7.5 YR 7/1 ミガキ, ハラナメ	ハサメ, ミガキ	
		209 壺 —	—	—	—	—	明褐色	7.5 YR 7/1 ミガキ, ハラナメ	ハサメ, ミガキ	
60	46	210 壺 130	—	—	—	—	灰	5 YR 7/6 不明	不明	SK106
		211 壺 (162)	—	—	—	—	淡黄褐色	7.5 YR 8/6 ハナメ	不明	
		212 高环 (122)	—	—	—	—	灰	5 YR 7/6 ナゲ, ハケメ	ミガキ	
		213 环 (124)	—	—	—	—	灰	5 YR 7/8 ミガキ	ミガキ	
		214 高环 (150) (10) 103	—	—	—	—	灰	5 YR 7/6 ナゲ, ミガキ	ミガキ	
		215 壺 184	—	—	234	—	淡黄褐色	10 YR 6/4 ナゲ, ハラナメ	ハラナメ	
		216 盆 75	—	—	—	—	にせい淡黄褐色	10 YR 7/4 ハラナメ, ケズリ	ハナメ	
		217 环 132	—	—	50	—	灰	5 YR 6/6 ミガキ, ケズリ	ミガキ	
		218 环 119	—	61	—	—	灰	5 YR 6/6 ミガキ	ミガキ	
		219 盆 150	—	—	78	—	にせい淡黄褐色	10 YR 6/4 ハナメ, ハケメ	ハラナメ	
61	47	220 盆 134	—	—	90	—	黄褐色	7.5 YR 8/6 不明	ハラナメ, ミガキ	21-22G
		221 环 (108)	—	—	47	—	灰	5 YR 6/1 ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ	
		222 环 (150) (46) 44	—	—	—	—	灰	2.5 YR 8/2 ロクロナデ	ロクロナデ	
		223 环 —	—	—	—	—	灰	5 YR 6/1 ケズリ	ロクロナデ	
		224 环 144	—	—	51	—	赤褐色	2.5 YR 4/0 ナゲ, ミガキ	ヘタナメ, ミガキ	
		225 模造品	石製品	33	25	5	—	孔 2 カ所	ST 7	
		226 模造品	石製品	—	20	5	—	約 1/2 残存 孔 1 カ所	ST11	
		227 模造品	石製品	45	35	7	—	孔 2 カ所 同面研磨	ST14	
		228 紋様車	土製品	64	32	40	RQ 22	孔径 8 mm	ST 8	
		229 紹輪車	土製品	40	30	20	—	孔径 7 mm 磨滅	ST30	
61	47	230 紹輪車	石製品	47	25	19	—	孔径 8 mm 磨滅	SG41	SG41
		231 紹輪車	石製品	50	32	26	RQ 13	孔無し 未完成品	ST27	
		232 紹輪車	石製品	40	14	12	—	孔径 8 mm 滑石製 同面研磨	18-12G	
		233 砥石	石製品	65	32	20	RQ 7	片面研がれ底み 端部欠損	ST24	
57	44	234 砥石	石製品	91	35	17	—	同面研がれ底み 端部欠損	SQ72	SG41

表-7 南原遺跡出土土石製品、土製品観察表

辨認番号	図版番号	遺物番号	器種	計測値 (mm)		備 考	出土位置
				長	短		
47	222	紹輪車	土製品	64	32	40	RQ 22 孔径 8 mm
61	223	紹輪車	土製品	40	30	20	孔径 7 mm 磨滅
47	224	紹輪車	石製品	47	25	19	孔径 8 mm 磨滅
47	225	紹輪車	石製品	50	32	26	RQ 13 孔無し 未完成品
47	226	紹輪車	石製品	40	14	12	孔径 8 mm 滑石製 同面研磨
47	227	紹輪車	石製品	65	32	20	RQ 7 片面研がれ底み 端部欠損
47	228	砥石	石製品	91	35	17	同面研がれ底み 端部欠損

E U39・40埋設遺構（第52図・図版16）

20～15Gに位置する。S K101・127土壙等4基が密集する。遺構の切り合いでE U39, 40の順である。E U39(172)が正位の状態で検出したものに対し、E U40(173)は半埋で検出である。隣接するS T28の床面と同じ高さで、E U39に埋設された土師器蓋の口縁部が露呈する。S K101・127土壙についても埋設遺構の可能性がうかがえる。

S E60戸跡（第58図・図版17）

19～11Gに位置する。掘方は径2.1～2.4mの楕円形を呈する。縦板、横棟の構造をし、井戸底に径38cmの曲物を置く。深さは検出面から1.7mを測る。西側は土壙により破壊されている。土師器壺、ハケメ調整の壺、扁平な須恵器蓋等が掘方から出土している。

S G41河川跡（第54・55図・図版13）

弧を描きながら調査区を横断する。長さは120m、幅は11～15mに及び、深さは80cm～1mを測る。傾斜は7°前後と緩いが、中央部に幅50cm、深さ30cmのU字形の溝が掘り込まれている。遺物は主に上層からの出土で、特に南東部（下流）が量的に多い。なおS D42溝跡は、S G41に平行することから、意図して掘り込まれた溝跡と考えられる。完掘には至らなかったもののS G41からは、調査区中最も多い遺物が出土した。しかし小破片であること、遺存状態が悪いことから、図示できるものは限られた。長期な流れ込みによると考えられ、層位的な分類は困難である。出土状況は1トレンチ、つまり下流に多く見られ、河川中央の最深部に集中する。特に古相を示すものはその傾向が強い。器種には器台、壇、複合口縁や口縁部に段を有する蓋等が見られる。また混在しつつも傾斜地の上位、あるいは傾斜地に掘り込まれた土壙等から奈良～平安期の壺、蓋等が出土する。

3 まとめ

本遺跡は古墳時代中期を主体とする集落跡である。検出された遺構の内、積極的な資料を持ち合わせないものも含めて、主体となる時期の竪穴住居跡は33棟である。形態的には、カマドを有するものと、地床炉のものが見られたが、圧倒的に前者が多く、明確に地床炉を確認したのはS T19のみである。カマドの位置は壁の中央に設けられるものと、中央よりやや左側に設けられるものがあり、後者はカマドと壁の間に例外なく貯蔵穴が見られる。主軸となる方向は大別して北と南に分かれ。例外的に東が見られる。製鉄遺構に関しては、供伴する遺物が少ないと同時に時期決定の資料に欠くものの、製錬炉の形態は奈良時代初頭から平安時代末にかけて見られるものである。出土遺物の多くは、竪穴住居跡及びS G41河川跡からである。竪穴住居跡の中でも、S T8, 20, 25, 52で比較的まとまった遺物が出土した。とりわけS T8, 25については、焼失居屋の床面上の資料として一括性が高く、好資料といえよう。土師器の壺、高壺には内黒が認められず、有段になるもの、内面に縞を有するものが見られること。高壺が粗脚化にあること。また壺についても球形から幾分長脚化の傾向が見えはじめる等の特徴から、5世紀後葉頃の南小泉式の最も新しい時期に併行するものと考えられる。須恵器には蓋、壺、高壺等が出土したが、量は極めて少ない。時期はI期後葉のTK23～TK47併行と考えられる。

第V章 堂ノ下遺跡

1 遺構の分布（第62図）

本遺跡は、東側を北流する最上川の浸食作用によって形成された自然堤防に立地しており、すぐ南側を堀立川が流れている。

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡3棟・掘立柱建物跡1棟・土壙跡3基・溝状遺構2条の他、竪穴状遺構、柱穴等で調査区西側の段丘状の平坦地に位置している。遺構の検出面は層序のIV層上面にあたり、表土からの深さは場所により異なり、深い所では表土より60cm、浅いところは20cm程度で検出面に達する。そのため、遺構の上部が畑地の耕作により破壊されているものもみられた。

各遺構の分布は、段丘平坦地南西側に並ぶ形で、S T1、S T2、S B11が隣接しており、S T3が北東端に独立して位置し、S T3の南西側にSK23がある。また、SK23に隣接してSK22が位置している。SK21はS B11とS T3の中間やS B11側に位置している。また、農道を挟んで西側の調査区からは、溝跡と少數のビット跡が検出された。以上のように、遺構の分布は、調査区の東側にあたる低地の旧河道部分は皆無で、西側に集中して遺構が検出された。以上の事から今調査区の遺構集中部分は集落跡の南東端に当たり中心部は西側及び西南西側の調査区外に位置すると思われる。

2 遺構と遺物

S T1 竪穴住居跡（第63図 図版49）は、調査区の南西端や中央部、55・56-22・23グリッド内に位置し、S B11掘立柱建物跡に隣接する。

規模は、平面プランで長軸方向 5.0m、短軸方向 4.4m、検出面から床面まで16～20cmを測る。南西壁にカマドを有する。住居跡北側角に径60cm、深さ30cm程の土壙を伴う。柱穴は3基確認された。カマド周辺及び住居跡北西半から焼土が検出されたが、床面では無いことから、畑の耕作の際にカマドの焼土が飛び散ったものと考えられる。遺物は、カマド周辺、及び住居跡覆土から奈良時代の土師器が出土した。

S T2 竪穴住居跡（第64図 図版49）は、調査区南側、57・58-22・23グリッド内で検出された。

規模は、平面プランで長軸方向 5.6m、短軸方向 4.4m、検出面から床面まで18～28cmを測る。南西壁にカマドを有すると思われる。柱穴は6基確認された。遺物はカマド付近より須恵器が出土した。

S T3 竪穴住居跡（第65図 図版50）は、調査区の段丘状平坦地の北端、61・62-27・28グリッド内で検出された。

規模は、平面プランで長軸方向 3.8m、短軸方向 3.3m、検出面から床面まで12～20cmを測る。カマドは検出されなかつたが、深さ35cm程の互いに切り合う土壙を2基伴う。柱穴は7基確認され、EP1から土師器が出土した。また、住居跡覆土から須恵器も出土している。共に奈良時代の所産である。但し、この住居跡はカマドが検出されなかつたこ

と、その規模が他の竪穴住居跡よりかなり小さいこと、及び遺物を含む土壌を伴うことから住居というより、倉庫跡とも考えられる。

S B11掘立柱建物跡（第66図 図版50）は、調査区の南西端 ST 1 竪穴住居跡の西側に隣接する。54・55・24・25グリッド内で検出された。西側の柱穴2基は攪乱の為に検出されなかったが、東西2間、南北2間で中心にも柱を持つ紺柱の建物跡と考えられる。柱穴の大きさは、いずれも直徑30~40cmのほぼ円形で深さは確認面より約10~30cm、柱間距離は約 2.2m を測る。遺物の出土はない。

S K21土壙（第67図 図版51）は、調査区の北西側、57~26グリッドで検出された。

平面形は円形で、直徑 1.0m、深さは確認面より 1.26m を測る。覆土の 4 層から 5 層にかけて掌大の礫を多量に含んでいるが詳細は不明。

S K22土壙（第66図 図版52）は、調査区の北西側、59・60~27グリッドで検出された。平面形は円形で、直徑 0.9m、確認面からの深さは 42cm を測る。

S K23土壙（第67図 図版53）は、調査区北西側で、ST 3 竪穴住居跡の南西側、60~27・28グリッドで検出された。

平面形は、円形で、直徑 1.27m、確認面からの深さは 65cm を測る。

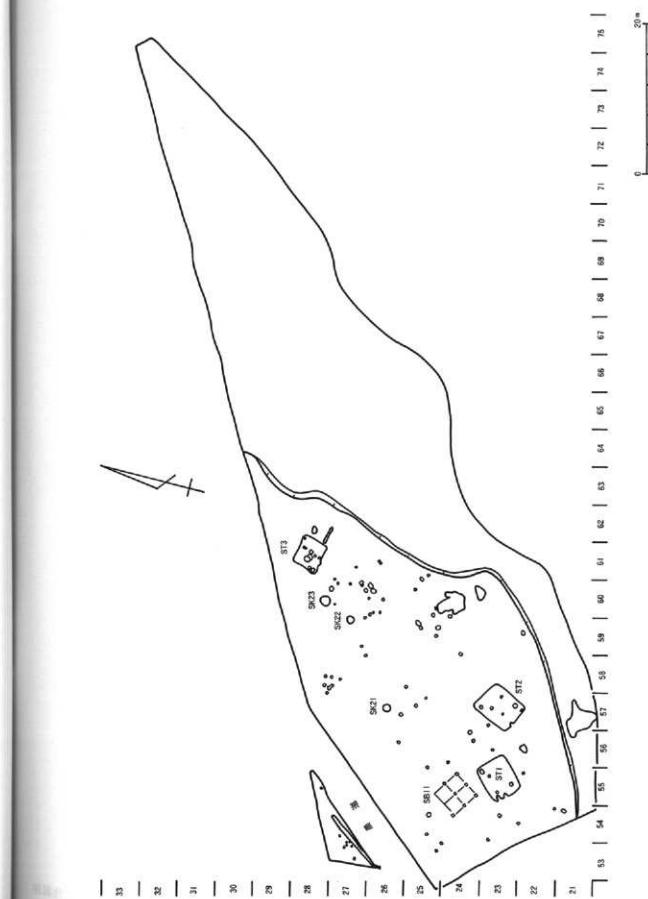
遺物は、今回の調査で整理箱にして 2 箱出土した。主に土師器・須恵器・赤焼土器等で以下に概略的な説明を加える。

土師器（第68図 1~5・7~10）で図示できたものは 9 点で甕と环の資料がある。

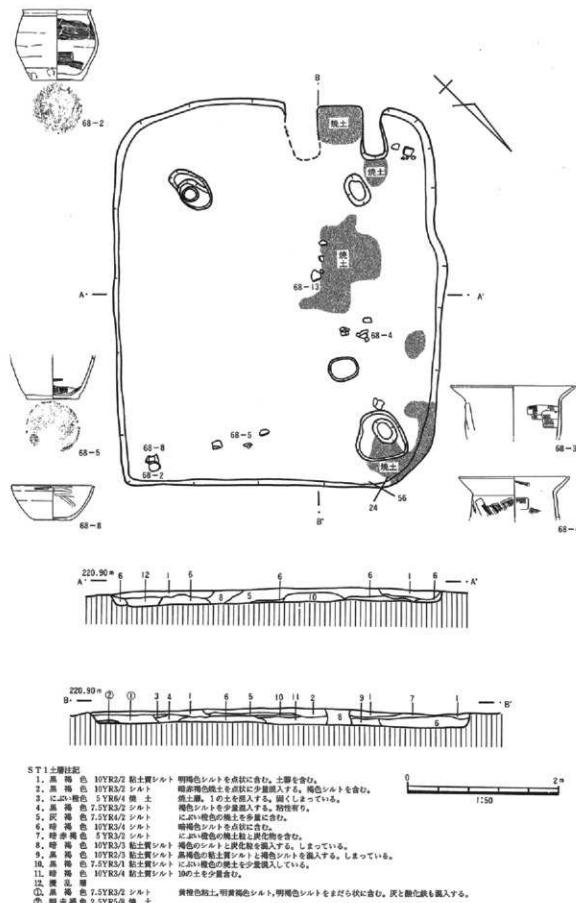
甕の資料には、口縁部が大きく外反し、胴部は頸部から緩やかに底部へ至り、口径が器高を上まわり、内外面にハケ目の器面調整が施され、底部に木葉痕がみられるもの（1）、口縁部が外反し、胴部中央部に最大径を有し、内面にハケ目の器面調整が施され、外面に押圧痕、底部に木葉痕がみられるもの（2）と、口縁部が大きく外反し、緩やかに胴部に至り、内外面にハケ目の器面調整が施されるもの（3・4）、底部から緩やかに胴部に至り、内面にハケ目の器面調整が施され、底部に木葉痕がみられるもの（5）がある。以上の中製作技法はロクロ不使用である。

环は破片資料のみで、全て内黒処理が施されている。内面にミガキのあるもの（7）、外面にハケ目、内面にミガキの器面調整が施されているもの（9）、底部から口縁部へ緩やかに立ち上がり、口縁部がやや内弯し、内面にミガキ、外面口縁部にハケ目の器面調整が施されるもの（8）がある。甕の口縁部破片資料には、頸部が内弯し、口縁部が外反し内外面にハケ目の器面調整がみられる（10）。

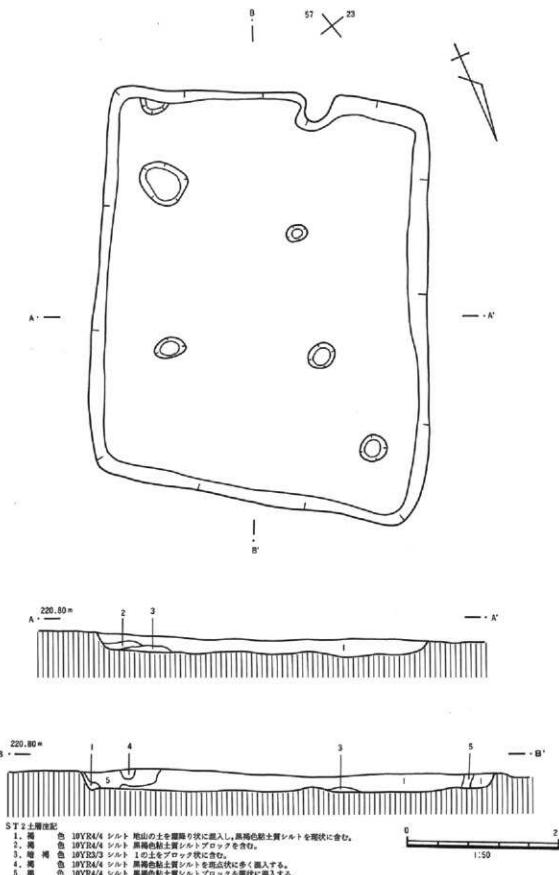
須恵器（第68図 6）は遺元焼成で、約 2/3 が残存する环である。ロクロ使用、底部から口縁部へ緩やかに立ち上がり口縁部がやや外反し、底部にヘラ切りの切離しがみられる。



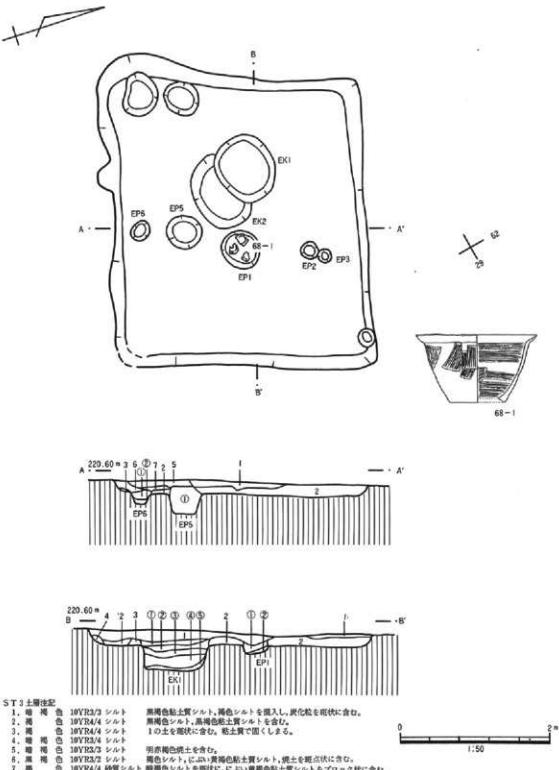
第62図 堂ノ下遺跡遺跡記載図(S=1:500)



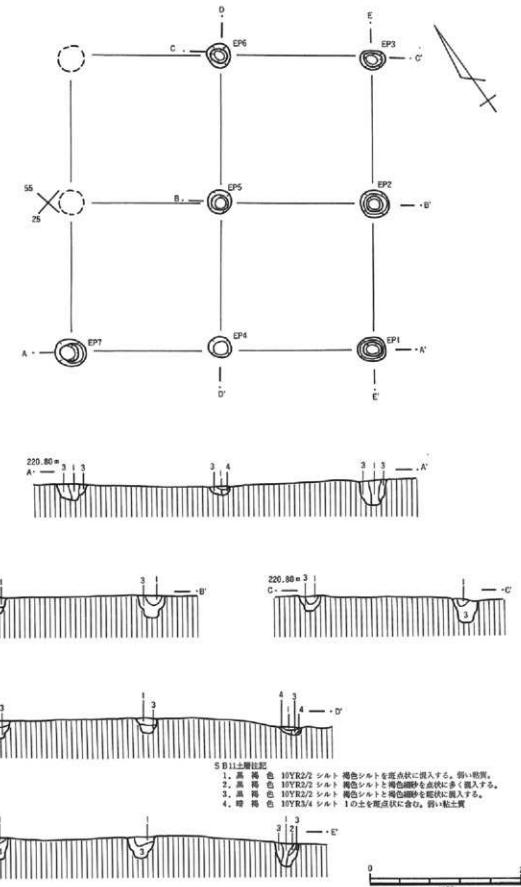
第63図 STI 穴穴住居



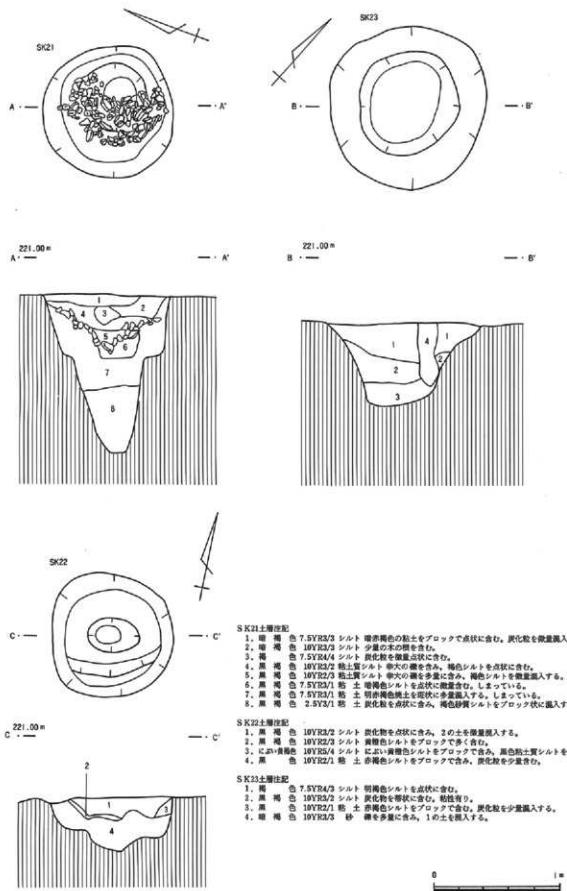
第64図 ST2堅穴住居跡



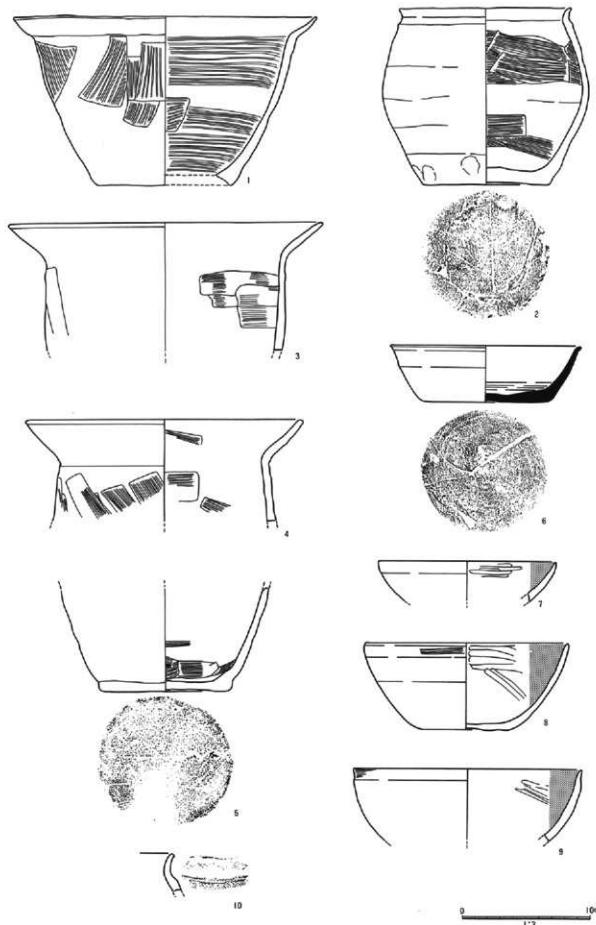
第65図 ST 3整穴住居跡



第66図 SB 11振立柱建物跡



第67図 SK21・22・23土壤



第68図 堂ノ下遺跡出土遺物

表-8 堂ノ下遺跡出土遺物計測表

押印 番号	図版 番号	遺物 番号	器種 器形	出土位置 （口径 ×底径 ×高さ）	計測値 (mm)	色 調	調 整		備 考
							外 面	内 面	
第 68 図 55	55	1 土器 瓢	ST3-EPI	(240) (105) 134	10YR2/3 に赤い黄緑	ハケ目	ハケ目	RP2・木葉底	
		2 土器 瓢		(136) 100 140	2.5YR6/4 に赤い黒	不明	ハケ目	RP4・輪模み・木葉底	
		3 土器 瓢	ST1	(246) —	7.5YR7/6 緑	ハケ目	ハケ目	RP4	
		4 土器 瓢		(214) —	10YR4/4 に赤い黒	ハケ目	ハケ目	RP1	
		5 土器 瓢		— 106	7.5YR7/6 黒・10YR4/1 黒灰	不明	ハケ目	RP3・木葉底	
		6 須恵器 环	ST3	(150) 95 45	2.5YR8/1 灰白	ロクロア	ロクロア	ヘラ切	
		7 土器 瓢		(140) —	10YR7/4 に赤い黄緑	不明	ミガキ	内面	
		8 土器 瓢	ST1	(160) 70 69	10YR4/4 に赤い黒・2.5YR1 黒	ハケ目	ミガキ	RP5・木葉	
		9 土器 瓢		(180) —	7.5YR7/6 緑	ナダ	ミガキ	内面	
		10 土器 瓢		— — —	10YR6/4 に赤い黄緑	ハケ目	ハケ目		

3まとめ

一般国道13号米沢南陽道路改築工事にかかる堂ノ下遺跡の緊急発掘調査の結果を要約する。

堂ノ下遺跡は山形県東置賜郡高畠町鰐野目字堂ノ下に所在し、羽黒川と梓川の合流する最上川の左岸に位置し、その最上川の浸食作用によって形成された自然堤防に立地する。今回は、事業路線内の3,430m²の発掘調査を行い、奈良時代の集落跡の一部を検出した。

遺構は、堅穴住居跡3棟、掘立柱建物跡1棟、土塙跡3基の他、柱穴、溝跡、落ち込み等が検出された。以上のうち堅穴住居跡、掘立柱建物跡は、その出土遺物等より奈良時代の遺構と考えられる。他の土塙跡、溝跡、落ち込み等は出土遺物が伴わぬこと等から、その年代を特定することは出来なかった。また、遺構の集中地域が調査区の西側と農道を挟んだ北西側のみであることから、堂ノ下遺跡の集落跡の中心は調査区外である西側及び北西側に存在すると考えられる。

遺物は整理箱に2箱類の出土だが、そのほとんどが、概ね奈良時代後半（8世紀後半）の所産で、土器の甕、环等で復元できた資料が数点出土し、当遺跡の年代を特定する貴重な資料となった。遺物の内訳をみると土器が大部分を占め、須恵器、赤焼土器他は0.5箱程の出土である。

本遺跡に隣接する南原遺跡では古墳時代の大きな集落跡が確認され、飯塚館跡からは平安時代の遺物が出土していることから、両遺跡との関係を分析することにより古墳時代～平安時代への移行をさらに明確にできると考えられる。

第VI章 飯塚館跡

1周辺の城館跡

現在、飯塚館跡は堀立川を挟み高畠町と米沢市の境界の高島側に位置する。周辺の平地には、北に沖の前館と標野目東館が、東から南にかけては入生田館、露藤館、中島館が、そして、西には小其塙館、南には中川原館と三合目館が位置し、そして南の戸塚山に三合目館と対をなして戸塚山館が位置している。戸塚山館を除き、飯塚館を含めたこれらの城は平城である。平城は、平地に構えた城で、はじめ方形に近い規則正しい縄張りであったが、後に周囲の情勢からであろう複雑な形のものも營まれた。鍬倉末～室町中期までは、天然の要害を利用した山城が城の主要形態であったが、その後、平城に移っていたといわれている。

室町時代～戦国時代にかけて置賜地方を支配していたのは1380年頃までは長井氏で、その後は長井氏を滅ぼした伊達氏が1590年頃までこの地を治めていた。軍事的拠点としていたのは飯塚館の北東の二井宿跡に位置している屋代館と思われる。但し、屋代館は置賜地方全域から見ると南東部に偏しており、しかも標高600mの高所にあるため冬期は積雪多量で鉄は通行不可能なので、置賜地方の統治上、本城を高畠城に構え、周辺の城館に家臣や土着の豪族を配したと考えられる。前に掲げた飯塚館を含む各館跡も領土内の治安・発展の為に家臣や土着の豪族を置いた館跡と思われる。

2遺構と遺物

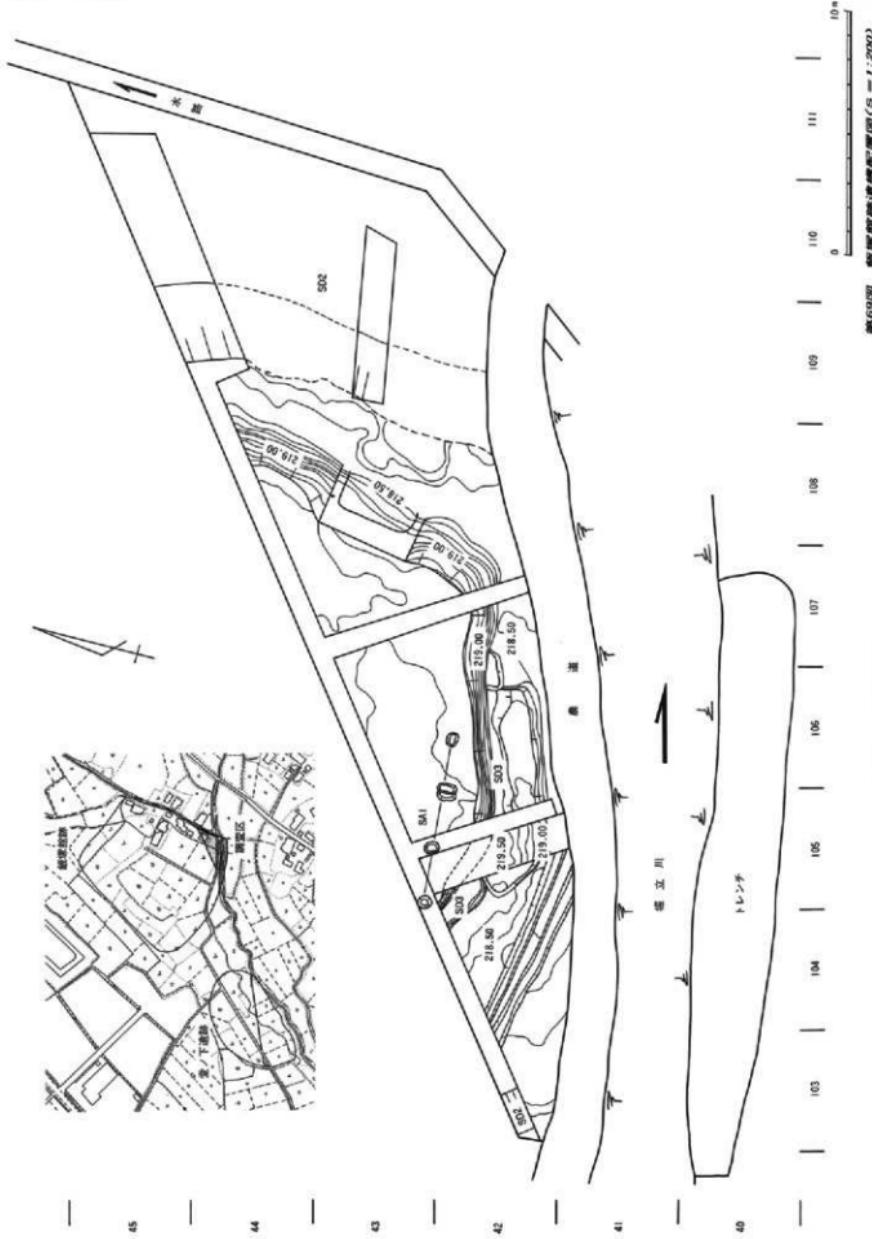
今回調査した部分は城館の南東角の外堀と、曲輪部分である。検出された遺構は、堀跡1条と、柵列跡1基、溝跡1条である。

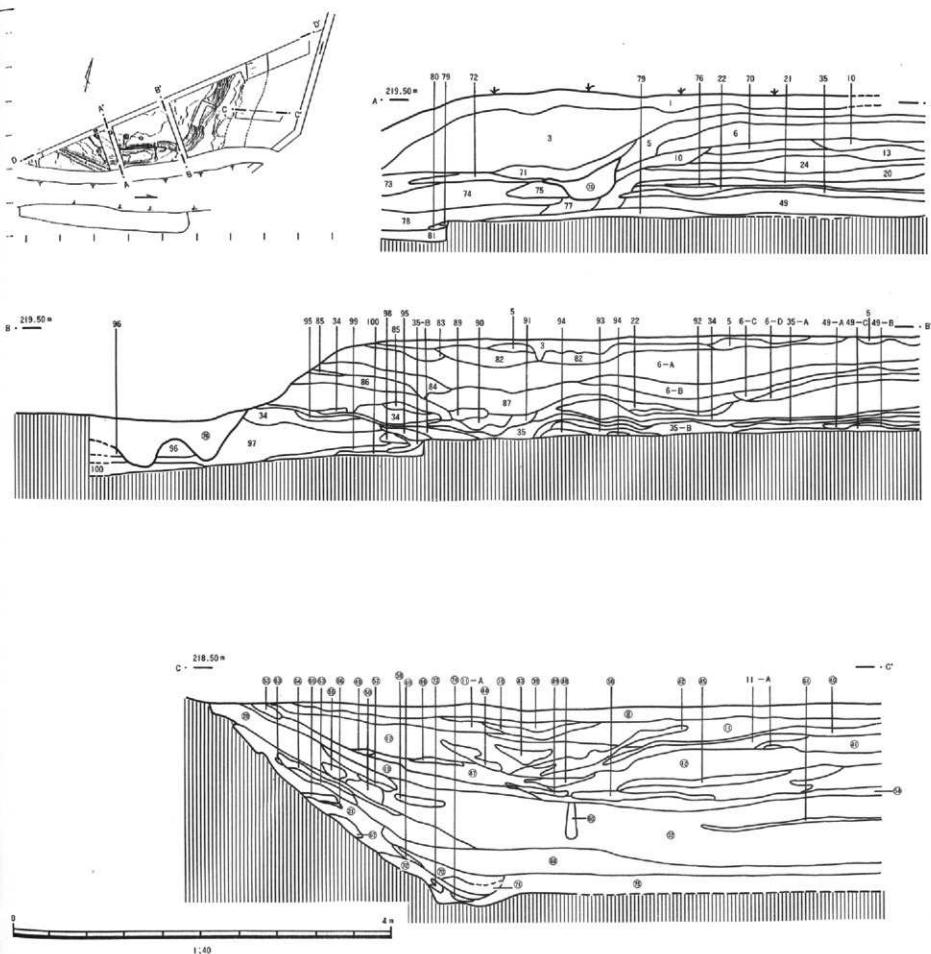
S A 1 柱列跡（第72図 図版58）は、調査区の西隅、曲輪部分の南西角、105・106-42グリッドで検出された。確認された柱列は3間で、柱間距離2.2～2.5mを測る。柱穴は、E P 1 が直径約50cmの円形、E P 2・E P 4 は長径50～60cm、短径40cmの隅丸長方形でE P 3 は2つの柱穴が切り合っており、新しい方は長径80cm、短径35cmの隅丸長方形で、古い方は、径80cmの隅丸長方形と思われる。深さはいずれも10～20cmと浅い。この柵列跡は、西側の調査区外に伸びると思われる。出土遺物は無い。

S D 2 堀跡（第69～71図 図版57）は、調査区の東端と西端 108～111～42～45グリッド及び103・42グリッドで検出された。共に東端と西端の立ち上がりが確認出来ず明確な幅は確認出来なかったが、館跡推定図から幅約10～14mを測ると思われる。また、深さは最深部で確認面から1.6mを測る外堀跡である。出土遺物は無い。

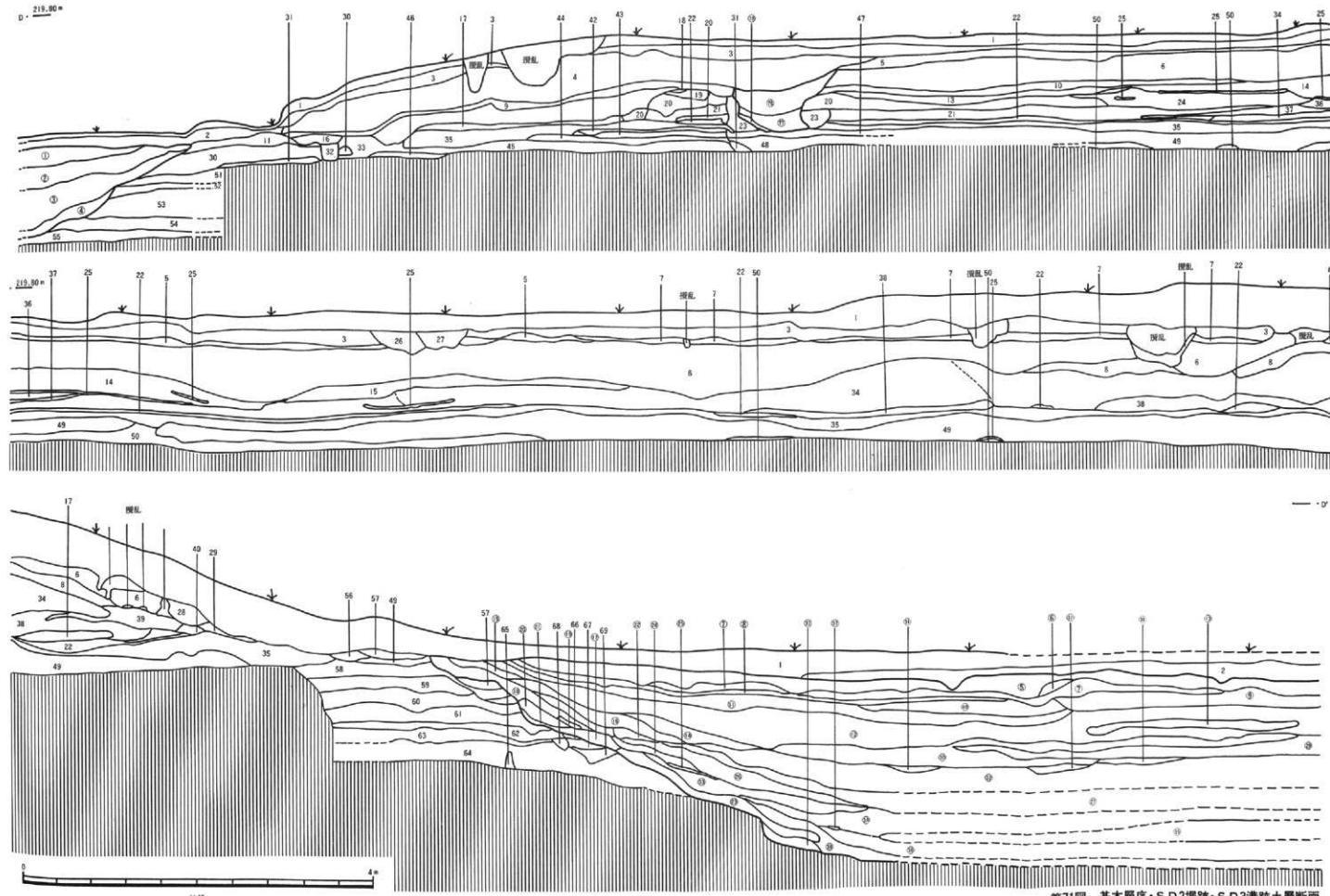
S D 3 溝跡（第69～71図 図版57）は調査区西半 104～106～42グリッドで検出された。曲輪部分の西側から北側に沿って、確認面から深さ30cm、幅1m程掘り込んでいる。出土遺物は須恵器の甕の破片が1点出土した。

本館跡から出土した遺物は、調査した部分が館跡の一番外側で南西角的一部分という事もあり、破片資料のみで整理箱1箱であった。しかも、本館跡に関係すると考えられる遺

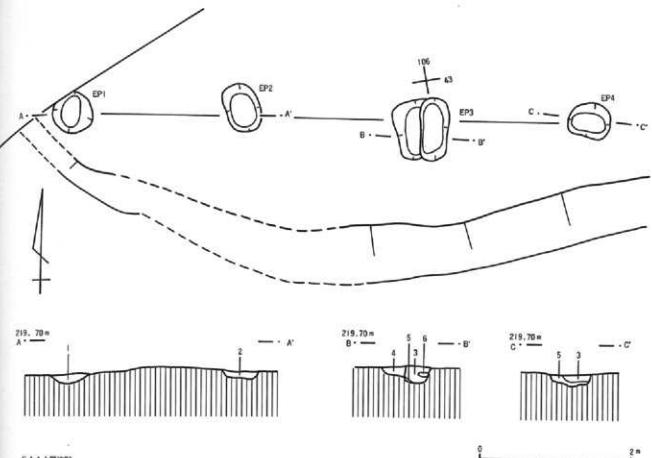




第70図 基本層序・SD2掘跡・SD3溝跡土層断面



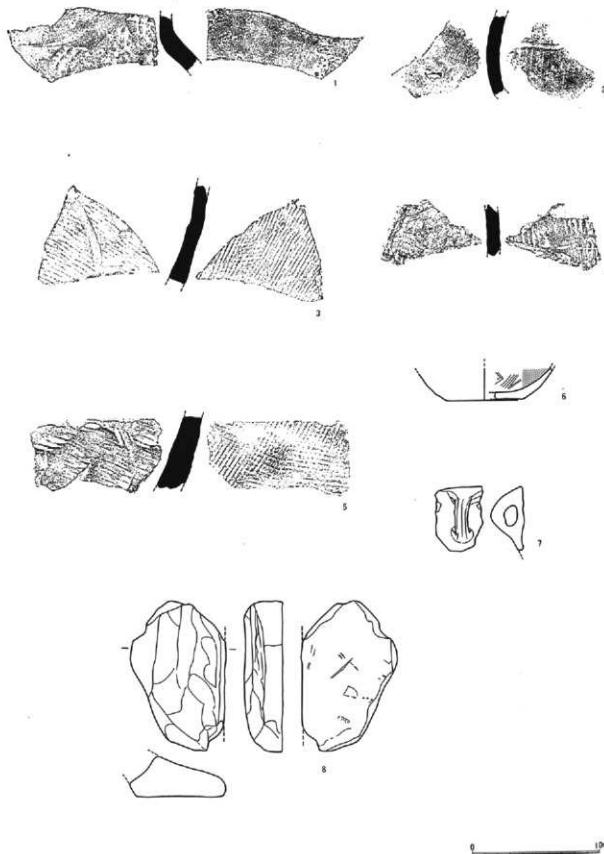
第71図 基本層序・SD2堀跡・SD3溝跡土層断面



S A 1 土壙剖面
 1. 黒褐色 10YR5/3 シルトに含む黄褐色シルトをブロックで帯状に含む。
 2. 黄褐色 10YR5/2 シルト 同上
 3. 黑褐色 10YR5/3 シルト
 4. 黄褐色 10YR5/3 シルト 帯状層に含む黄褐色砂質シルトを点状に混入する。
 5. 黑褐色 10YR5/2 シルト 6の土の土ブロック状に混入する。
 6. こぶ状層 10YR5/4 砂質シルト 混入

表-9 飯塚館跡出土遺物調査表

探査番号	回叢番号	遺物番号	器種	器形	出土位置	計測値 (mm)	色調		調整	
							外	内	外	内
73	1	須恵器	甕	106-4G	—	—	2.5YR5/2	暗灰	タケ	アテ
		須恵器	甕	104-4G	—	—	2.5Y5/1	黄灰	横ナメ・タケ	
		須恵器	甕	106-4G	—	—	2.5Y6/2	灰黄	タケ	ナゲ・アテ
		須恵器	甕	SD3	—	—	2.5YR6/2	灰黄	横ナメ・タケ	ナゲ
	61	須恵器	甕	104-4G	—	(60)	10YR6/1	灰灰	タケ	アテ
		赤燒土器	甕	109-4G	—	(60)	7.5YR1/4	にじみ・灰	不明	ミガキ 内黒
		土師器	取手	109-4G	—	—	5YR6/8	透	不明	不明



第73図 飯塚館跡出土遺物

物も希薄で、主に平安時代の遺物である。図示したものは8点で、概略的な説明を加える。

須恵器（第73図1～5）は、運元焰焼成の土器で全て縁の破片である。頭部の資料は、多くの字に屈曲し外面に自然釉とタタキが、内面にアテがみられるもの（1）と、縁やかに外反し外面にタタキと弯曲部に横ナデの調整が施してあり、内面に横ナデがみられるもの（2）がある。次に、体部資料は、外面にタタキ、内面にナデとタタキのあるもの（3）と、唯一遺構内出土で外面に横ナデとタタキ、内面にナデがあるもの（4）、外面にタタキが、内面にアテのあるもの（5）がある。

赤土器（第73図6）は、酸化焰焼成の土器で、壺の底部破片である。内面にミガキ及び白色処理をおこなっている。外面は摩滅が著しく調整技法は不明である。

土器（第73図7）は、内耳土器で壺の内側の、口縁部分に付く取手の部分である。焼成は酸化焰焼成であるが、胎土に粗い砂を多く含んでいるために赤土器よりも脆い。ツマミ部分は、壺を作成した後に内側をツマミ上げ成型したと思われる。唯一この館跡の時期を検討する際の資料となる。

以上の他に、砥石と思われる石製品（第73図8）がある。

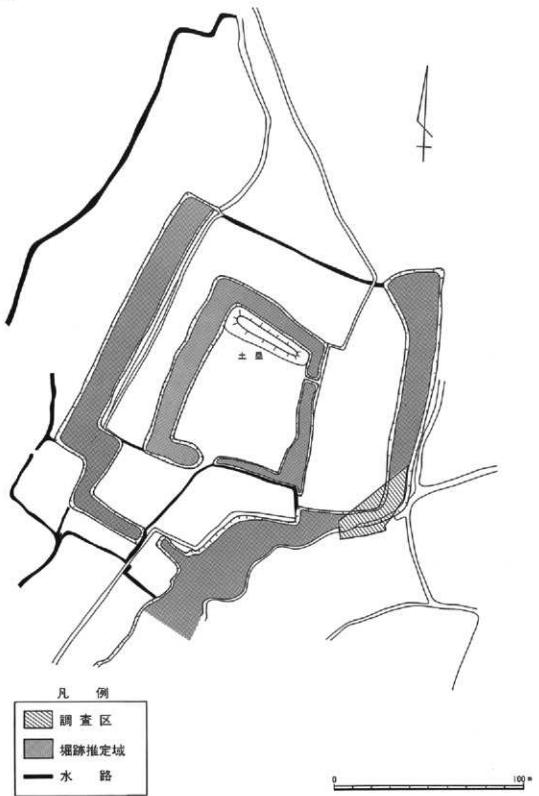
3まとめ

今調査の結果、飯塚館跡の規模は調査部分が南東角の一部分のみであった為、第74図の推定図より推し測るしかないが、範囲を外堀跡まですると、東西約170m・南北約180m・面積30,600m²で、主郭の大きさは東西約80m南北約60mを測ると思われる。また、全容は主郭の北側に土塁を築き、それらを囲む内堀があり、その外側に自然地形を利用した曲輪を設置し、その外側に外堀を築いていると思われる。

造営方法については、限られた調査区の曲輪部分に深掘りトレンチを入れて確認したが、土盛り工事の形跡は無く、自然地形を利用してしていると思われる。

遺構は、曲輪上に柵跡、曲輪直下の溝跡及び外堀跡が確認できた。しかし、遺物は平安時代の物が多く、本遺跡の時代にかかるものが希薄であった。しかも、この館跡に関する詳細な文献や資料が無いために歴史・年代等は特定出来なかった。但し、館跡の近隣に南原遺跡、堂ノ下遺跡という古墳へ平安時代の遺跡があることから、館跡となる以前にその時代の集落跡が存在していたと考えられる。

飯塚館跡の未だ調査されていない、主郭の北側に現存する土塁、内堀跡が良好な状態で遺存されており、西側の外堀跡も水田の畦畔に確認できることより、今後の調査を待ちたい。



第744図 飯塚館跡推定図(S=1:200)

第VII章 総 括

本書は、一般国道13号米沢南陽道路改築工事にかかる、南原遺跡、堂ノ下遺跡、飯塚館跡の発掘調査報告である。現地調査は、平成4年6月から10月までおこなった。以下三遺跡の要点と今後の課題をまとめて総括とする。

南原遺跡: 遺跡は、古墳時代の集落跡及び奈良時代の集落と生産造構を含む複合遺跡である。両時代とも、ほぼ同じ確認面で遺構が検出された。出土遺物は70種を数える。

古墳時代の遺構には竪穴住居跡、土壙等がある。竪穴住居跡には焼失家屋も含まれており、一括資料にも見られた。出土遺物は土師器主体で、須恵器は稀少である。時期は土師器の形態から南北朝式の最も新しい段階と併行する5世紀後葉頃と考えられる。当該時期については、引田式の型式名称の可否をめぐって論ぜられていることでもあり、器種組成等詳細な分析を必要とするところであるが、十分な検討を成し得なかつたことは遺憾である。また製鐵遺構に関しては、周辺の関連するであろう遺構からの出土遺物では操業時期を導き出すことができず、製鍊炉の形態に頼らざるを得なかつた。一方S G41河川跡から出土した遺物の中で、器台や壇、複合、有段口縁壺等を含む一群は、断片的ながら、塗釜式第II、第III段階に併存するものと考えられ、今次調査区と遺跡全体の再考が課題となる。

堂ノ下遺跡: 遺跡は奈良時代の集落跡である。調査区の南東側は旧河床にあたり、遺跡の広がりはなく、中心は北西側にあると考えられる。検出された遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙等である。竪穴住居とした3棟の内2棟は、主軸となる方向が長い方形を呈し、カマドはやや西に寄る。主柱穴は明確でない。竪穴住居跡内を主に2箱の遺物が出土している。その大半は土師器で占められるが、古墳時代まで遡り得るものは認められない。資料の数に制約があるものの、土師器壺、壺、須恵器壺の特徴から、概ね奈良時代後半の所産と考えられる。

飯塚館跡: 30,600m²の遺跡範囲の内、1,270m²の調査面積のため、遺跡の全容は知り得ないものの、今次調査で外形の一端を明らかにすることができた。即ち、曲輪の周囲には幅10mを有に超える堀が残らせてあること、調査部分に関しては土塁を築いた痕跡が認められなかつたこと、柵列等の施設が設けられた可能性が高いこと。盛土等の整地は認められないと。周辺の踏査から、主郭は方形を呈し、二重に堀が巡ること。今次調査区には、本丸東曲輪の南東側と外堀があることなどがあげられる。出土遺物は土師器、須恵器等が1箱で、館跡の時期決定に有力な資料は得られていない。しかしこれらの遺物は、館跡のみならず、奈良～平安期の集落跡の存在を示唆するものである。したがって、今後何らかの形で調査におよぶ際には、館跡、集落跡両面からの調査が望まれると考えられる。

参考文献

- | | | |
|----------|---------------------------|--------------------|
| 山形県教育委員会 | 1986年 「不動大遺跡発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第10集 |
| 山形県教育委員会 | 1987年 「勿見台遺跡発掘調査報告書(2)」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第107集 |
| 山形県教育委員会 | 1989年 「櫛隈遺跡 2次発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第145集 |
| 山形県教育委員会 | 1990年 「勿見台遺跡 3次発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第146集 |
| 土佐聖彦 | 1984年 「耐候性陶器からみた伊勢の地形と発達」 | 『季刊考古学』第8号 |
| 穴吹義功 | 1984年 「製鉄跡からみた近畿の生鐵の開拓」 | 『季刊考古学』第8号 |
| | 1984年 「古河の小字名と地名の変遷」 | 『季刊考古学』第8号 |
| 山形県 | 1986年 「山形県史 第1卷」 | 雄山閣 |
| 南陽市 | 1990年 「南陽市史」上巻 | 雄山閣 |

報告書抄録

ふりがな	みなみはらいせき	どうのしたいせき	いいづかたてあとはくつちょうきほうこくしょ
書名	南原遺跡 堂ノ下遺跡 版塚跡発掘調査報告書		
副書名			
巻次			
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書		
シリーズ番号	第2集		
編著者名	伊藤邦弘 氏家信行		
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター		
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301		
発行年月日	西暦 1994年3月25日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみはら 南原	山形県東置賜 郡高畠町綿野目 字南原	6381	平成3年度 登録	37度 58分 5秒	140度 8分 10秒	19920608～ 19920925	10580	一般国道 13号米沢 南陽道路 改築工事
どうのし 堂ノ下	東置賜郡 高畠町綿野目 字堂ノ下	6381	平成3年度 登録	37度 58分 15秒	140度 8分 20秒	19920817～ 19921019	3430	同上
いいづかたて 版塚館	東置賜郡 高畠町綿野目 字版塚	6381	平成3年度 登録	37度 58分 20秒	140度 8分 28秒	19920918～ 19921030	1270	同上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南原	集落跡	古墳 奈良 平安	竪穴住居 掘立柱建物 製鉄遺構 井戸	33棟	須恵器、土師器、 紡錘車、砥石、 石製模造品		旧河川の両岸に開けた集落で古墳時代中期を中心とする。また5基の製鉄炉を検出。	
堂ノ下	集落跡	奈良	竪穴住居 掘立柱建物	3棟 1棟	須恵器、土師器		堀立川の西に広がる集落の東端の調査。	
版塚館	城館跡	中世	堀柵列	1条 1基	須恵器、土師器		曲輪の南東角の一部を調査。館に関する遺物は少ない。	

図 版



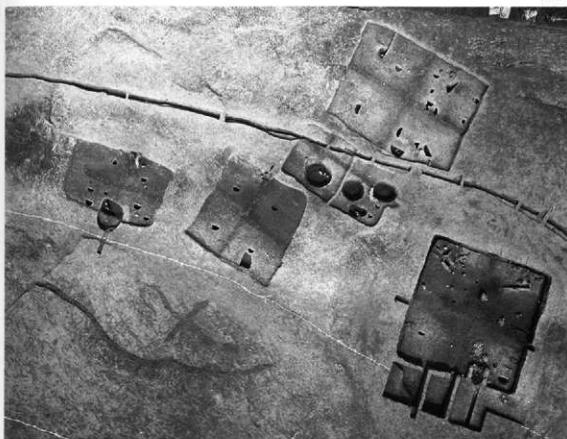
南原・堂ノ下 鮫塚館 空中写真



遺跡近景（東南から）



遺構検出状況（西から）



ST 3・4・5・6・7・8竪穴住居跡空中写真



ST 4 竪穴住居跡カマド（南から）



ST 8 竪穴住居跡カマド（東から）



ST 8 竪穴住居跡EP 3・RP25（南から）



ST 8 竪穴住居跡炭化材と遺物出土状況（東から）



ST15 竪穴住居跡発掘状況（北から）



ST15 竪穴住居カマド（北から）



ST15 竪穴住居跡EP2内RP13-14（東から）



ST11 竪穴住居跡（南から）



ST18 竪穴住居跡（南から）



ST19 竪穴住居跡発掘状況（南から）



ST20 竪穴住居跡発掘状況（西から）



ST21竪穴住居跡発掘状況（西から）



ST24竪穴住居跡発掘状況（南から）



ST25竪穴住居跡発掘状況（南から）



ST24竪穴住居跡カマド（北から）



ST25竪穴住居跡カマド（南から）



ST25竪穴住居跡RP3（南から）



ST25竪穴住居跡RP7（南から）



ST17・26竪穴住居跡（南から）



ST27竪穴住居跡（南から）



ST28竪穴住居跡（南から）



ST27竪穴住居跡カマド（南から）



ST30竪穴住居跡（北から）



ST28・31・32竪穴住居跡（南から）



ST31竪穴住居跡炉（南から）



ST34竪穴住居跡（南西から）



ST35竪穴住居跡（南西から）



ST36竪穴住居跡（北から）



ST33竪穴住居跡（南から）



ST38竪穴住居跡（北から）



ST33竪穴住居跡カマド（南西から）



ST38竪穴住居跡カマド（北から）



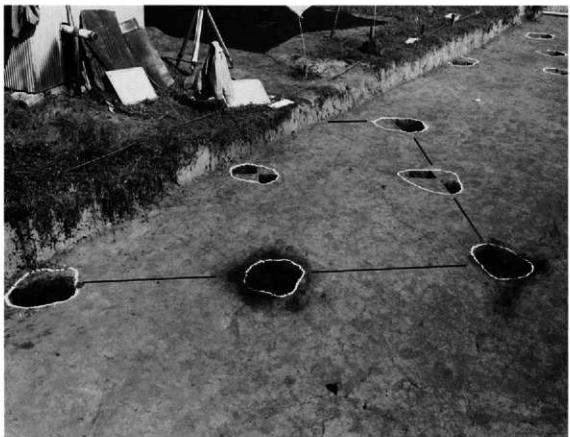
ST51竪穴住居跡カマド（北から）



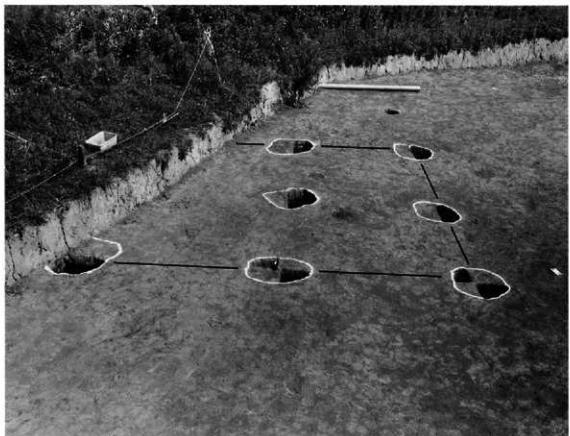
ST51・竪穴住居跡EK1（北東から）



ST51竪穴住居跡EK2（北から）



SG41河川跡出土状況（南から）



SG41河川跡土層断面（東から）



SB61据立柱建物跡（南から）



SB62据立柱建物跡（南から）



SQ71断面（南西から）



SQ72（北西から）



SQ71（北西から）



SQ72（南西から）



SQ71・72発掘状況（北西から）



SQ73断面（北西から）



EK74断面（北西から）



SQ73（北西から）



EK74（北西から）



SQ73・EK74発掘状況（北西から）



EU39・40埋設遺構土層断面（西から）



EU39・40埋設遺構完掘状況（西から）



SE60井戸跡土層断面（西から）



SE60井戸枠（西から）



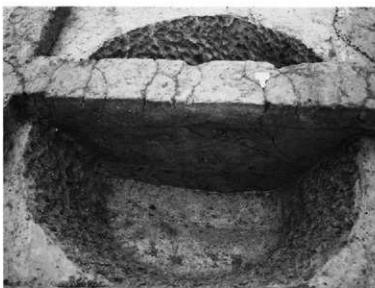
SD42溝跡（南東から）



SK103土壤（西から）



SK106土壤土層断面
(西から)



SK107土壤土層断面
(西から)



SK108土壤土層断面
(西から)



SK101土壤 RP1（南から）



SG41河川跡掘り下げ状況（西から）



SK113土壤（北から）



調査説明会風景

図版22



南原遺跡空中写真

図版23



南原遺跡空中写真（北東から）



14

ST4・6・7竪穴住居跡出土遺物



15

ST6・7竪穴住居跡出土遺物



16



17



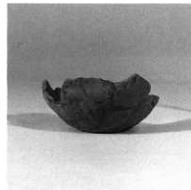
18



19



20



21



22



23



24



25



26



27

ST8竪穴住居跡出土遺物 (1)



28



29



30



31



32



33



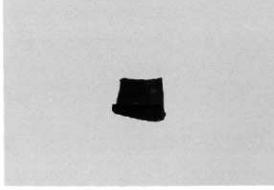
34



35

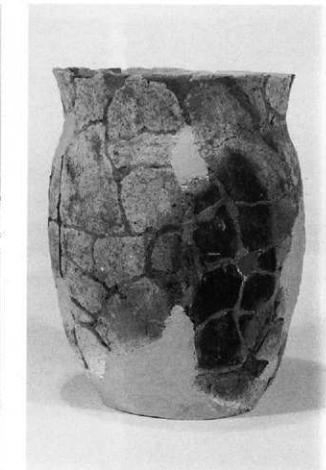
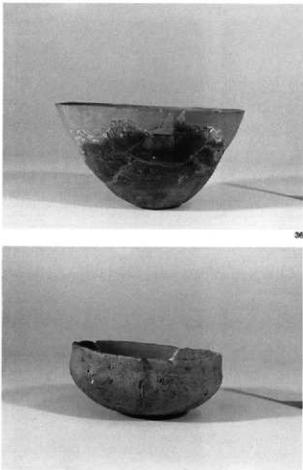


36



37

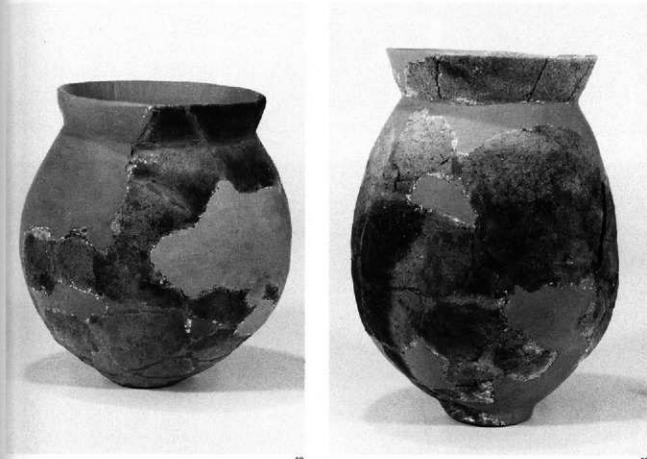
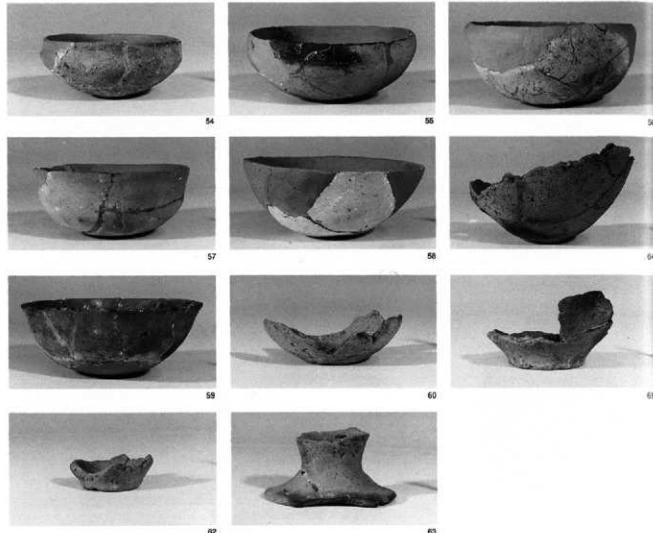
ST8竪穴住居跡出土遺物 (2)



ST8・15堅穴住居跡出土遺物



ST15堅穴住居跡出土遺物



ST19竪穴住居跡出土遺物（1）

66



67



70

ST19竪穴住居跡出土遺物（2）



72

ST20・21竪穴住居跡出土遺物

73



73

74



75

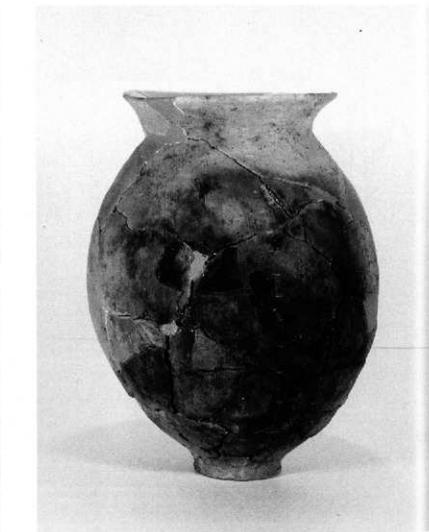


76

76



77



78



79



80



81



82



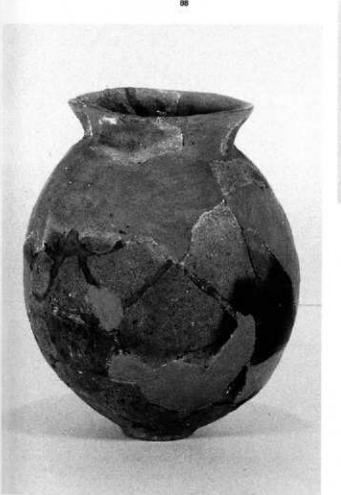
83



84



85



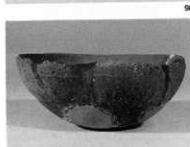
86



87



88



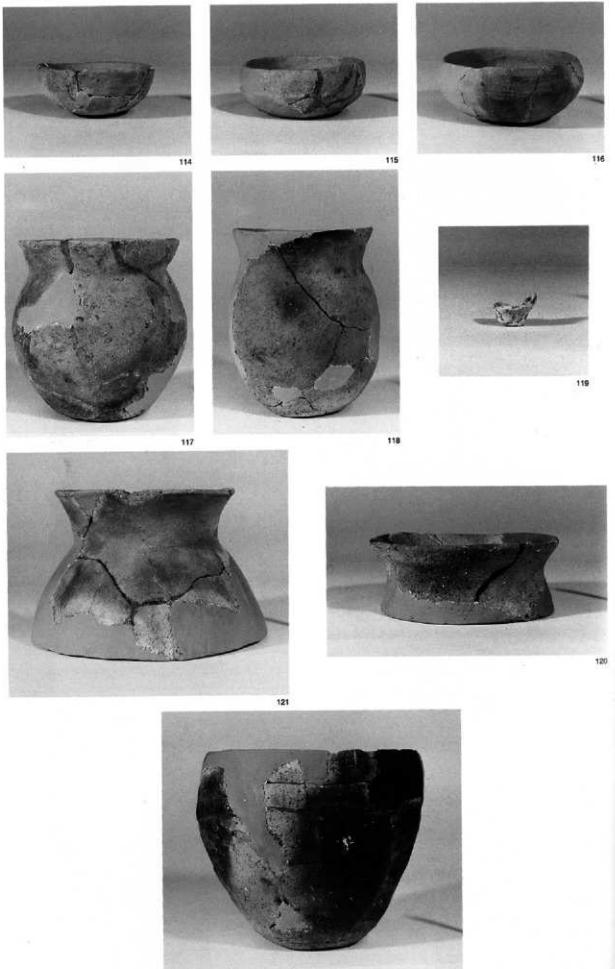
102 103 104 105

ST24・25竪穴住居跡出土遺物

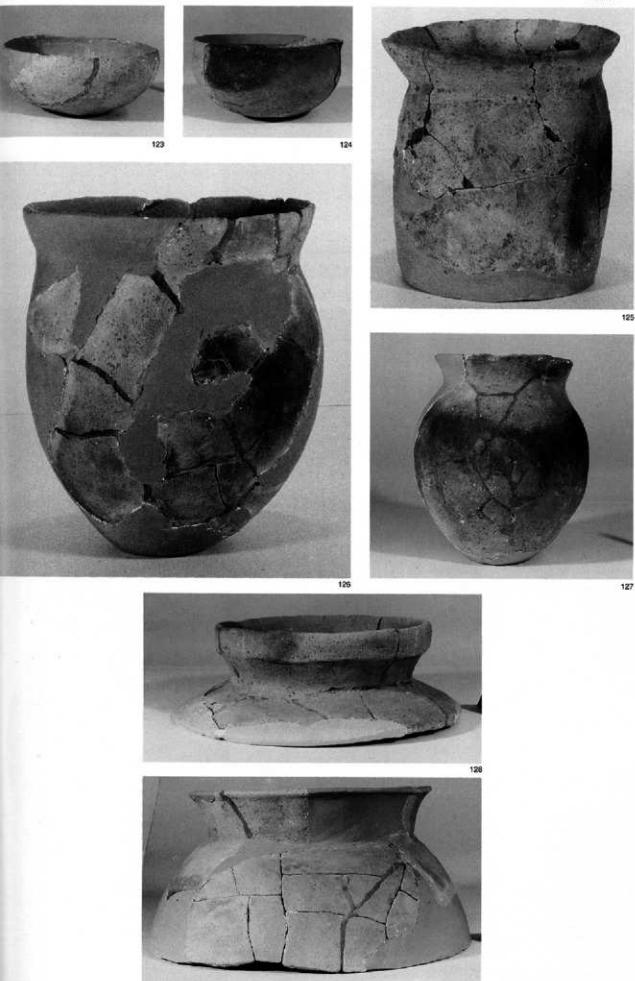


112 113

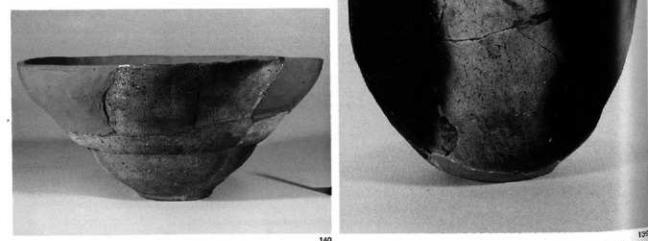
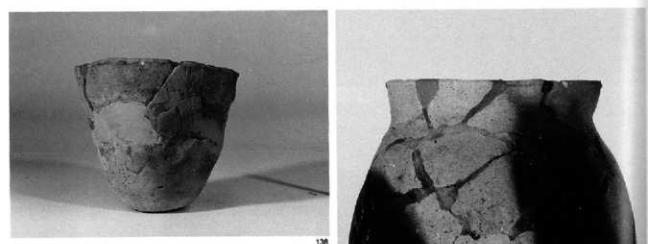
ST25竪穴住居跡出土遺物



ST27竪穴住居跡出土遺物



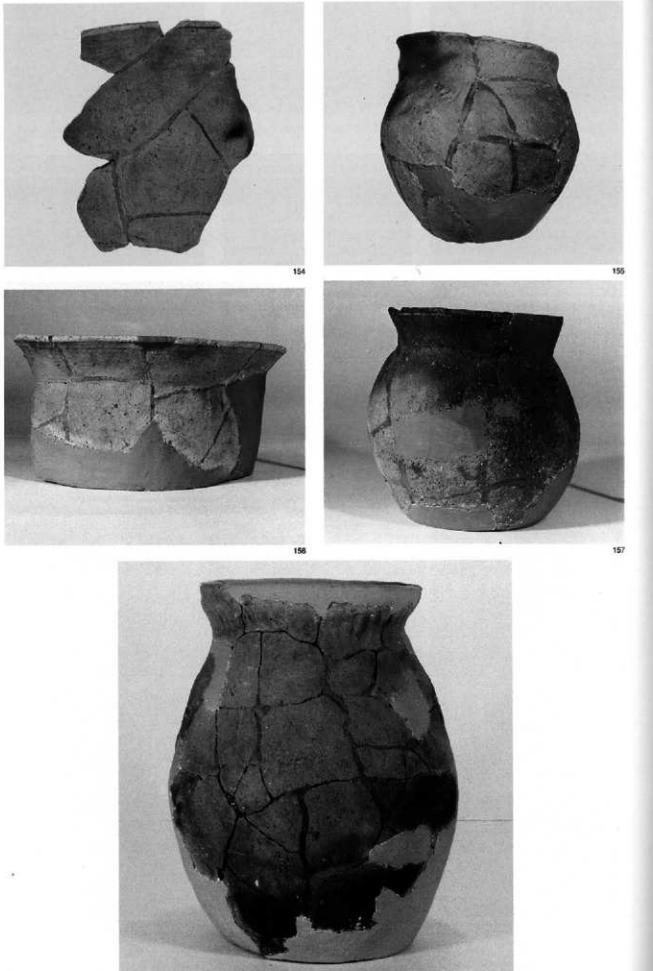
ST33・38竪穴住居跡出土遺物



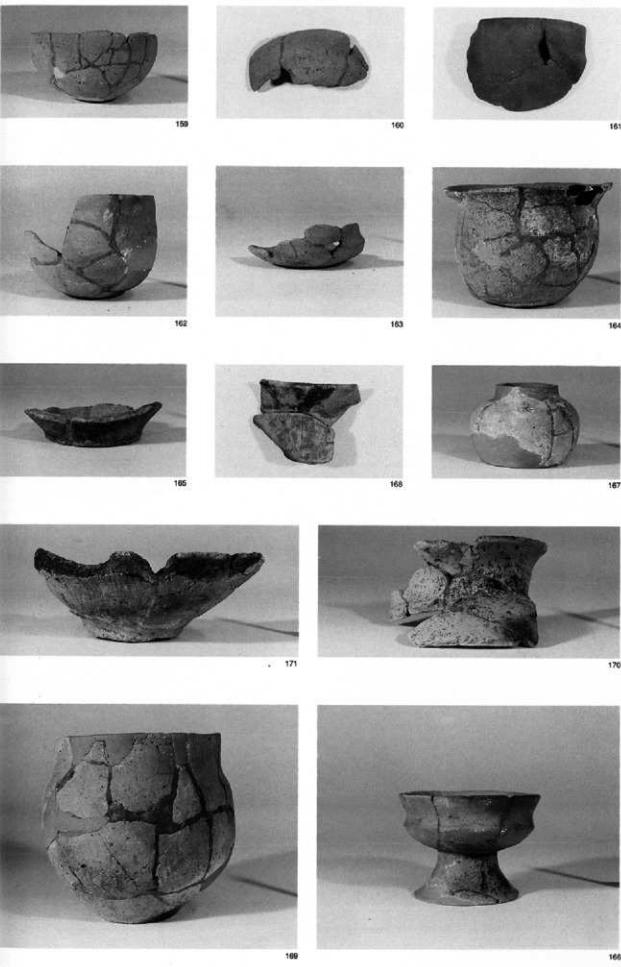
ST51竪穴住居跡出土遺物



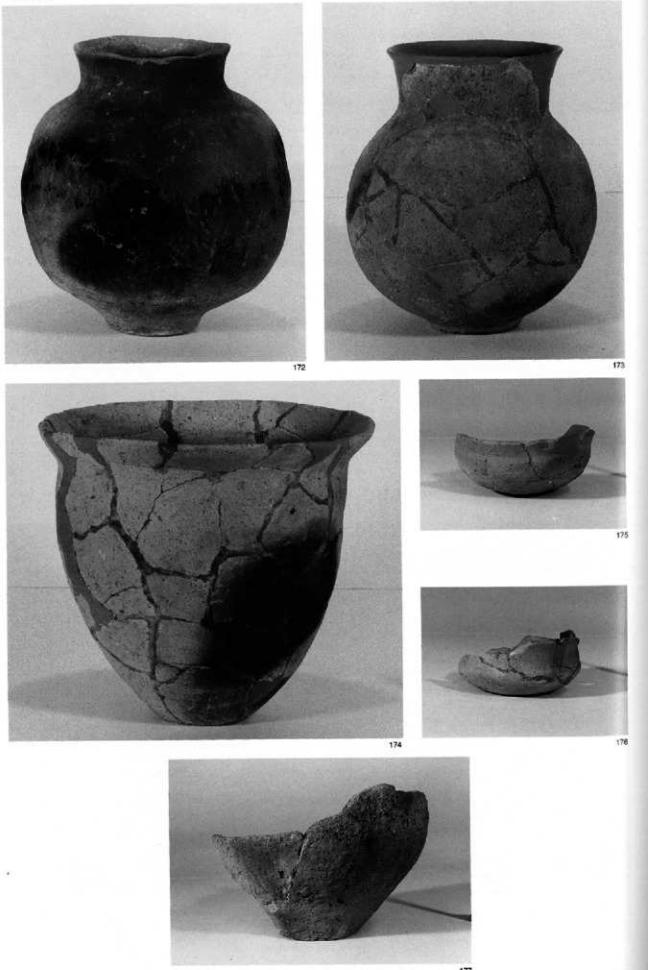
ST52竪穴住居跡出土遺物（1）



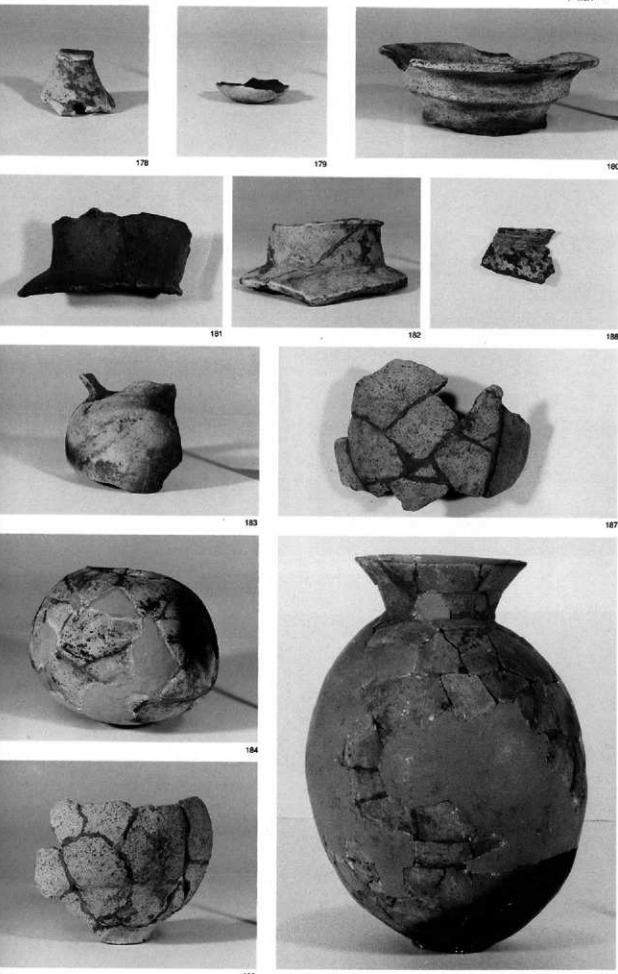
ST52竪穴住居跡出土遺物（2）



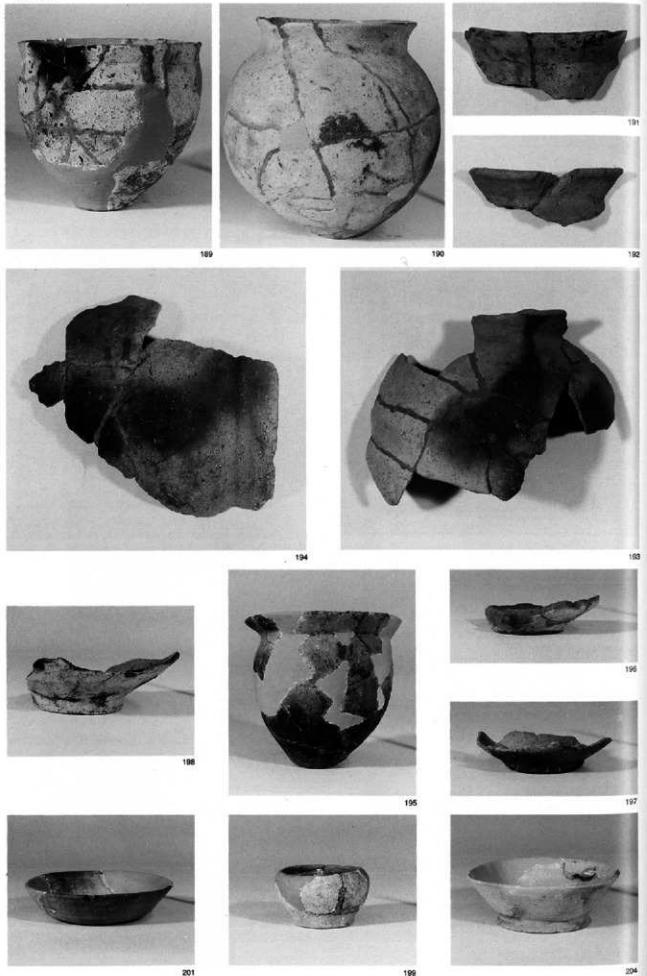
SQ・EK出土遺物



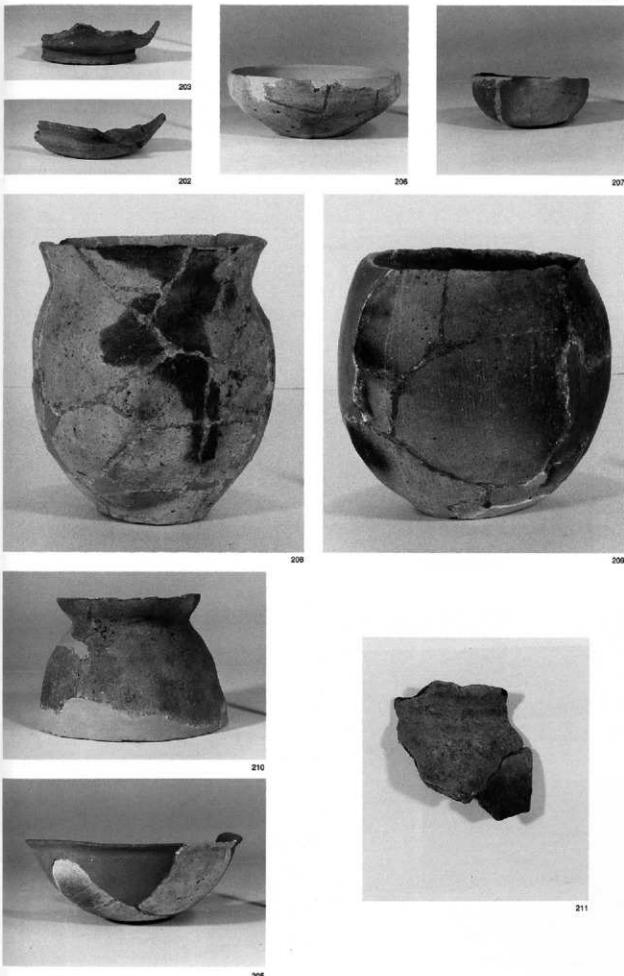
EU・SK出土遺物



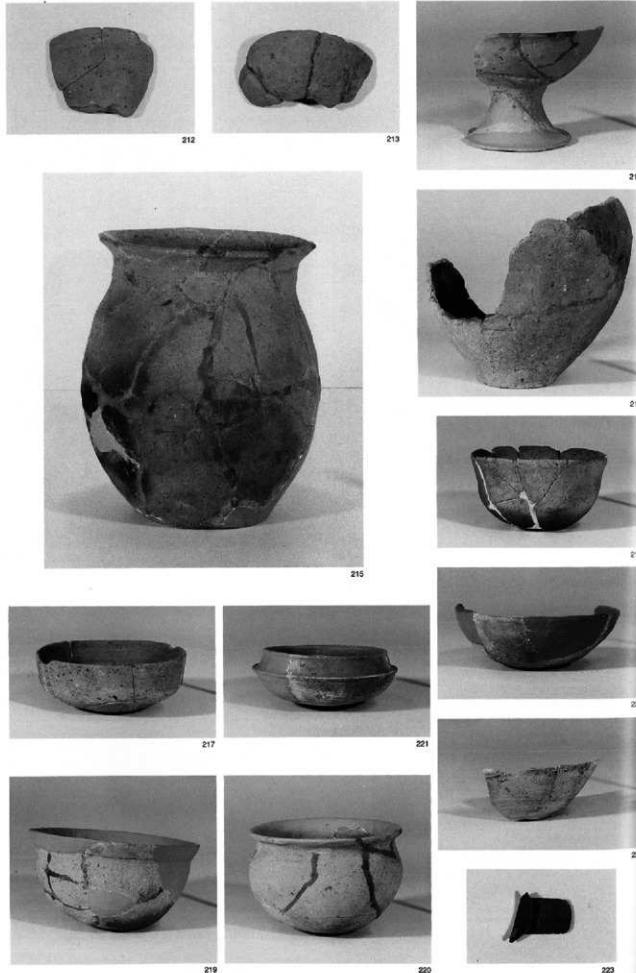
SG41河川跡出土遺物(1)



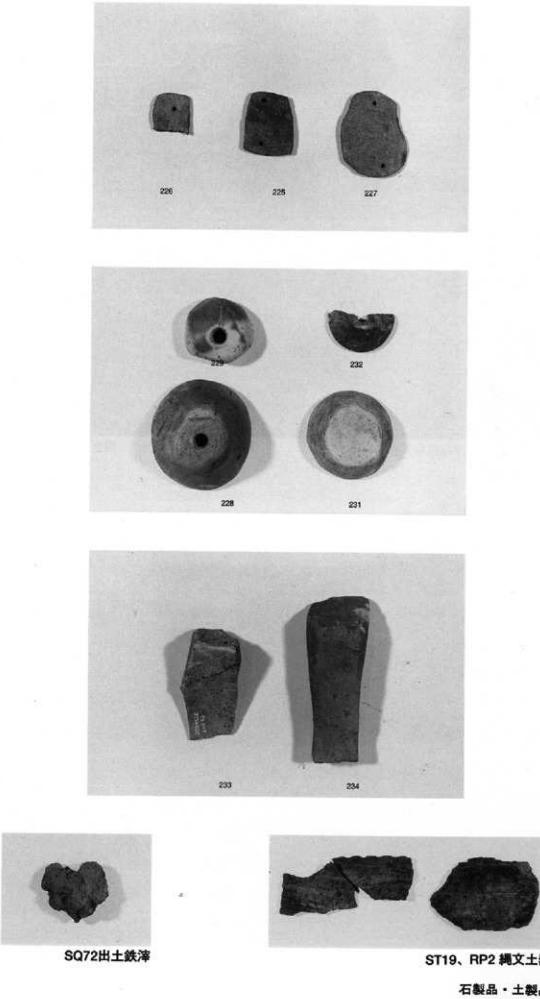
SG41河川跡出土遺物(2)



SG41河川跡・土壤出土遺物



SK・SX出土遺物





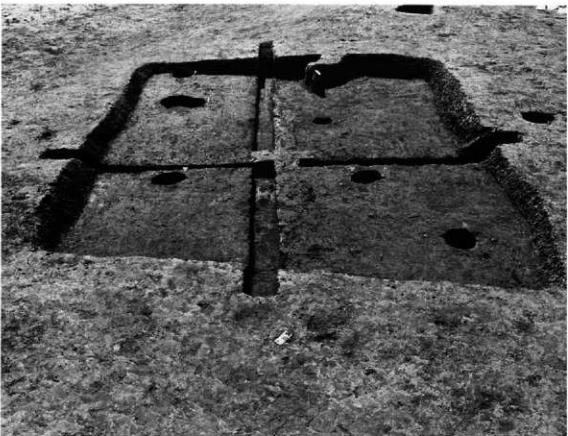
調査区近景（西から）



遺構検出状況（南西から）



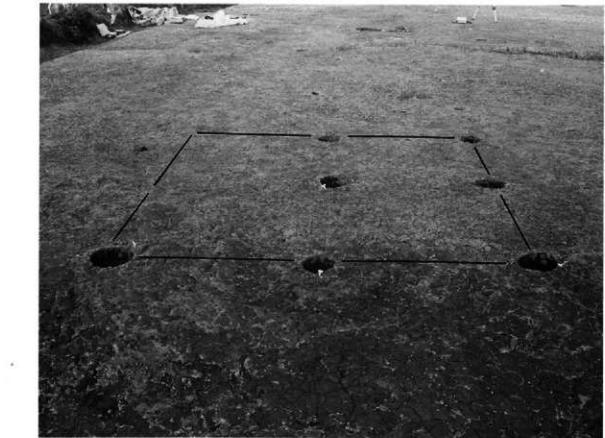
ST 1 坪穴住居跡完掘状況（東から）



ST 2 坪穴住居跡完掘状況（東から）



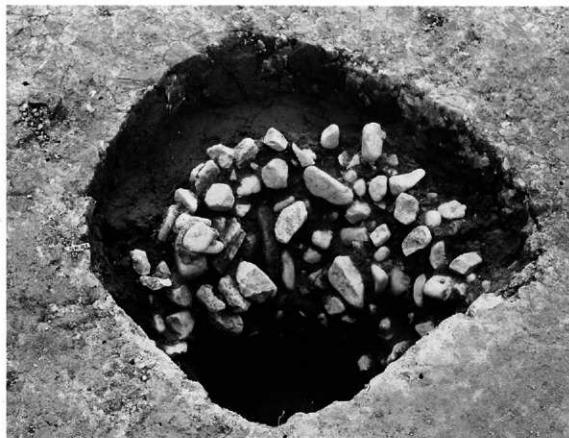
ST3 穫穴住居跡発掘状況（南から）



SB11 捅立柱遺物跡発掘状況（西から）



SK21 土壌土層断面（東から）



SK21 土壌発掘状況（東から）



SK22土壤完掘状況（南から）



ST 3 堪穴住居跡EPI完掘状況（北東から）



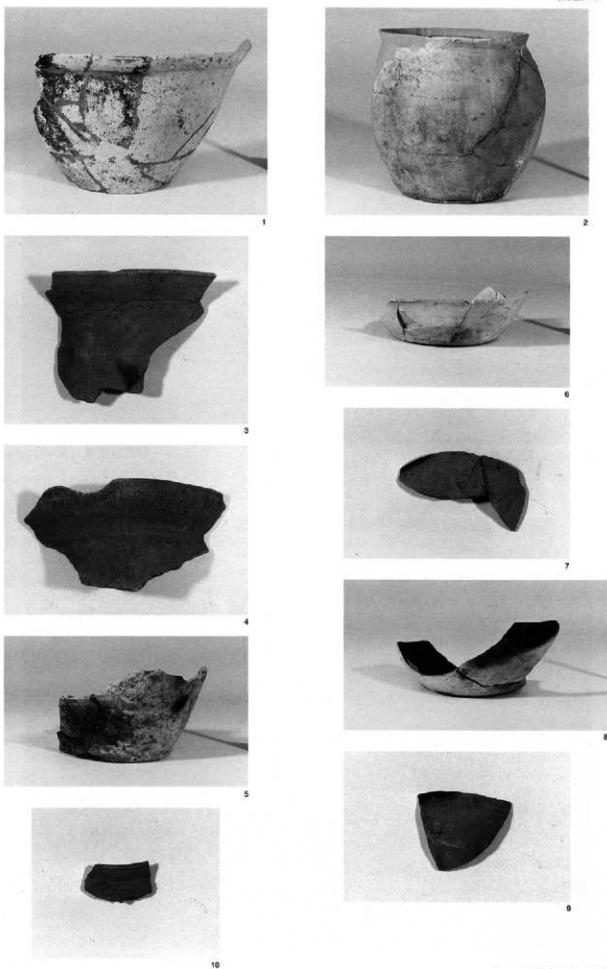
SK23土壤完掘状況（南から）



調査風景（南から）



堂ノ下遺跡俯瞰写真（東から）



堂ノ下遺跡出土遺物



調査区近景（東から）



堤跡東側土層断面（西から）



遺構検出状況（南から）



基本層序・SD 3 溝跡土層断面（東から）



SA 1 横列跡 EP 1 土層断面（南から）



SA 1 横列跡 EP 2 土層断面（南から）



SA 1 横列跡 EP 3 土層断面（南から）



SA 1 横列跡 EP 4 土層断面（南から）



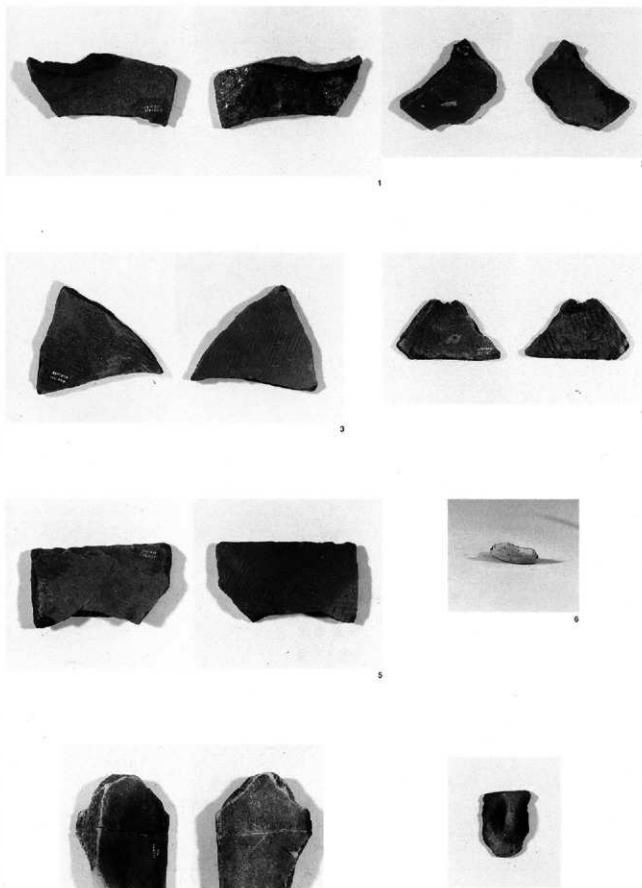
SA 1 横列跡完掘状況（東から）



飯塚館跡調査区空中写真



飯塚館跡空中写真



飯塚館跡出土遺物

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第2集

南原遺跡

堂ノ下遺跡

飯塚遺跡

発掘調査報告書

1994年3月25日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 0236-72-5301

印刷 株式会社 田宮印刷所
